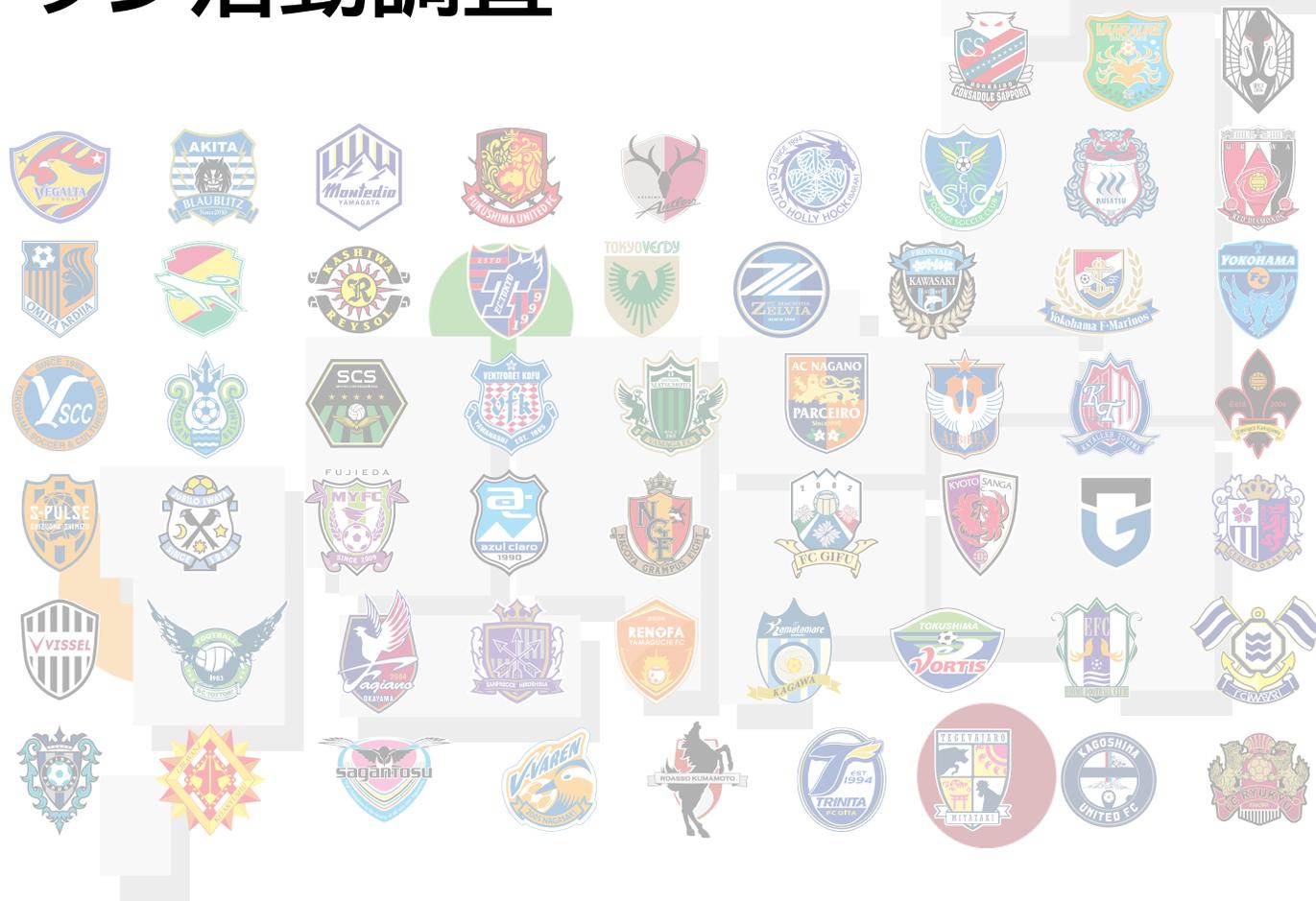




# Jリーグホームタウン活動調査 2021年版



## 2 特集～2021年～ SDGsと環境に対する取組

- 3 調査について
- 5 【SDGs】SDGsへの取組状況、宣言・パートナーシップ
- 6 【SDGs】各クラブの宣言など
- 15 【SDGs】特に力を入れているSDGsのゴール
- 16 【SDGs】SDGsを推進する代表的な取組
- 23 【環境】環境に関する取組
- 24 【環境】各クラブで行っている環境に関する活動
- 25 【環境】環境に関する特徴的な取組

## 35 Jリーグホームタウン活動調査 2021年

- 36 調査概要
- 38 57クラブ全体集計
- 39 57クラブ活動目的(クラブ別)
- 40 SDGsへの取り組み詳細(57クラブ全体)
- 41 ホームタウン活動 クラブ別紹介



# 調査について

## 調査方法

- 全58クラブへのアンケートを実施

※ 2022シーズンJ3リーグ昇格のいわきFCを含む

## 対象期間

- 2021年1月～12月

## アンケート内容

### ■1. SDGsに対する取組

- 貴クラブではSDGsについて、クラブとして取り組んでいますか？
- クラブとしてSDGsに取り組む旨を宣言していたり、パートナーシップの締結などをされていますか？
- 各クラブの宣言について
- クラブとして特に力を入れているSDGsのゴール
- SDGsを推進する代表的な取組

### ■2. 環境に関する取組

- 各クラブで行っている環境に関する活動



# 1. SDGsに対する取組

シャレン！がスタートした2018年当時、日本におけるSDGsの認知度は15%弱でした。

(電通:第1回SDGsに関する生活者調査)

今や「SDGs」という言葉を聞かない日がないくらい世の中に浸透し、この数年で多くの企業が取り組むようになりました。

(電通:第4回SDGsに関する生活者調査では認知度54.2%)

地域とともに歩むJクラブも例外ではありません。

国連は、SDGsの17項目それぞれの達成に向けた課題に取り組む潜在的能力を備えた重要、かつ強力なツールとして、スポーツがその役割を果たすことを期待しており、Jクラブが取り組むことでファン・サポーターだけでなく、地域の方も参加しやすくなったり、自分ごととしてとらえやすくなるきっかけになります。

また、Jクラブのパートナー企業・スポンサー企業にとっても、ともに推進する仲間として期待されていることがうかがえます。

ここ数年、パートナーシップや宣言など、SDGsに本格的に取り組むクラブが増えており、その取り組みも調査しました。

※いわきFCを含む58クラブを対象に調査

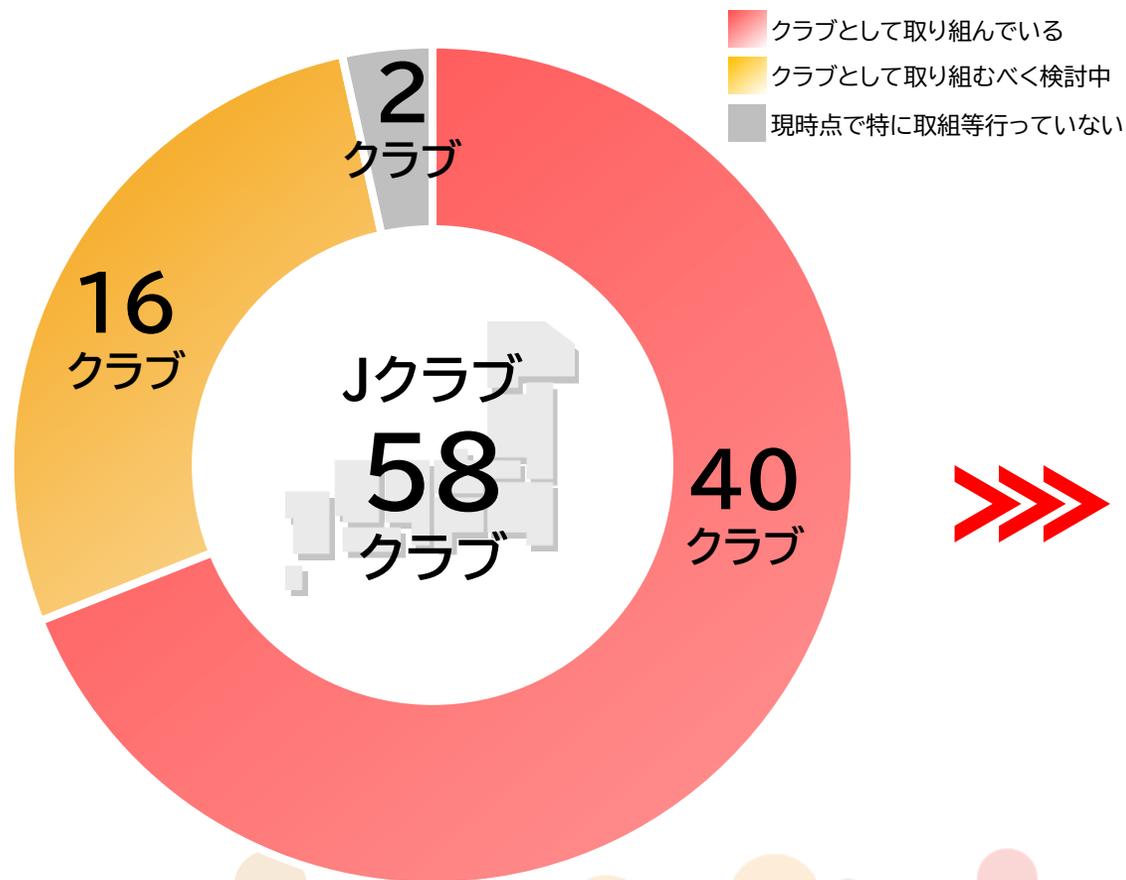


## 【SDGs】

### ①SDGへの取組

すでに取り組んでいるクラブが40、検討しているクラブが16と、ほとんどのクラブがSDGsについて取り組んでいることがわかります。

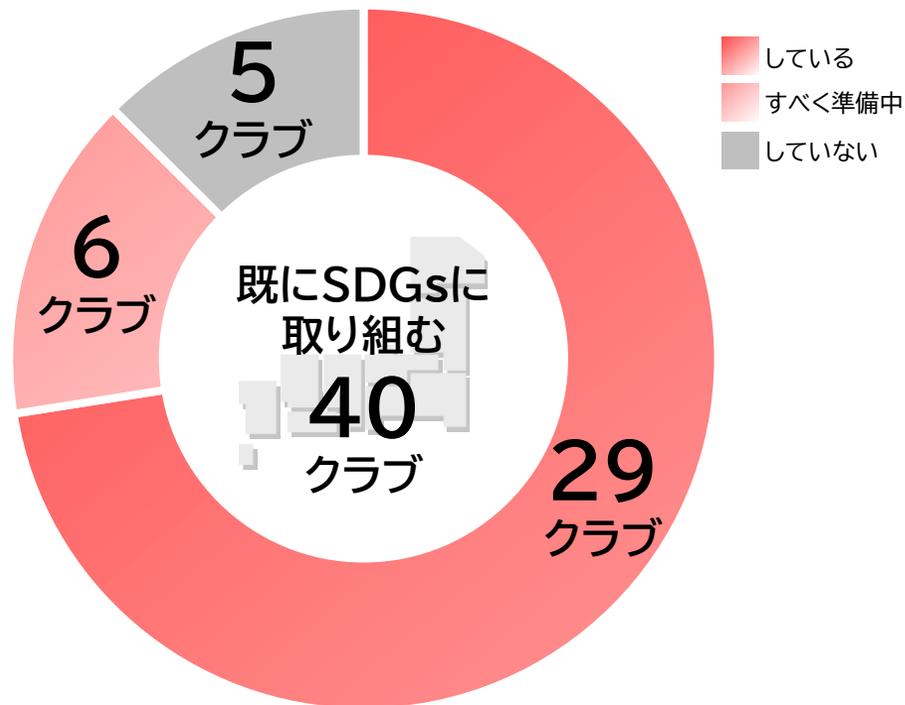
[貴クラブではSDGsについて、クラブとして取り組んでいますか？]



### ②SDGsについての宣言・パートナーシップ

すでにSDGsについて取り組んでいるクラブのうち、3分の2の29クラブが宣言やパートナーシップの締結などを行っており、対外的にも取り組んでいることがわかりやすくなっています。

[クラブとしてSDGsに取り組む旨を宣言していたり、パートナーシップの締結などをされていますか？]



# 【SDGs】

## ③各クラブの宣言など



北海道コンサドーレ札幌  
クラブHP

北海道コンサドーレ札幌SDGs  
プロジェクト「PASS」を発足  
～サポーター、企業、自治体とともに、  
北海道の未来をつくる新たな一歩



いわてグルージャ盛岡  
クラブHP

SDGsへの取り組み



ベガルタ仙台  
クラブHP

ベガルタ仙台SDGs基本指針



# 【SDGs】

## ③各クラブの宣言など



ブラウブリッツ秋田  
クラブHP

ブラウブリッツ秋田 SDGs宣言



ブラウブリッツ秋田 SDGs宣言



ブラウブリッツ秋田は、日本サッカーリーグ「Sustainable Development Goals」のSDGsを「環境・社会・経済」の3つの柱として推進し、クラブの持続可能な発展を推進していきます。  
クラブの持続可能な発展は、「環境・社会・経済」の3つの柱を「環境・社会・経済」の3つの柱として推進し、クラブの持続可能な発展を推進していきます。  
環境・社会・経済の3つの柱を「環境・社会・経済」の3つの柱として推進し、クラブの持続可能な発展を推進していきます。  
環境・社会・経済の3つの柱を「環境・社会・経済」の3つの柱として推進し、クラブの持続可能な発展を推進していきます。

秋田県SDGsパートナーについて

秋田県、ブラウブリッツ秋田は環境・社会・経済の3つの柱として推進し、クラブの持続可能な発展を推進していきます。  
秋田県、ブラウブリッツ秋田は環境・社会・経済の3つの柱として推進し、クラブの持続可能な発展を推進していきます。

SDGsとは



SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」であり、2030年までに達成を目指す17の目標です。  
SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」であり、2030年までに達成を目指す17の目標です。

ブラウブリッツ秋田が目指すSDGs達成に向けた重点ターゲット



いわきFC  
クラブHP

いわきFCのSDGsへの取り組み



REPORT



いわきFCのSDGsへの取り組み

いわきFCは、「環境・社会・経済」の3つの柱を「環境・社会・経済」の3つの柱として推進し、クラブの持続可能な発展を推進していきます。  
いわきFCは、「環境・社会・経済」の3つの柱を「環境・社会・経済」の3つの柱として推進し、クラブの持続可能な発展を推進していきます。



鹿島アントラーズ  
クラブHP

「LIXILスペシャルマッチ  
～SDGs アントラーズと考えよう。地球のこと、  
未来のこと。～」開催について



ニュース

鳥栖戦 (11/27) 「LIXILスペシャルマッチ～SDGs アントラーズと考えよう。地球のこと、未来のこと。～」開催について

2021.10.20(木)



11月27日(土)に開催される「鳥栖戦(第13節)」の際には、鳥栖スタジアムにおいて、「LIXILスペシャルマッチ～SDGs アントラーズと考えよう。地球のこと、未来のこと。～」を開催いたします。  
このスペシャルマッチは、LIXILとアントラーズが協力して開催される特別な試合です。試合当日は、SDGsに関する様々な取り組みが紹介されます。  
このスペシャルマッチは、LIXILとアントラーズが協力して開催される特別な試合です。試合当日は、SDGsに関する様々な取り組みが紹介されます。

各イベントの詳細については、ウェブサイト「LIXIL」にてお知らせいたします。

■開催日時

2021年11月27日(土) 19:00開演

■会場

鳥栖スタジアム

■チケット

鳥栖戦(第13節) 19:00開演

■イベント内容

(1) 「アントラーズと考えるSDGs」トークショー







# 【SDGs】

## ③各クラブの宣言など



SC相模原  
クラブHP

### SDGs宣言



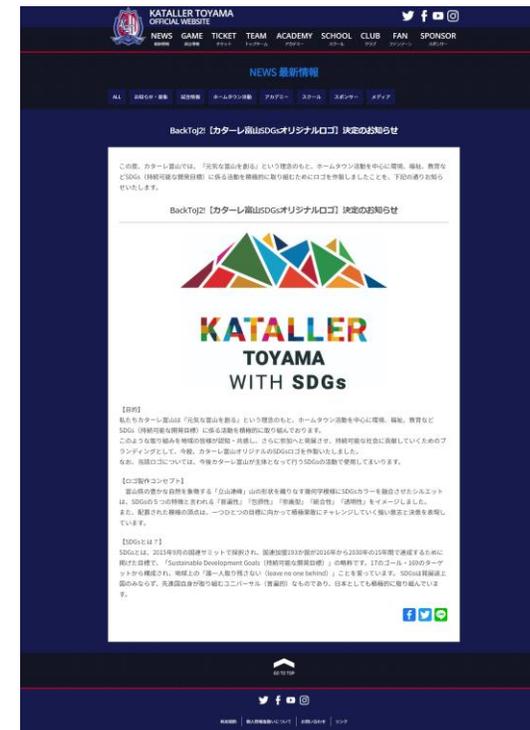
ヴァンフォーレ甲府  
クラブHP

### SDGsへの取り組み 一皆様と共に、未来へー



カターレ富山  
クラブHP

### BackToJ2!【カターレ富山SDGsオリジナルロゴ】決定のお知らせ



# [SDGs]

## ③各クラブの宣言など



ツエーゲン金沢  
クラブHP

### ツエーゲン金沢「ZWEIGEN SDGs TAKE ACTION 2021」開催のお知らせ

The screenshot shows the website's header with navigation links and social media icons. The main content area features a title 'ツエーゲン金沢「ZWEIGEN SDGs TAKE ACTION 2021」開催のお知らせ' and a sub-header 'SDGs 2021'. Below this, there is a section for 'ZWEIGEN SDGs TAKE ACTION 2021 開催概要' with a list of bullet points. A 'SUSTAINABLE GOALS' section displays the 17 SDG icons. At the bottom, there is a 'ZWEIGEN SDGs TAKE ACTION 2021' logo and a search bar.



清水エスパルス  
クラブHP

### SDGsへの取り組み

The screenshot shows the website's header with navigation links. The main content area features a title 'SDGsへの取り組み' and a sub-header 'クラブ'. Below this, there is a section for 'SDGsへの取り組み' with a paragraph of text. A 'S-PULSE SDGs ACTION' logo is displayed with the tagline '地域と共に未来につなぐ'. Below the logo, there is a 'S-PULSE SDGs ACTION' logo and a search bar.



ジュビロ磐田  
クラブHP

### ホームタウンレポート「ジュビロ磐田コラボ SDGsとフットゴルフ」ツアー実施報告

The screenshot shows the website's header with navigation links. The main content area features a title 'ホームタウンレポート' and a sub-header 'Jubilo LOG'. Below this, there is a section for 'ホームタウンレポート' with a paragraph of text and a photo of a group of people. Below the photo, there is a 'ホームタウンレポート' logo and a search bar.

# 【SDGs】

## ③各クラブの宣言など



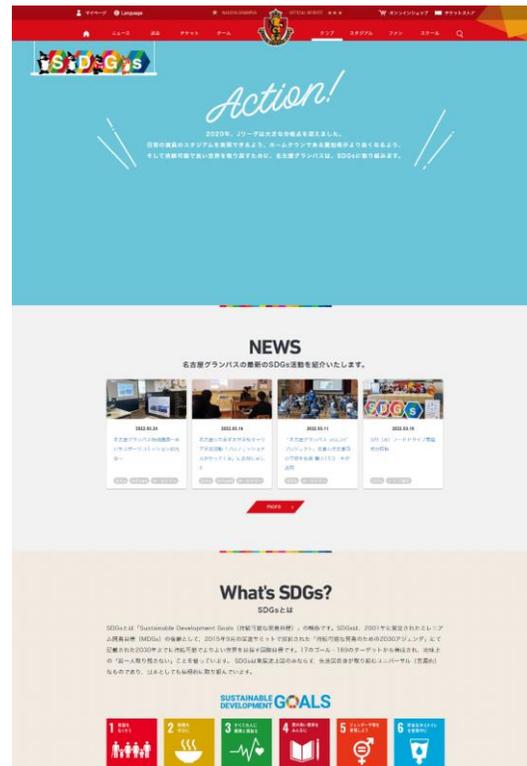
アスルクラロ沼津  
静岡新聞

環境保護目指し協定  
サッカーJ3沼津と第一生命



名古屋グランパス  
クラブHP

Action!



FC岐阜  
クラブHP

SDGsの取り組み



# 【SDGs】

## ③各クラブの宣言など



ガンバ大阪  
クラブHP

### ガンバ大阪SDGsプロジェクト



サンフレッチェ広島  
クラブHP

### サンフレッチェ広島 SDGs宣言



レノファ山口FC  
クラブHP

### レノファ版ESG/SDGs「ぶちエコスタジアム」 9・11開幕！ ～プチからぶちへ エコ活動に レノファをつかおう！～



レノファ版ESG/SDGs「ぶちエコスタジアム」9・11開幕！  
～プチからぶちへ エコ活動にレノファをつかおう！～

| 開催日時       | 開催場所      |
|------------|-----------|
| 2022年9月11日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月12日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月13日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月14日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月15日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月16日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月17日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月18日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月19日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月20日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月21日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月22日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月23日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月24日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月25日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月26日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月27日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月28日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月29日 | レノファスタジアム |
| 2022年9月30日 | レノファスタジアム |

# 【SDGs】

## ③各クラブの宣言など



V・ファーレン長崎  
クラブHP

【SDGs】ホーム戦でのSDGsへの取り組みについてお知らせ



鹿児島ユナイテッドFC  
クラブHP

鹿児島ユナイテッドFCを  
通して見るSDGs

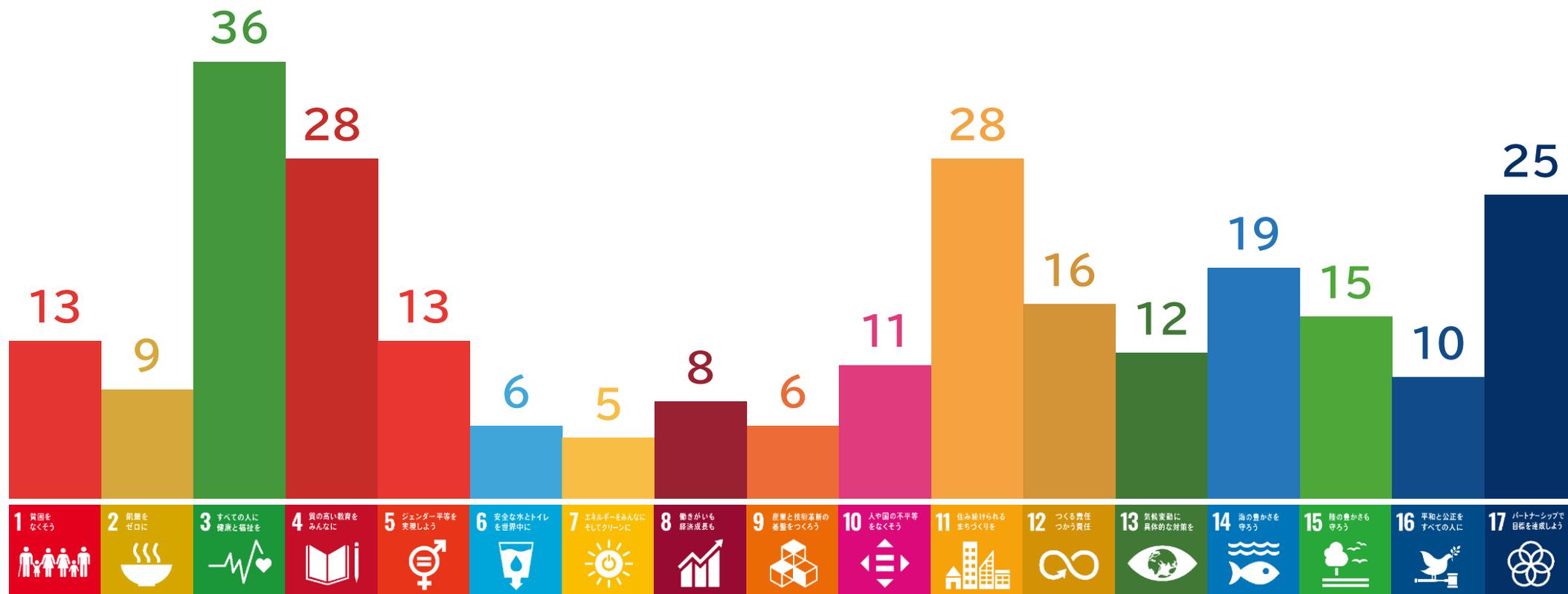


## 【SDGs】

### ④特に力を入れているSDGsのゴール

サッカークラブとして最も得意な分野である「3」、学校での活動も多いことから「4」、クラブがサステナブルであるためには、地域がサステナブルである必要を感じているからこそ「11」、多くのパートナーとともに取り組んでいる実態を反映する「17」を挙げるクラブが多い。力を入れていることを明らかにすることで協働者を見つけやすくする効果があるように思われる。

[クラブとして特に力を入れているSDGsのゴール]



# 【SDGs】

## ⑤SDGsを推進する代表的な取組



円山動物園並びに  
バードライフインター  
ナショナル東京との間で  
行った環境に関する学びの場の提供



北海道コンサドーレ札幌

グルージャ  
ごみゼロプロジェクト



いわてグルージャ盛岡

防災サッカー教室



ベガルタ仙台

ブラウブリッツ  
健幸プロジェクト



ブラウブリッツ秋田

パートナー企業様を  
一冊にまとめた冊子  
「WALK WITH」に  
「LIMEX (※)」を採用



いわきFC



※【LIMEX】  
株式会社TBMが  
開発・製造する素材で、  
石灰石を原料とし、紙・  
プラスチックの代替と  
なる持続可能な社会に  
貢献する日本発の革新  
的新素材として、世界  
からも注目

# 【SDGs】

## ⑤SDGsを推進する代表的な取組

環境に配慮された  
カネカ生分解性ポリマー  
「Green Planet」製の  
ストローやスプーンを採用  
アップサイクル製品の展示



鹿島アントラーズ



栃木SC

こどもの貧困をなくす  
「栃木SCツナガルプロジェクト」  
「経験の格差」を埋めるため、  
ひとり親世帯のホームゲーム招待事業を実施



新型コロナウイルスの影響で  
深刻化した課題に取り組む  
休眠預金を活用した事業  
『このゆびとまれっず！』



浦和レッズ



手話応援



大宮アルディージャ



ウォーキング  
フットボール大会の開催



ジェフユナイテッド千葉



# 【SDGs】

## ⑤SDGsを推進する代表的な取組

(知的障がい者対象)  
あおぞらサッカー教室



FC東京



東京ヴェルディ

『SDGs<sup>2</sup>スタジアム2021  
online』開催報告



放置竹林の現状を把握する探索  
ツアーと楽しみながら課題に向き合う  
竹灯籠づくりを実施



FC町田ゼルビア



海にゴミは行かせない！  
**LEADS TO THE OCEAN**  
試合日のスタジアム周辺のゴミ拾い活動



横浜F・マリノス

※【LEADS TO THE OCEAN】  
日本財団、NPO法人海さくら、賛  
同するプロスポーツチームによる、  
街からきれいにすることで海にゴ  
ミを行かせないプロジェクト



「夢で逢えたら」授業



横浜FC

# 【SDGs】

## ⑤SDGsを推進する代表的な取組

### 湘南オリーブ活動



湘南ベルマーレ



Y.S.C.C. 横浜

### 寿町健康福祉交流センター での自己啓発講座



### 相模原市小学校 体育授業サポート事業



SC相模原

### 甲府市内の 就労支援施設との SDGsタグ製作



ヴァンフォーレ甲府



松本山雅FC

### 松本山雅のレディースU-15や 地域の女子選手に向け フェムケア(※)に関する講習



※Feminine(女性の)  
とケア(Care)を  
かけあわせた用語

# 【SDGs】

## ⑤SDGsを推進する代表的な取組

Be supporters!  
支えられる人から支える人へ



カターレ富山



## Future Challenge Project

～共生社会実現に向けて～



ツエーゲン金沢



ジュビロ磐田

## ジュビロ磐田コラボ SDGsとフットゴルフ



## グランパスSDGs アカデミー



名古屋グランパス



アスルクラロ沼津

## 千本浜クリーン作戦



清水エスパルス

## 静岡市シェアサイクル事業 PULCLE



# 【SDGs】

## ⑤SDGsを推進する代表的な取組

女子サッカーの  
普及活動



FC岐阜

スタジアム  
ゴミ分別活動



ガンバ大阪

竹の有効活用  
竹クラーベの製作



レノファ山口FC

ヴォルティス  
コンディショニング  
プログラム



徳島ヴォルティス

無人島の  
海ごみ拾い



FC今治



アビスパ福岡

アビスパ福岡×麒麟ビバレッジ  
エコチャレンジプロジェクト



# 【SDGs】

## ⑤SDGsを推進する代表的な取組

スタジアムから  
出たごみを  
循環させる取り組み



ギラヴァンツ北九州



V・ファーレン長崎  
SDGs推進  
キックオフミーティング



V・ファーレン長崎



ゴミ拾い



大分トリニータ



「フューチャーズ」  
を通して見るSDGs



鹿児島ユナイテッドFC



テゲバジャーロ宮崎  
子ども食堂×テゲバジャーロ宮崎  
愛あるごはんを届けよう！  
プロジェクト



FC琉球県産品  
応援プロジェクト



FC琉球



## 2. 環境に関する取組

環境省とJリーグは、2021年6月28日に連携協定を締結しました。

この協定締結を機に、環境省は全国に58(※2022年現在)のクラブがあるJリーグと連携し、各種環境政策を展開するとともに、Jリーグは地域に根差したSDGsの取組を、環境省の知見も活用して一層推進していくこととしています。

なお、この連携協定を締結する前から、各クラブはスタジアムを中心に様々な環境活動に取り組んできました。

当初はゴミ減量のための分別からスタートしたところが多かったですが、現在は多様なパートナーとともに様々な活動が行われています。

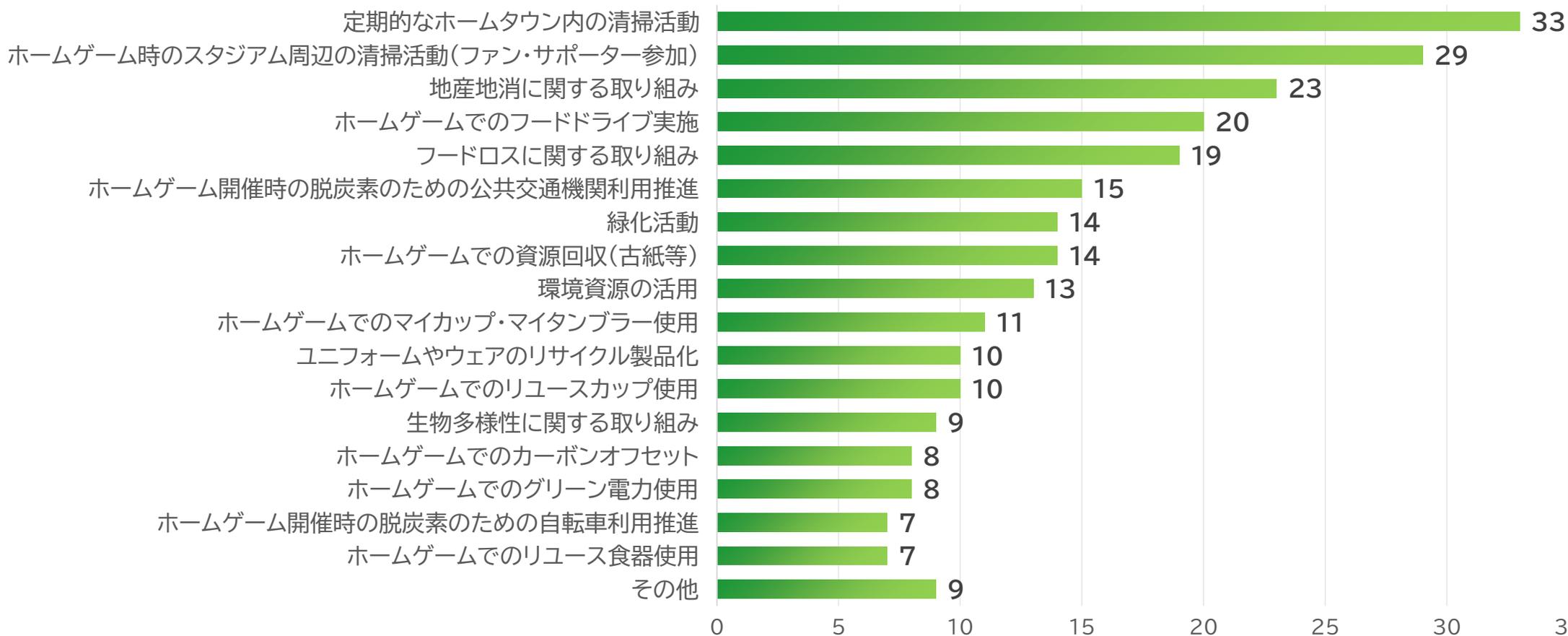
環境負荷の高いスポーツといわれるサッカーは、台風や豪雪といった気候変動の影響を多分に受けることもあり、

少しでも環境に負荷をかけないように何ができるのかを地域やパートナーの皆さんとともに考え、持続可能であるべく取り組んでいます。

## 【環境】

### ①各クラブで行っている環境に関する活動

多くのクラブが日常的な清掃活動や「LEADS TO THE OCEAN」に代表されるようなスタジアム周辺の清掃活動に積極的に取り組んでいる。また、スタジアムグルメや学校での食育という接点から、地産地消に関する取組やフードロスに関する取組を行うクラブも多い。コロナ禍で必要性の高まりもあり、フードドライブはスタジアムという場を活用できることから取り組むクラブが増えている。



【環境】

②環境に関する特徴的な取組

清掃活動

ひろえば街が  
好きになる運動



ヴァンラーレ八戸

ビーチクリーン作戦



いわてグルージャ盛岡



LEADS TO  
THE OCEAN



福島ユナイテッドFC

楽しくやろう  
CCAゴミ拾い部



FC東京



浦和区・浦和区自治会連合会  
「秋のごみゼロ運動(清掃活動)」  
へのクラブスタッフの参加



浦和レッズ



多摩市『令和3年度  
まち美化キャンペーン』参加



東京ヴェルディ



# 【環境】

## ②環境に関する特徴的な取組

清掃活動

三ツ沢小学校とフリ丸の  
三ツ沢周辺 清掃活動



海ごみゼロウィーク！  
長野Uスタジアム周辺  
ごみ拾い活動！



AC長野パルセイロ



美化活動  
「大池クリーン作戦」に、  
クラブの育成の選手たちが毎年参加



ジュビロ磐田

横浜FC



鳥取の自然環境を  
テーマにした  
『ちゅらふる』プロジェクト



ガイナレ鳥取

市内清掃



サンフレッチェ広島

# 【環境】

清掃活動

地産地消

## ②環境に関する特徴的な取組

ひろえば街が  
好きになる運動



テゲバジャーロ宮崎

ビーチクリーン活動



FC琉球



Y.S.C.C. ファームでの  
じゃがいも収穫祭



Y.S.C.C. 横浜



「湘南電力」との取組  
神奈川県内で発電された  
電力 特にグリーン電力を  
販売し、地産地消を推進



湘南ベルマーレ



徳島ヴォルティス

徳島県産の県産材を  
使用した自然にやさしい  
クラブハウスの建設



## 【環境】

### ②環境に関する特徴的な取組



カーボンオフセットLPガス  
を福島県内で初めて  
「いわきFCパーク」で導入



いわきFC

スタジアム内の  
照明をLEDに変更



柏レイソル



小瀬エコスタジアム  
プロジェクト  
リユースカップ・リユース食器の使用



ヴァンフォーレ甲府



SC相模原

産学連携でSDGsに取り組む！  
麻布大学と森のタンブラーによる、  
SC相模原でのマイタンブラー制導入



脱炭素

②環境に関する特徴的な取組

刈芝堆肥「芝～レ！」



カターレ富山



全力リデュース宣言



アスルクラロ沼津



スタジアムフーズ購入者へ  
ビニール袋渡しを  
紙袋に変更した取組み



ファジアーノ岡山



リユースカップの使用



大分トリニータ



ポリ袋から紙袋への移行



鹿児島ユナイテッドFC



【環境】

②環境に関する特徴的な取組

松本市環境政策課と連携  
環境問題に取り組んだ  
ブースを出展



松本山雅FC



アルビレックス新潟

【新潟県×アルビレックス新潟】  
灯油流出事故防止啓発ポスター  
に阿部航斗選手が起用！



COOLCHOICE啓発活動  
(静岡市連携事業)



清水エスパルス



京都市  
「DO YOU KYOTO？」  
大使としての啓発活動



京都サンガF.C.



ぶちエコやまぐち啓発  
マスコット「レノ丸」  
エコバージョン&ポスター製作



レノファ山口FC



東温市×愛媛FC  
『COOL CHOICE』



愛媛FC



②環境に関する特徴的な取組

宇都宮市の古賀志山  
保護ポスター制作活動



栃木SC

福島ひまわり  
里親プロジェクト



大宮アルディージャ

パートナー企業の協力による  
古紙・段ボール等の回収



FC町田ゼルビア

スタジアムでの不要な  
携帯電話回収事業



横浜F・マリノス

## 【環境】

生物多様性

環境教育

### ②環境に関する特徴的な取組

スタジアムにて試合前に  
生物保全に対する意識や  
環境に対する理解を深めるための  
野鳥観察会を実施



北海道コンサドーレ札幌

自然愛護・野鳥保護を目的に、  
「ギラン」のモチーフ  
“ズグロカモメ”が飛来する  
曽根干潟の清掃活動



ギラヴァンツ北九州



ロアッソ熊本

熊本市の生物多様性保護  
プロジェクトの一環である  
市民参加型セミの生態調査に参加



HPO富良野自然塾の  
環境教育プログラム



FC今治



海洋教育・第2弾  
伊王島(長崎市)で  
LTO活動を実施



V・ファーレン長崎



# 【環境】

フードロス

ゴミ分別

その他

## ②環境に関する特徴的な取組

スタジアムでの  
エコプロジェクト  
(ゴミ分別、紙リサイクル)



ベガルタ仙台



食品ロス低減のための  
食育・フードライブ実施



名古屋グランパス



海岸清掃



鹿島アントラーズ

モンテディオ山形  
未来の森活動



モンテディオ山形

# 【環境】

## ②環境に関する特徴的な取組

その他



### ecoプロジェクト



ブラウブリッツ秋田

### キッズECO工作



水戸ホーリーホック



### 2019多摩川”エコ”ラシコ



川崎フロンターレ



### 行政やスポンサー企業と連携した植樹活動



FC岐阜



### ツエーゲン金沢

### 不要なユニフォーム・ウェアの回収



## 調査概要 1/3

- 本調査は、2021年にJ1・J2・J3の57クラブが実施したホームタウン活動を、クラブからの報告に基づいて集計したものです。  
※いわきFCは除く
- 2016年版から下記の集計ルールを採用しています。
- クラブによるルール解釈・報告精度の違いを調整できていないため、あくまで参考値としてご覧ください。
- クラブにより、一部が異なるフォーマットで集計を実施しています。

| 期間  | 2021年1月1日から12月31日   |          |        |   |   |
|---|---|----------|--------|---|---|
| 場所  | ホームタウン及び活動区域内での活動を対象とする。また災害被災地への支援や国外等での社会貢献活動は、ホームタウンまたは活動区域外であっても対象とする。  |          |        |   |   |
| 活動者   | クラブ(株式会社、および関連する社団、NPOなど)に所属し、または直接の契約を有し、またはクラブを公式に象徴する、あらゆる者による活動を集計対象とする。 <table border="1"><thead><tr><th>対象とする(A)</th><th>対象としない</th></tr></thead><tbody><tr><td><ul style="list-style-type: none"><li>選手(トップ、女子、アカデミー)</li><li>監督、コーチングスタッフ(トップ、女子、アカデミー、普及、スクール)</li><li>クラブの役員、職員</li><li>アンバサダー、マスコット、公式チアチーム</li><li>エアゴールなど、クラブを象徴する備品の貸し出しは、集計対象とする</li></ul></td><td><ul style="list-style-type: none"><li>提携先の学校、クラブ、少年団等に所属する選手、監督コーチングスタッフ、役職員等</li><li>クラブの外部株主</li><li>外部の支援団体(自治体、町内会、商店会、企業、学校、サポーター、ボランティア等)で、(左記)の(A)が参加しない場合</li></ul></td></tr></tbody></table> | 対象とする(A) | 対象としない | <ul style="list-style-type: none"><li>選手(トップ、女子、アカデミー)</li><li>監督、コーチングスタッフ(トップ、女子、アカデミー、普及、スクール)</li><li>クラブの役員、職員</li><li>アンバサダー、マスコット、公式チアチーム</li><li>エアゴールなど、クラブを象徴する備品の貸し出しは、集計対象とする</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>提携先の学校、クラブ、少年団等に所属する選手、監督コーチングスタッフ、役職員等</li><li>クラブの外部株主</li><li>外部の支援団体(自治体、町内会、商店会、企業、学校、サポーター、ボランティア等)で、(左記)の(A)が参加しない場合</li></ul> |
| 対象とする(A)  | 対象としない  |          |        |   |   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>選手(トップ、女子、アカデミー)</li><li>監督、コーチングスタッフ(トップ、女子、アカデミー、普及、スクール)</li><li>クラブの役員、職員</li><li>アンバサダー、マスコット、公式チアチーム</li><li>エアゴールなど、クラブを象徴する備品の貸し出しは、集計対象とする</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>提携先の学校、クラブ、少年団等に所属する選手、監督コーチングスタッフ、役職員等</li><li>クラブの外部株主</li><li>外部の支援団体(自治体、町内会、商店会、企業、学校、サポーター、ボランティア等)で、(左記)の(A)が参加しない場合</li></ul>   |          |        |   |   |

## 調査概要 2/3 (活動内容)

| 対象とする  | 対象としない   |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>企業での講話、講演</li> <li>地域振興団体*への表敬訪問</li> <li>地域振興団体*主催の大規模パーティ、懇親会への出席</li> <li>豆まきへの参加(地域の催事への協力)</li> <li>スタジアムでのリユース食器利用や就労支援</li> <li>AEDボランティア</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>企業や店舗への表敬訪問、または商談</li> <li>地域振興団体*との事務的な協議</li> <li>一般的な、またはプライベートな食事会・懇親会</li> <li>必勝祈願(クラブの行事)</li> <li>ちらし等の配布、またはポスティング</li> <li>グッズ売り場での販売補助</li> <li>試合会場、トレーニンググラウンド(キャンプ地を含む)におけるファンサービス</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>社会貢献・地域貢献に関する取材対応</li> <li>地方振興団体*の広報への協力</li> <li>障がい者など、社会的弱者を試合に招待</li> <li>チャリティ目的の選手シートの設置</li> <li>クラブとしての寄付、及び物品寄贈</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツに関する取材対応</li> <li>一般的な試合招待事業</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>クラブと無関係の選手個人の活動</li> <li>巡回指導など、無償の普及活動</li> <li>サッカー以外のスポーツ振興活動</li> <li>介護予防事業</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>Jリーグ公式行事への参加</li> <li>クラブが主催する、支援者またはファン・サポーター向け行事への参加(ビジネスパーティ、入団会見、ファン感謝デー、ファン向けトークショーなど)</li> <li>研修やセミナーの受講</li> </ul>  |

・ 地域振興団体:自治体、商工会、青年会議所、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、経済同好会、商店会、自治会、及びその外郭団体。並びにクラブを応援する地域の集まり(ホームタウン連絡協議会など)。

\*\* 年間を通して毎日稼働する活動(スポーツチームの保有、医療センター開設など)は、1件として報告する。その際、活動内容/名称欄に(チーム)(常設)などと付記する。但し学校訪問など、その都度訪問先が異なる場合は、従前通り一訪問先毎に報告する。

# 57クラブ全体集計

年間活動回数

21,782回

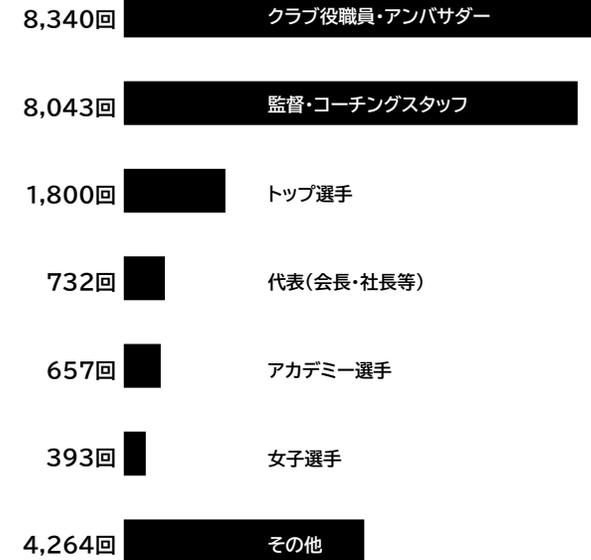
トップ選手の活動人数

4,379人

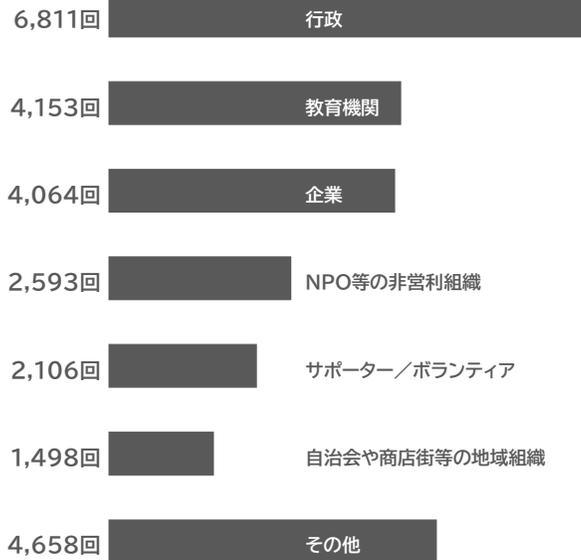
うちシャレン活動回数

2,144回

活動者



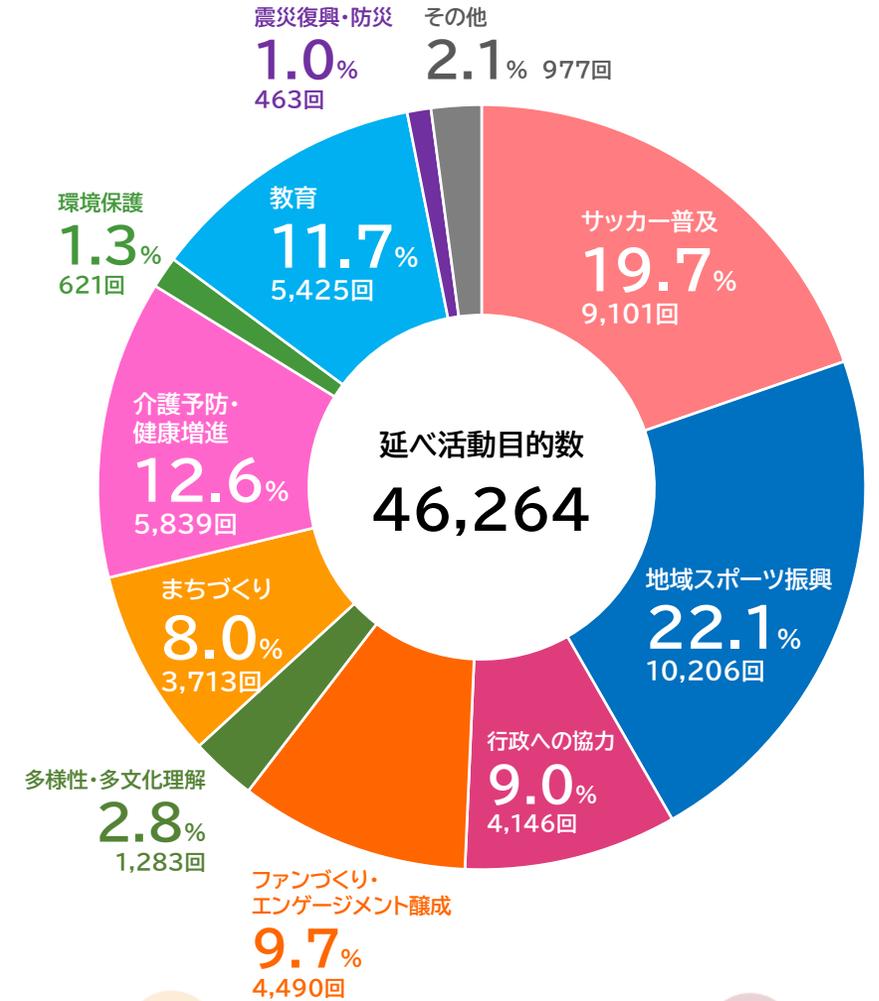
協働者



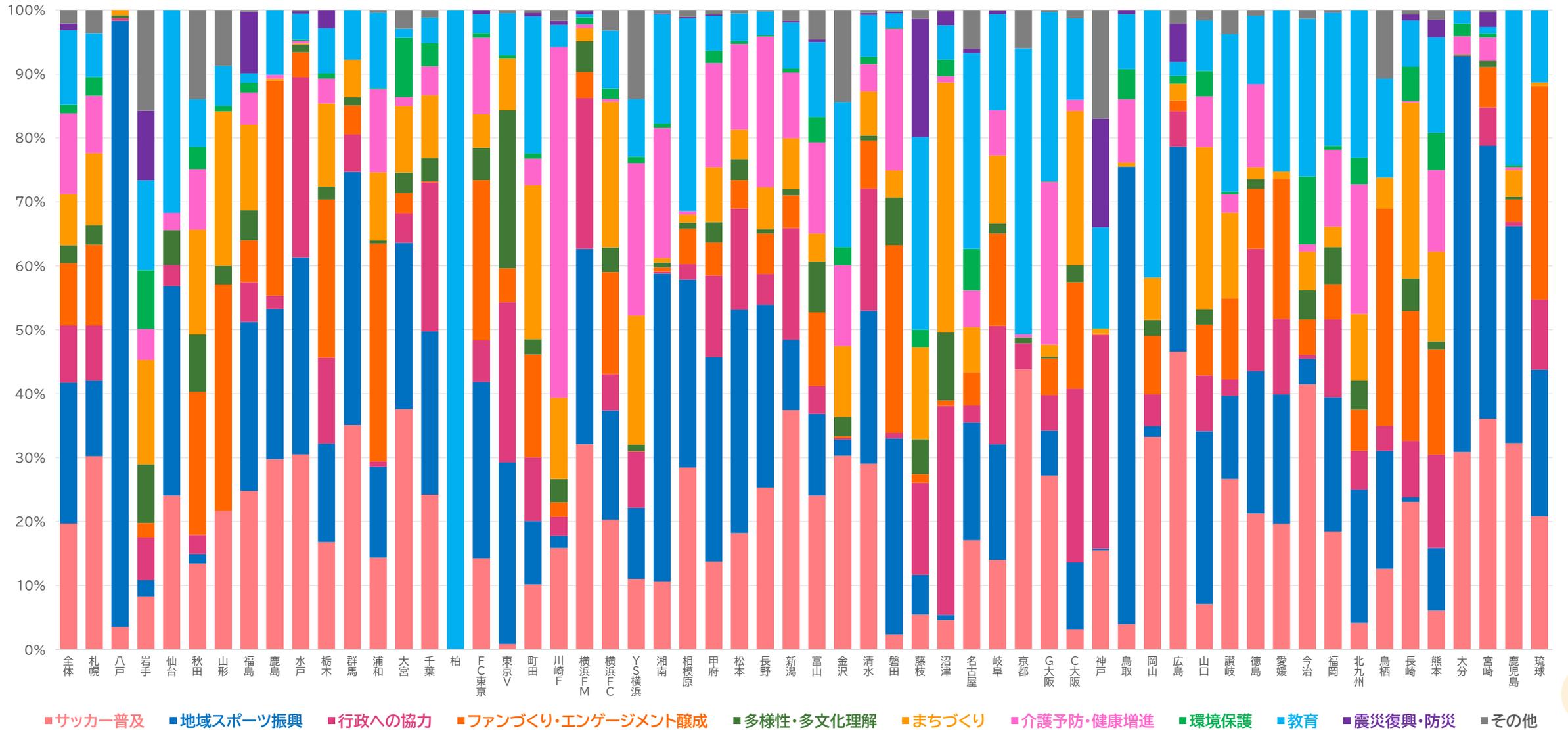
※「活動者」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。

活動目的の構成

※各クラブが実施したホームタウン活動を、クラブからの報告に基づいて集計しています。  
※「活動目的」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。

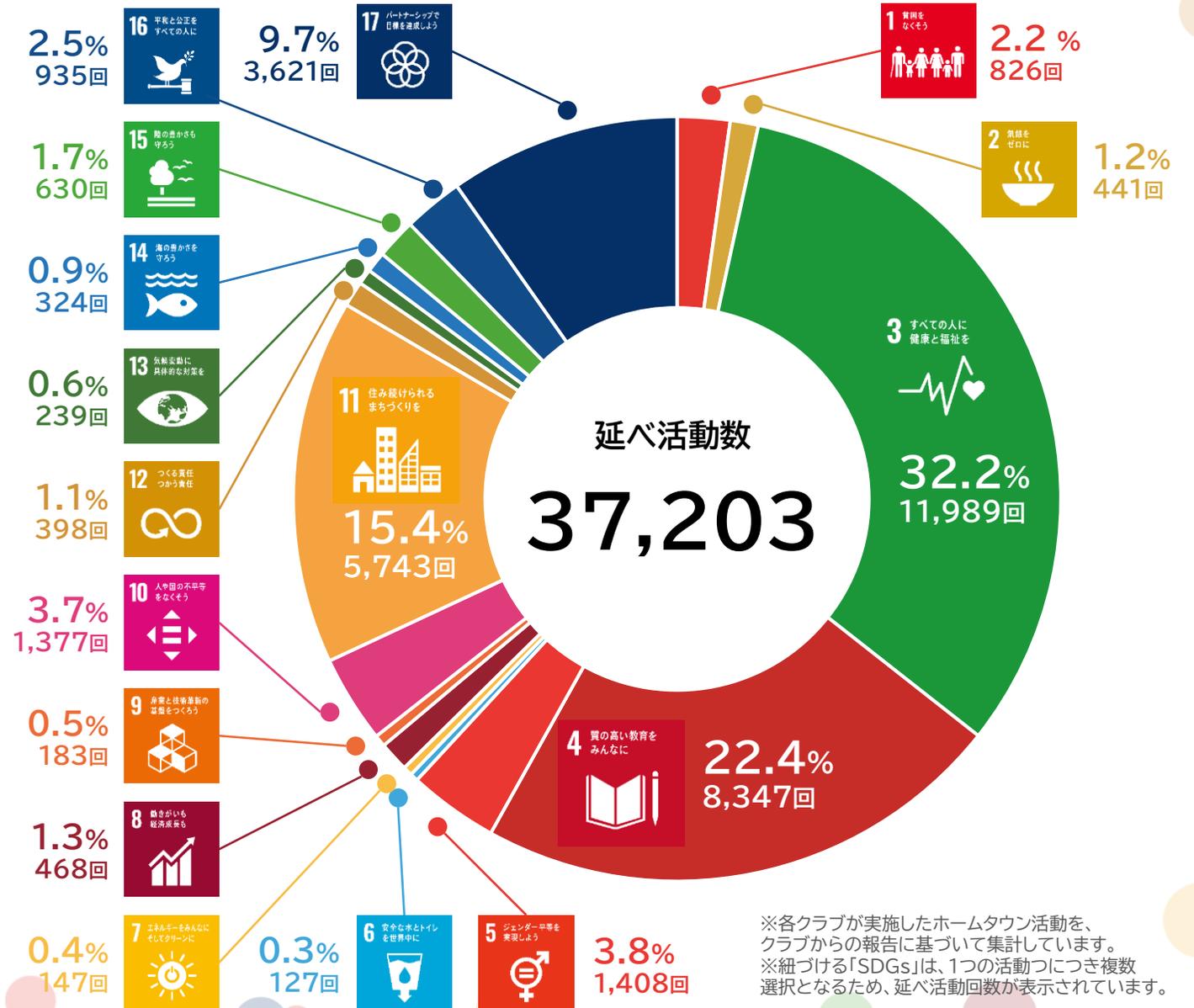


# 57クラブ活動目的(クラブ別)



# SDGsへの取り組み詳細(57クラブ全体)

昨年から引き続き2021年調査においても、JクラブにおけるSDGsへの取り組みを把握し、顕在化するため、各ホームタウン活動へSDGsを紐付け集計を行ってまいります。



※各クラブが実施したホームタウン活動を、クラブからの報告に基づいて集計しています。  
 ※紐づける「SDGs」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。





## 北海道コンサドーレ札幌

### コンサドーレを入口にした生物多様性への取り組み 1/2

コンサドーレは円山動物園ならびにバードライフ・インターナショナル東京との間で連携協定を締結いたしました。その締結に基づき9月26日のホームゲームにて3者間でイベントを実施いたしました。試合前札幌ドーム内サッカー体験コーナーの一角に円山動物園の専門解説員及びバードライフ・インターナショナル東京のプログラムオフィサーを招き、クラブマスコットのドーレくんと共に生物多様性を学習しました。当日は限られた時間の中で多く方に参加していただきサッカーを入口に生物多様性を学ぶきっかけになったと考えております。



活動場所 札幌ドーム



協働者

NPO、行政

協働者名

バードライフ・インターナショナル東京、  
札幌市円山動物園



協働者の声

札幌市円山動物園／神 賢寿 氏



絶滅危惧種に指定されているシマフクロウのドーレくんがマスコットであるコンサドーレ様と生物多様性保全への取り組みができ大変嬉しく思っております。道内で存在感のあるコンサドーレ様と共にサッカーというスポーツを入口として生物多様性保全に関する活動に対し更に注力し展開できることを非常に楽しみにしております。



活動詳細情報

1

[公式サイト\(リリース\)](#)

2

[公式サイト\(イベント案内\)](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





## 北海道コンサドーレ札幌

### コンサドーレを入口にした生物多様性への取り組み 2/2

## Story

「PASS」は北海道コンサドーレ札幌がスローガンである「北海道とともに、世界へ」を実現するためのプロジェクトの一つである。クラブ創立25周年を機に、北海道全土を本拠地とするクラブとして更に地域との結びつきを強め、持続可能なクラブ運営を行うための大きなチャレンジである。

発足にあたりサッカークラブの強みを生かしつつ、「健康」「教育」「環境」の3分野へ注力し既存の枠にとられない活動を通じて北海道の人々に誇ってもらえるようなクラブを目指したい。



今回は一例として円山動物園とバードライフ・インターナショナル東京との協働プログラムである試合日の活動を紹介した。今回の取り組みは「環境」「教育」に大きく寄与をすることができる内容であり、コンサドーレがハブになることでサッカーを入口に世の中の事を学ぶことができる枠組みであると考えている。

コンサドーレは札幌ドームでの試合時に来場者が身体を動かしてスポーツを楽しむことができるスペースを設けている。今回の取り組みはそこに訪れる人に対してサッカーやコンサドーレを入口に少しでも生物多様性について関心を抱いて欲しく企画を行った。

円山動物園とバードライフ・インターナショナル東京の専門家がモニターを用いて分かりやすく生物多様性について授業を行い、特別ユニフォームを着用したドーレくんも参加し盛り上がりを見せた。ドーレくんはシマフクロウであり、絶滅危惧種に指定されている。このことからコンサドーレファミリーに対して何かしらの働きかけができるのではない



かと模索していたタイミングでの3者間の連携協定締結であり、今回のプログラムの実施であった。

今回のプログラムをきっかけにより多くの人々を巻き込みつつ、「PASS」を強化していきたい。



## ヴァンラーレ八戸

### 俺たちのスタミナヴァンたれにんにくマシマシ 1/2

八戸市では農業就業者の高齢化や担い手不足に悩まされ、遊休農地も増加。そこで、クラブのオフィシャルパートナーでもある株式会社MISTsolution様(本拠地:東京)と協同し、八戸市南郷の農地を活用したにんにくの栽培を開始。地域の農家の皆様にもご協力いただき、植え付け作業や収穫作業を実施。2021年は上北農産加工株式会社様と、収穫したにんにくを活用したコラボ商品「俺たちのスタミナヴァンたれにんにくマシマシ」を開発。地元のコンビニ、道の駅をはじめ、Jリーグ各クラブにもご協力いただき販売を実施。



**活動場所** 八戸市南郷の畑、上北農産加工株式会社、ファミリーマート、Jリーグクラブ試合会場



**協働者**

企業、住民

**協働者名**

株式会社MISTsolution、上北農産加工株式会社、ファミリーマート、Jリーグクラブ、地域住民



**協働者の声** 上北農産加工株式会社／三浦 良行 氏

今回の商品を企画するにあたり、ヴァンラーレ八戸様が栽培に携わったにんにくのみを使用するという点にこだわり、生産者・消費者を巻き込んだ「みんなが喜ぶおもしろい商品」になったと思います。微力ながら、地域とクラブをつなぐ役割を果たせたことは弊社としましても大変うれしく思っております。



**活動詳細情報**

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**

8





ヴァンラーレ八戸

## 俺たちのスタミナヴァンたれにんにくマシマシ 2/2

### Story

青森県では年々農家人口が減少しています。クラブ設立の地「八戸市南郷」も例に漏れず、農業就業者の高齢化や担い手不足に悩まされ、遊休農地が増加しています。

この問題を解決しようと、クラブのオフィシャルパートナーであるミストソリューション株式会社様（本拠地：東京）と協同で、八戸市南郷の農地を借用。かつ、農作業者を1名、雇用していただくこととなりました。この農地ではにんにくの栽培を開始し、全選手・スタッフ、そして周辺の農家の方々にもご協力いただき、植え付け作業や収穫作業を行っております。



そして2021年8月には、そこで収穫したにんにくを使い、オフィシャルパートナーの上北農産加工株式会社様とのオリジナルコラボ商品「俺たちのスタミナヴァンたれにんにくマシマシ」を開発致しました。ホーム戦や公式オンラインショップ、県内のファミリーマート様、スーパー、道の駅等での販売に加え、2021シーズンはJリーグ各クラブにもご協力いただき、アウェイ戦時の販売も行いました。初回生産分1200本は即完売し、追加の1200本も完売となりました。ご担当いただいた上北農産加工株式会社三浦様からは、「生産者・消費者を巻き込んだ『みんなが喜ぶおもしろい商品』になった」とのお言葉をいただきました。

コロナ禍で県外への往来が制限される中、Jリーグという全国的な横の繋がりを活用し、青森県の商品を全国へPRすることができました。





## いわてグルージャ盛岡

### ゴミで繋ぐ未来へのパス、グルージャごみゼロPJ 1/2

2021シーズン、いわてグルージャ盛岡は「スタジアムから出るごみを少しでも減らしたい」という思いから「いわてグルージャ盛岡ごみゼロプロジェクト」をスタートさせました。丸紅株式会社様協力の元、ホームゲーム開催時のスタジアムグルメの店舗で循環型食器『edish』を使用し、そのごみを堆肥化。その堆肥を弊クラブで行っている米づくりに活用。そして出来た米を県内の子ども食堂に寄付し、子どもの健康な発育と居場所作りを行う事で、地域課題の解決につなげました。地域スポーツを応援する事をきっかけとしたゴミ問題解決と社会連携を目指しました。



活動場所 いわぎんスタジアム



協働者

企業、住民、行政

協働者名

丸紅株式会社、  
農業生産法人有限会社うしちゃんファーム、矢巾町、  
株式会社ベルジョイス、雫石町、サポーター、  
特定非営利活動法人 まちサポ雫石



協働者の声

丸紅株式会社／築瀬 啓太 氏



試合会場で使用いただき、出店者や観客の方々も非常に協力的で、使用後のedishの回収にもご協力頂きました。また堆肥化の部分が課題でしたが、岩手で畜産をされているうしちゃんファーム様にもご協力頂き循環の輪を形成することができました。地元で愛されるグルージャだからこそできた取り組みだと感じております。



活動詳細情報

- 1 [公式Twitter](#)
- 2 [公式Facebook](#)
- 3 [公式Instagram](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





いわてグルージャ盛岡

## ゴミで繋ぐ未来へのパス、グルージャごみゼロPJ 2/2

### Story

地域の飲食店が出店し、ホーム戦を盛り上げる『スタジアムグルメ』では、飲食店の宣伝効果や飲食店とサポーターとの繋がりを深める取り組みを行ってきました。しかし、スタジアムグルメが盛り上がるほど、スタジアムから出るゴミの量は増え(1試合あたり軽トラック約4台分)地球環境悪化への一つの原因となり得ると考えました。そこで、私たちは循環型食器を活用し、仕組みを取り入れる事で、ゴミをゴミにしない『いわてグルージャ盛岡ごみゼロプロジェクト』をスタジアムグルメにてスタートさせました。1社目の協力者「丸紅株式会社」では、循環型食器edishを開発・周知・活用。そして、2社目の



協力者「農業生産法人有限会社うしちゃんファーム」により、edishを堆肥化する事で、堆肥をチームで行っているグルージャ米プロジェクトに活用。出来たお米は、県内の子ども食堂に寄付し、子供達の居場所づくりの支援とゴミ問題における地域課題の解決につなげる事としました。グルージャを応援し、スタジアムに来るサポーターが、循環型食器を使用したスタジアムグルメの購入をする事で、地域の飲食店と試合を盛り上げ、循環型食器の回収協力をサポーターが行うことで、サポーターが3者目の協力者となり、ゴミ問題解決の仕組みを作りました。多くの協力者がチームを応援する事で『ゴミ問題解決の取り組み』への関心を深め、ゴミをゴミとしない『完全循環型』の仕組み構築ができました。結果、シーズン終盤では、これまで大量に出ていたゴミが、サポーターやスタッフにより、綺麗に分別され、循環型食器edishが肥料となることで、スタジアムの1試合あたりのゴミの量が、これまでの3分の1となり、ゴミ問題解決の第一歩となりました。私たちは、この取り組みをきっかけとし、岩手のプロスポーツクラブとして今後も地域企業やサポーターと連携



する事で地域課題解決に向けて様々な取り組みを行っていきたいと思います。



## ベガルタ仙台

### 小さくても持続可能な町へ ベガルタハウスをつくろう 1/2

「少子高齢化」「関係人口の拡大」「空き家活用」。これらは日本全国、多くの自治体が抱える社会課題です。ベガルタ仙台は宮城県で一番小さな町、七ヶ宿町(しちかしゅくまち)でこの社会課題に取り組み始めました。元選手の菅井直樹、地元の方々、サポーターの皆様と共に、町内の築50年の空き家を「ベガルタハウス」と名付けて改修。町の賑わいと持続可能な町づくりの拠点として整備しました。ハウスの周りは荒れた土地、古びた牛舎等、改修ポイントがいっぱい！ハウスを中心に町との社会課題への取り組みがスタートしました。



活動場所 宮城県七ヶ宿町



協働者

企業、行政

協働者名

七ヶ宿町、七ヶ宿まちづくり株式会社



協働者の声

七ヶ宿まちづくり株式会社／渡部 秀文 氏



わが町の大きな課題と一緒に取り組んでくださっているベガルタ仙台さん。菅井さんを中心に空き家をDIYでリノベーションし、そこで一緒にイベントを行うことで、空き家利用方法の提案や関係人口の増加、さらには移住定住に繋がれば理想です。今後もイベントの企画や地域活動などに一緒に取り組んでいきたいと思います。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ベガルタ仙台

## 小さくても持続可能な町へ ベガルタハウスをつくろう 2/2

### Story

七ヶ宿町は宮城県の南西端に位置する人口1,285人の町です。自然豊かなとても美しい町ですが、県内では人口が最も少なく、また高齢化率が一番高い自治体です。クラブはこれまで町イベントへの参加等で交流を深めてきました。そのような中、昨年春に町より社会課題への協力依頼がありました。この課題の解決案の一つとして、クラブは七ヶ宿まちづくり会社が改修を行う予定の空き家を「ベガルタハウス」と名付け、このハウスを起点として課題に取り組むことを提案しました。ベガルタハウスにより見込む効果は、

ベガルタハウスの改修 → 空き家対策  
 ハウスでのイベント実施 → 関係人口拡大  
 結果、七ヶ宿町を訪れる人が増え、町の魅力を伝えることで移住定住を促進する → 少子高齢化対策  
 上記仮説を立て、ここにクラブの強みである「情報発信力」と「ネットワーク」を活用して取り組むことにしました。はじめに、七ヶ宿町、七ヶ宿まちづくり株式会社と「SDGs推進及び連携・協力に関する協定」を締結しました。空き家改修の主体は七ヶ宿まちづくり会社と元選手の菅井直樹。改修を進めるにあたり、架空の工務店を立ち上げ、話題性を持たせることで地元TV局2社が密着取材。多くの人にベガルタハウスを知ってもらうことに成功しました。そしてハウス完成後の活動資金はクラウドファンディングを実施し、多くのご支援をいただきました。7月から始まった作業は、サポーターが泊りがけで訪れ、汗と埃にまみれながら作業を進め、地元の方を含め多くの方々の協力により11月に完成し、小関町長様からは「SDGsの推進と地域の活性化を、ベガルタハウスを中心として図っていきたい」と大きな期待が寄せられました。



今後は地域の魅力を活かした話題性のある取組みを行い、持続可能な町づくりを支援していくほか、効果検証を行い、他の自治体にも提案をしていく予定です。



## ブラウブリッツ秋田

### 「TDK×ブラウブリッツ秋田」子ども食堂支援 1/2

厚生労働省によると日本の子どもの貧困率は13.5%で、約7人に1人が貧困状態にあるといわれています。特に秋田県は子どもの栄養失調死率が高く、喫緊の課題となっております。このような社会課題に対しクラブのスペシャルスポンサーであるTDKとクラブは、秋田の子どもたちが健康で明るい未来を迎えられるように、秋田県内の子ども食堂を支援する活動を実施しました。具体的には、TDKの企業ブランドキャンペーングッズをホームゲーム会場で販売し、その売上金を全額活用して様々な形で子ども食堂を支援しました。



**活動場所** ソユースタジアム、みらい工房(秋田市内の子ども食堂)



**協働者**

企業、NPO

**協働者名**

TDK株式会社、  
特定非営利法人秋田たすけあいネットあゆむ、  
秋田県社会福祉協議会、  
秋田ノーザンハピネッツ株式会社



**協働者の声** 特定非営利法人秋田たすけあいネットあゆむ／保坂 ひろみ 氏

秋田市内でこども食堂を運営していますが、コロナ禍のため集まって食事をするのが出来なくなり、弁当配布にて活動を続けてきました。様々な自粛を余儀なくされている中で、食堂がイルミネーション等で飾られ、さらにプレゼントをもらい、子どもたちが大喜び。冬の夜空に光るイルミネーションを笑顔で見つめていました。



**活動詳細情報**

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





## ブラウブリッツ秋田

### 「TDK×ブラウブリッツ秋田」子ども食堂支援 2/2

## Story

### ■背景

秋田で子ども食堂を運営している秋田たすけあいネットあゆむ代表理事長の保坂さんにお会いし、県内の子どもの貧困に関する現状を伺いました。「秋田県は子どもの栄養失調死率が高い」「1日の食事が学校給食だけの子どもがいる」という現状に非常にショックを受けました。同時に、そのような社会課題に対し、クラブとして何かしなくてはいけないと強く感じました。そのような時に、TDKの広報担当者より若年層応援キャンペーン「(T)尖った(D)大胆さ(K)くれよ」とのコラボレーション企画をいただきました。そんな中で、上記の秋田県内の子供の



貧困の現状をお伝えしたところ、この課題の解決に取り組むことこそが若年層の応援に繋がるのではないか、という結論に至り、秋田の子どもたちが健康で、笑顔あふれる明るい未来を実現するための活動を行うこととなりました。

### ■実施内容

- ①ホームゲーム会場で同キャンペーンのグッズを販売し、その売上を全て子ども食堂運営団体に寄付しました。また売上以外にも多くの寄付が集まり総額284,866円となりました。これを県内7箇所の子ども食堂に配分し、食材費や食堂運営費などに活用いただきました。
- ②県内Bリーグチーム・秋田ノーザンハピネッツに協力を仰ぎ、3者で活動を行いました。両チームのホームゲームで同キャンペーンのグッズを販売、売上金及び寄付金を活用して両チームのグッズと沢山のお菓子が入ったクリスマスプレゼントを300名分、県内10箇所の子ども食堂に贈呈しました。さらに、贈呈先の1つである秋田たすけあいネットあゆむが運営する「みらい工房」にTDK硬式野球部と



両チーム選手が訪れ、プレゼントの贈呈式並びに特別クリスマスイルミネーションの点灯式を行いました。贈呈した選手は「子供達の幸せや地域の活性化は自分たちがスポーツをしている一つの意味だと思う。」と話しました。



## モンテディオ山形

### ホームゲーム全試合SDGsコーナーの設置 1/2

年間21試合、全てのホームゲームで、SDGsを行う企業や自治体・その他NPOなどの団体の活動をパンフレットや商品ベースで紹介してきました。シーズン後半には企業とタイアップしてワークショップを開催し、サポーターがSDGsを主体的に楽しく体験できる場をつくりました。



活動場所 NDソフトスタジアム山形



協働者

企業、NPO、住民、学校、行政

協働者名

株式会社エコスタイル、株式会社Kanatta、株式会社チェンジ・ザ・ワールド、豊島株式会社、株式会社ポチくる、株式会社笑子、イーレックス株式会社、株式会社ミズサワセミコンダクタ、山形朝日株式会社、株式会社京都スパーサー、株式会社カオナビ、株式会社ソフィア、株式会社庄内クリエイト工業、株式会社QDレーザ、株式会社ライフエッグ、株式会社イノベーションIFAコンサルティング、株式会社食のカコーポレーション、株式会社山一ハガネ、株式会社スマートチェックアウト、その他40団体



協働者の声 SDGsコーナー協賛社／皆様からの声

モンテディオ山形が、サッカーだけではなく、県内はもちろん県外企業にも共創の場を提供していき、県内を盛り上げていくという姿勢に感銘を受けました。ワークショップの開催を通して、全く違う業界と繋がることで、次のアイデアのヒントになるのではないかと思います。



活動詳細情報

1

[公式note](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





モンテディオ山形

## ホームゲーム全試合SDGsコーナーの設置 2/2

### Story

2021年ホームゲーム全21試合で、SDGsコーナーを設置しました。モンテディオ山形がSDGsの活動を始めた理由は、よりよい社会をつくることスポーツクラブの使命だと考えているからです。スポーツクラブには「求心力」と「情報発信力」があります。これらを使って、SDGsや社会活動をされている企業・行政・NPOの団体の活動を紹介し、一緒に取組みを行い、応援することで、よりよい社会づくりに寄与できると考えています。

具体的な内容としては、企業・自治体・その他NPOのSDGsの活動をパンフレットや商品ベースでの紹介、時にはワークショップなどを開催し、サポーター



がSDGsのイベントを体験する機会を作りました。この1年間で59団体と協業し、サポーターの皆様がSDGsを主体的に考えるきっかけをつくりたいと思い企画してきました。

また、SDGsコーナーではダイバーシティや障がい者理解をテーマとしたユニバーサルスポーツ体験も実施しています。クラブから障がい者スポーツ団体に声をかけて、時には普段から車いすをのっている障がい者の人にスタジアムに来ていただき、パラリンピック競技などユニバーサルスポーツを健常者の方々と一緒に体験していただきました。障がいのある方と健常者の交流する場面をつくることで、相互理解が深まるきっかけになればと思っています。

2022年シーズンのモンテディオ山形は、更に多くの社会活動やSDGsに触れる機会を皆様につくるのが重要だと考えています。まだ「SDGs」というワードは堅苦しく近寄りづらいイメージがあると思います。多くの方がSDGsを自分ごととして捉えるためにも、スポーツクラブが持つ「求心力」と「情報発信力」をSDGsに取り組む団体にご利用して



いただきながら、一緒にSDGsの活動を行い、モンテディオ山形がSDGsに取り組む団体にとってプラットフォームとして存在できればと考えています。



## 福島ユナイテッドFC

### 福島まつかわ農スポ事業体験イベント 1/2

地元の福島大学(地域スポーツ政策研究所)が取り組む研究の一つとして、「農業とスポーツ」を組み合わせることによる新たな価値の創出及び地域活性化につながる可能性について、「農スポイベント」として、地域の子供たちを対象にサッカー教室と農業体験を行った。



**活動場所** 飯野地区体育館、安斎果樹園



**協働者**

企業、住民、学校、協議会

**協働者名**

福島まつかわ農スポ協議会、  
福島大学地域スポーツ政策研究所、  
松川町サッカースポーツ少年団、安斎果樹園



**協働者の声** 福島大学地域スポーツ政策研究所／所長 蓮沼 哲哉 氏

本研究所では「農業×スポーツ」の可能性を研究している。農業から波及する問題は、地域の人口減少、コミュニティの崩壊など多岐にわたる。福島ユナイテッドの活動は、トップスポーツが農業に関わり地域の課題解決に繋がる取り組みである。今回のイベントはまさに農業による地域のコミュニティ再形成となる取り組みができた。



**活動詳細情報**

1 [福島大学HP](#)

2 [公式サイト](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





福島ユナイテッドFC

## 福島まつかわ農スポ事業体験イベント 2/2

### Story

当クラブでは、福島の農作物や県産品の魅力発信を目的に、地域の農家さん、生産者さんの協力を得て「農業部」活動に取り組んでいます。

今回、地元の福島大学地域スポーツ政策研究所さまより「農業×スポーツ」で生まれる地域の活性化、新たな価値の創出の可能性について、農業を行うプロスポーツチームと連携したいとお声がけいただきました。

今回のイベントでは、大学のある福島市松川町の少年サッカーチームを対象に、福島ユナイテッドFCとの交流、サッカー教室指導による技術向上は基より、その参加した子どもたちが農業体験をすること



から福島の農作物について知ること、そして、サッカーのトップチームがサッカーだけではなく、農業という活動を通して地域とのつながり、福島のPR活動など社会貢献活動を行っていることを知ってほしい、ということを目的に開催いたしました。

農業体験では、日頃よりご協力いただいている安齋果樹園さまご指導のもと、りんごの収穫作業を行い、農業や福島の農作物に対する理解を深めることができました。幼い頃から地元の農作物に触れることは、ただ作業を体験することだけではなく、農家さんからのお話やプロスポーツチームが農業に取り組む姿を通して「スポーツ」「農業」への理解、普段の生活で切り離すことのできない「食」という部分でも改めてその大切さを知るきっかけになったと思います。

参加したお子さんからは「りんごが重くて運ぶのが大変だったけど、終わった後に食べたりんごが最高でした」など農業の大変さを感じつつ、福島のりんごの美味しさを味わっていました。

「農業×スポーツ」の可能性については、クラブとしても農業部活動を継続していくとともに、今後も



様々な地域の方と交流する機会を創っていきたいと感じました。

今回このような機会を創ってくださった、農スポ協議会様、福島大学様、ご協力いただきました安齋果樹園様に心より御礼申し上げます。



## いわきFC

### 【健康課題】健康なカラダづくりプログラム 1/2

いわきFCが持つスポーツクラブならではの最先端の知識やノウハウ、施設を活用し、個別のデータに基づく、正しい運動・食事を組み合わせた健康プログラムを提供する取り組みです。週1回のオンライントレーニングとアプリを活用した栄養指導や、IoT機器を活用して自身の生体データを知ること、日々身体が変わっていく様子を体験いただきます。8週間のプログラムを通じてご自身の体を「知る」、そして「変わる」プロセスを経験していただくことで、プログラム終了後も継続して健康的な生活様式を送るきっかけづくりを目指します。



活動場所 いわきFCパーク、オンライン上(zoom)



協働者

企業、住民、行政

協働者名

いわき市役所



協働者の声

いわき市役所 総合政策部 スマート社会推進課／松本 雄二郎 氏

本市では、市民のメタボリック症候群の割合や生活習慣病の出現率が非常に高く、市民の健康維持・増進が地域の大きな課題となっています。こうした中、クラブが持つ体づくりの知見を活かした健康づくりの取り組みは、地域課題の解消に直結する重要な事業と捉えており、市としてもクラブと連携を密にし、推進して行く考えです。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





## いわきFC

### 【健康課題】健康なカラダづくりプログラム 2/2

## Story

いわきFCのホームタウンであるいわき市は、成人の生活習慣病の出現率や子どもの肥満度の高さが課題とされている。これらの地域課題克服に向けて、いわきスポーツクラブは、いわき市と連携し、市民に対して約8週間の健康増進プログラムを提供する「健康なカラダづくりプログラム」を実施している。この事業は、「日本のフィジカルスタンダードを変える」ことをコンセプトに掲げるいわきFCのトレーナーや栄養士が中心となり、プロスポーツクラブが持つ最先端の知識やノウハウを活用し、個別データに基づく「正しい運動、食事、睡眠」の指導を行うものである。また、新型コロナウイルス感染症の拡大

による影響を踏まえ、「新しい生活様式」にも対応しうる「スポーツ×IoT」の新たなモデルを提案する取り組みとして、オンライントレーニングを基本として実施し、IoT機器を活用して参加者個別のデータに基づく指導を実現するなど、新しい形での健康増進プログラムの構築も目的としている。

プログラムの内容は、①知る・変わるダイエット②知る・変わるボディメイク③ヨガ・ウェウネス&ビューティーの3コース。いずれのコースも週に1回のオンライントレーニングに加え、アプリを活用した栄養指導で食生活の改善を図るほか、IoT機器を活用して参加者自身が自らの生体データをモニタリングし、専門家からのフィードバックを受けることで、日々身体が変わっていく様子を体験できる。

約8週間のプログラムを通じて自身の体を「知る」そして「変わる」プロセスを経験していただくことで、プログラム終了後も継続して健康的な生活を送るきっかけづくりを行い、市民の健康維持・増進に貢献を目指していく。



#### <参加者の声(抜粋)>

- ・これまでは有酸素運動を基本にやってきたので良い経験になった。(40代男性)
- ・運動習慣が身につき身体や健康に意識を向けることが多くなりました。結果的に体脂肪率が減少しました。(30代女性)





## 鹿島アントラーズ

### 鹿嶋市立鹿島中学校企画提案型職場体験学習 1/2

中学生が鹿嶋市内飲食店と新メニューを開発・販売するという職場体験。クラブでは飲食店とサポーターを繋ぐため、飲食店をホームページに無料掲載した「鹿行の『食』を届けるプロジェクト」掲載店に協力を呼びかけた結果、15店舗全てが掲載店となった。開発したメニューは、11月から店舗ごとに順次販売した。また、ホームゲームでは3店舗が出店し、キックオフまでに全店舗完売した。



**活動場所** 鹿嶋市立鹿島中学校、鹿嶋市内飲食店15店舗、  
県立カシマサッカースタジアム



**協働者**

企業、学校

**協働者名**

鹿嶋市立鹿島中学校、鹿嶋市内飲食店15店舗



**協働者の声**

鹿嶋市立鹿島中学校／二学年主任 大川 芳宏 先生

子どもたちが地域の方と関わることで、学校では見せない表情をしている。この体験学習を通して、社会性など、学校では身に付けられないチカラが養われたと感じる。地域の皆さんの協力があってこそ実現したことであり、この点が職場体験学習の一番重要なところ。来年も改善しながら実施したい。



**活動詳細情報**

1

[公式note](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





鹿島アントラーズ

## 鹿嶋市立鹿島中学校企画提案型職場体験学習 2/2

### Story

「コロナ禍でも生徒に貴重な体験をさせてあげたい。」中学校の先生の願いから、この企画は始まりました。鹿嶋市立鹿島中学校では、中学2年生が市内企業や飲食店に出向いて職場体験を行っていましたが、コロナ禍でできなくなっていました。新しいカタチを模索する中で、中学生が学びを得るだけの職場体験でなく、地域に貢献できないか？というコンセプトが浮かびました。そこで、飲食店とともに取り組む「企画提案型職場体験学習」を計画することになりました。



中学生が飲食店と新メニューを開発・販売するという体験で、中学校とクラブが初めて打ち合わせしたのは2021年5月でした。依然として事業所、特に飲食店は大きなダメージを受けている状況でした。クラブでは飲食店とサポーターを繋ぐため、飲食店をホームページに無料掲載する「鹿行の『食』を届けるプロジェクト」を実施しており、協力いただける店舗を呼びかけた結果、全15店舗が同プロジェクトの店舗となりました。

生徒と店舗はオンライン会議で新メニュー開発を行いました。予算や食材など店舗の条件を守り、店舗と協力しながら理想のメニューを追求していく過程では、普段の授業では得られない学びが数多くありました。

完成したメニューは11月から店舗ごとに順次販売されました。スイーツにハンバーガー、定食まで多岐にわたります。さらに11月20日、販売可能な3店舗がアントラーズのホームゲームに出店した結果、キックオフまでに全店舗完売することができました。当日は中学生がPRを行い、会場は大いに賑わいました。



ホームゲーム当日の様子はFMかしま(生徒、先生インタビュー有り)及び鹿嶋市の広報誌で紹介されました。今後も生徒同士や保護者でコラボメニューを食べに行くことが想定され、店舗の利益にも繋がっています。



## 水戸ホーリーホック

### 『GRASS ROOTS FARM』始動 1/2

茨城県は農業が盛んである一方で、農業従事者の高齢化が進み耕作放棄地も年々増えてきています。そうした課題とJリーグクラブを掛け合わせたときに、ファン・サポーターを巻き込んだ素晴らしいモノができると考え、農事業を始動することになりました。クラブハウスの『アツマーレ』がある城里町で、約1,000㎡の畑でニンニクの栽培をして、農業の魅力を伝えていきます！



**活動場所** 城里町上古内にある畑、島家住宅



**協働者**

企業、住民、行政

**協働者名**

城里町地域おこし協力隊 坂本さん  
株式会社寺田製作所 鯉淵さん  
城里町にお住いの盛田さん



**協働者の声** 城里町 地域おこし協力隊／坂本 裕二 氏



スタッフの方が土に触れて農仕事をするので、町の中でも話題になり「GRASS ROOTS FARM」への注目度が上がっています！ ゆくゆくは城里町の名産とコラボレーションなどができればと考えており、新たな価値を生み出せると思っています。



**活動詳細情報**

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [プロジェクト公式Twitter](#)
- 3 [公式サイト②](#)
- 4 [サッカーキングシャレンアウォーズ記事](#)



**カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ**





## 水戸ホーリーホック

### 『GRASS ROOTS FARM』始動 2/2

## Story

茨城県は、平坦で広大な農地が多く、水資源も豊富で農業が盛んな地域として知られております。その一方で農業従事者の高齢化や後継者不足により耕作放棄地も年々増えてきている課題があります。そのような課題を解決するために、地域に根差して活動をしている我々は「農業」の魅力を広く伝える責任があります。

そうした背景から、水戸ホーリーホックは2021年より城里町にある約1,000㎡の畑で「ニンニク」の栽培を始めました！発表会見では、城里町地域おこし協力隊の坂本さんをはじめとする城里町役場の皆様にご協力いただき国登録有形文化財『島家



住宅』にて、農業の雰囲気を感じながら実施いたしました。

#### ◆「GRASS ROOTS FARM」の由来

自然とともに生きていく「農業」は人間の生き方の原点であると考え、まさしくクラブのブランドプロミスである「新しい原風景をこの街に」と一致することから「GRASS ROOTS FARM(原風景)」という言葉を用いました。

#### ◆なぜニンニク？

あえて栽培の難易度が高いニンニクから始めて、その土壌づくりが成功すれば他の作物も育てていくことが可能と考えました。

#### ◆畑のいま

担当者だけでなく、アカデミーコーチを含めたクラブスタッフ総出で、土壌づくりや種まき、草むしりをおこないました。

時にはトップチームの選手も練習後に加わり、一緒に汗をかきながらコミュニケーションをとることで、クラブ全体の団結力アップに繋がりました。



#### ◆「GRASS ROOTS FARM」のこれから

ニンニクはもちろん、他の作物の栽培にも挑戦しスタジアムや道の駅、ECサイトなどでの販売を目指しております。また販売だけでなく、サポーターの皆様による農業体験や選手交流など「クラブだからこそ実現できる新たな価値を皆様にご提供いたします。

これからの「GRASS ROOTS FARM」にご注目ください！



## 栃木SC

### 栃木SCツナガルプロジェクト 1/2

ホームタウン宇都宮市が地方として抱える様々な課題の中から「子どもの貧困」という地域課題に向き合うため「栃木SCツナガルプロジェクト」を立ち上げた。地域やスポーツ、夢などにツナガル機会を創出したいと考えている。第1弾の取組として、宇都宮市在住のひとり親世帯へのホームゲームご招待企画を実施。131名にご来場いただいた。第2弾はホームゲームでの学生服回収BOXの設置。不要になった学生服を入学準備が大変なご家庭につなげる取り組みを実施している。全ての子どもたちの笑顔のために、今後も取り組みを展開予定。

**活動場所** カンセキスタジアムとちぎ

**協働者**

企業、行政

**協働者名**

宇都宮市、株式会社キッズコーポレーション、  
いずみ産業株式会社

**協働者の声** 宇都宮市／中村 菜氏

行政としては子どもたちの「経験の貧困」を埋めるお手伝いが難しく、大きな課題だと考えています。プロスポーツチームである栃木SCが、子どもたちに試合観戦という素晴らしい経験をプレゼントしてくれたことにとっても感謝しています。今後も市との連携プロジェクトとして実施していただきたい。



**活動詳細情報**

1 [公式サイト①](#)

2 [公式サイト②](#)

**SDGs** カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





栃木SC

## 栃木SCツナガルプロジェクト 2/2

### Story

社会連携事業に着手するに当たり、栃木SCではホームタウン宇都宮市が抱える様々な課題の中から「子どもの貧困」に向き合うことを選びました。まず宇都宮市役所にお伺いし、子どもたちが抱える課題に関して勉強しました。貧困の中には「経済的な貧困」だけでなく「経験の貧困」もあることを学びました。「経験の格差」に関しては栃木SCが役に立てるのではと考え、プロジェクトを発足しました。プロジェクト名は「栃木SCツナガルプロジェクト」。事業を通して子どもたちが地域やスポーツ、夢や希望などにツナガル機になればと考えました。



第1弾の取組は、宇都宮市在住のひとり親世帯をホームゲームにご招待する事業です。子どもたちの経験の格差を少しでも埋めることを目的としています。市が8月に実施するひとり親世帯の面談にて本企画を告知いただき、観戦希望者にお申込みいただきました。

また、プロジェクト実施に当たり選手、スタッフの全員が課題を理解する必要があると考え、招待日の前にオンライン勉強会を実施。宇都宮市の職員様にお話いただき、子どもたちが抱える課題について全員で学びました。

当日は131名にご来場いただきました。活動にご賛同くださった株式会社キッズコーポレーション様、いずみ産業株式会社様のご協賛のお陰で、子どもたちへプレゼントもお渡しすることができました。初観戦のお子様が多く、特別な体験となってくれたようです。

第2弾の取組は「学生服リユースshopさくらや」様と提携してホームゲームでの学生服回収を実施しています。試合会場に学生服回収ボックスを設置し、サポーターに着なくなった学生服の持ち込みをご案内。お預かりした学生服は「さくらや」を通じて入学準備が大変なご家庭へつながります。2021年度は9点のご協力がありました。

全ての子供たちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指して、今後も本プロジェクトを展開していきます。



## ザスパクサツ群馬

# FanFunFieldFestival 1/2

コロナ禍によりGWにおける旅行などのアクティビティが制限される中、少しでも長期連休を楽しんでもらおうという思いから普段なかなか入ることのできないスタジアムの芝生上を開放し親子での遊びの機会を創出した。ピッチを開放しボールを蹴ったり、散水をしている中走り回ったりと子どもたちの元気な姿が見受けられた。ピッチ以外でも芝生管理の器具の説明や選手が実際に使用するロッカールームを試合当日のように装飾し試合日の風景を再現。解放後には敷島公園内のベンチをザスパカラーに塗るワークショップも実施した。



**活動場所** 群馬県立敷島公園



**協働者**

企業、行政

**協働者名**

敷島パークマネジメントJV(株式会社オリエンタル群馬、株式会社富士植木 他2社による共同事業体)、株式会社カインズ



**協働者の声** 敷島パークマネジメントJV／岡田 達郎 氏



芝生開放イベントのチームとの協働開催は、私たちにとって今回が初めての経験となりました。コロナ情勢の悪化により、開催自体が危がまれましたが、県民の皆様にご貴重な体験をご提供することが出来て本当に良かったです。開催の反響も大きく、地域におけるチームの存在感の大きさを改めて実感した瞬間でもありました。



**活動詳細情報**

1

[THESPA NEWS](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





ザスパクサツ群馬

## FanFunFieldFestival 2/2

### Story

2020シーズンよりコロナ禍の影響でクラブのホームタウン活動が止まっていました。選手の稼働が困難になり地域の方々との接点が減少している中で少しでもスタジアムのことを想起してもらうためには何かなくてはといった思いがありました。今回の活動はそういった状況の中でホームスタジアムの正田醤油スタジアム群馬の指定管理を行なっている敷島パークマネジメントJV様より声をかけていただき実現に至った活動になります。時期は5月の大型連休。旅行の計画をたて、家族との時間を過ごすはずがコロナ禍により長距離での移動が困難という状況や、学校関係者によると



学校行事などが軒並み中止となり外で遊ぶ機会が減り肥満体質の子どもが増えているという情報を知りました。そこで家族でのアクティビティの場の提供をザスパでできないかというのが活動の始まりです。

芝生管理の技術に長けている正田スタの芝生の上を開放し子供たちに体験してもらいました。普段入ることのできないピッチ上に参加者の皆さんは大興奮。会場ではスタジアムの芝生管理を行う「富士植木」様より芝生管理についての説明や、ロッカールームを公式戦当日のように装飾し試合日に選手がどん流れで試合に向かうかなどの説明を行いました。芝生上開放後には、株式会社カインズ様と協力し敷島公園内のベンチを紺と黄色のザスパカラーに塗るイベントを実施しました。



イベントを通して子どもたちの笑顔がとても目に入り、クラブスタッフもホームタウン活動の重要性を改めて実感した1日になりました。

8月にも同イベントを実行予定でしたがコロナ禍による情勢悪化により中止となってしまいました。今後は夏の芝生上の冷たさを実感してもらうことやスタジアムの芝生の切れ端を持ち帰ってもらう自宅にて養生しスタジアムに移植してもらうなどのイベントを実施予定。



## 浦和レッズ

### 『このゆびとまれっず！』(休眠預金等活用事業) 1/2

浦和レッズのホームタウン:さいたま市には130万人もの人たちが暮らし、多くの課題や悩みも人それぞれの生活の中で抱えています。地域にある課題は、浦和レッズの課題そのものです。何とかしたい！でも、その課題は「浦和レッズ」や「ほかの誰か」だけで解決できるものではありません。同じ“おもい”を共有する仲間と“みんな”で解決していくものと考えています。浦和レッズは、多くの人に支えられ地域に根差すクラブとして、地域社会や地域の人たちのために「このゆびとまれっ！」とゆびを高く掲げることにしました。



**活動場所** 埼玉スタジアム2002、さいたま市内を中心とした子ども食堂



**協働者**

企業、行政

**協働者名**

埼玉県子ども食堂ネットワーク、スポンサー企業(15社)、埼玉県(少子政策課)、FC ONE TOP(アンプティサッカー)



**協働者の声** じおんじ子ども食堂代表/山角 誓子 氏

コロナ禍でいろいろな体験が少なくなっている子どもたちですが、物資の支援はもちろんですが、ハートフルケアやレディア(マスコット)とのふれあいのように『体験・経験の支援』をしてください。浦和レッズさんをはじめとする関係者の方々には本当に感謝・感動しています。



**活動詳細情報**

- 1 [公式サイト\(特設ページ\)](#)



**カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ**





## 浦和レッズ

### 『このゆびとまれっず！』(休眠預金等活用事業) 2/2

## Story

#### ◆活動名称とロゴマークに込めた思い

この活動には仲間が必要です。仲間を集めるためには呼び掛けが必要です。その掛け声といえば、昔からある合言葉「このゆびと～まれ」。浦和レッズが呼びかけるので『このゆびとまれっず！』を活動名称としました。

ロゴマークにある「てんとう虫」は“幸運のシンボル”とされ、レッズカラーのてんとう虫がRedsを描きながら指にとまる姿は「私たちの願いが叶う瞬間」を、「リストバンド」はクラブに関わる全ての人たちと共に活動していくという願いを、「このゆびとまれっず！」のポップな書体は親しみやすさと気軽さ、



カラーリングはこの活動が目指すSDGsのゴール色を表現しています。

#### ◆具体的なアクション【ハートフルケア】と【REDS Santa(レッズサンタ)】

今回はコロナ禍で深刻化した子ども食堂を利用する家庭や子どもたちの課題解決・緩和を目指して、2つのアクションを実施しました。

クラブの人材やノウハウ、ネットワークを活用した【ハートフルケア】では、ハートフルクラブ・落合弘キャプテンの講話、アンプティサッカー体験、試合観戦などを通じ、子どもたちの笑顔創出とストレス緩和、家族での非日常体験・思い出づくりを支援しました。

クリスマスの季節に企業・地域・クラブ・選手などから募った物資を届ける【REDS Santa】では、200箱もの段ボールに詰められた寄贈品の数々(子どもたちへのプレゼント約800人分と子ども食堂への物品27か所分)をお届けし、感謝や御礼の言葉を多数頂戴しました。



◆このゆびを、さらに大きな声で、空高く  
今回、休眠預金を活用し、ある程度自走できそうな枠組み・仕組みを作ることができましたが、まだまだ多くの仲間の力が必要です。この活動の輪を広げ、地域に笑顔と幸せを届け続けるために、私たちはこれからも「このゆび」を、さらに大きな声で、空高く掲げていきたいと考えています。



## 大宮アルディージャ アルディージャ・フードドライブ by ABC 1/2

ABC(アルディージャビジネスクラブ)のテーマの一つである「地域貢献活動を共有しよう!」に基づく活動として、大宮アルディージャならびに大宮アルディージャ VENTUSのホームゲームにおいて余剰食材の収集ブースを設置。収集した食材は適時、さいたま市と連携し、県内子ども食堂および福祉施設等に寄贈されます。

**活動場所** NACK5スタジアム大宮、まるまるひがしにほん 東日本連携センター



### 協働者

企業、住民、行政、ファン・サポーター

### 協働者名

ABC(アルディージャビジネスクラブ)、さいたま市、フードバンクさいたま



### 協働者の声

アルディージャビジネスクラブ幹事 アサヒビール株式会社/亀田 真吾 氏



アルディージャビジネスクラブの地域貢献活動の一環として、スタジアムに応援に来ていただいたファン・サポーターの皆様だけでなく、アルディージャをサポートいただいているパートナー企業の皆様からも余剰食材のご提供をいただくことをポイントに実施しました。シャレンの旗頭のもと、地域経済の活性化、そして更なる地域貢献のために、ABCメンバーで力を合わせ引き続き活動して参ります。



### 活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)



### カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ





大宮アルディージャ

## アルディージャ・フードドライブ by ABC 2/2

### Story

昨年の活動を引継ぎ、「フードドライブ」を軸とした活動を実施。アルディージャビジネスクラブの発案で、活動テーマの一つ「地域貢献活動」に基づき、①ホームゲーム(大宮アルディージャおよび大宮アルディージャVENTUS各1試合ずつ)での収集活動、②各企業によるオフィスで余剰食材の収集を呼びかけ・収集を実施。①ホームゲームではパートナー企業の皆さまがブースを運営し、ファン・サポーター

の皆さまからインスタント、レトルト食品、調味料等をはじめ、たくさんの食品をお持ちいただいた。②各パートナー企業からも多くの余剰食材をご提供いただき、パートナー企業自ら回収・運搬を行い、さいたま市と連携し、フードバンクさいたまに寄贈した。加えて、アルディージャ後援会でも、以前から行っていたビジターサポーターへの「ようこそ大宮へ」横断幕(コロナ禍休止中)の精神を受け継いだビジターサポーター向けの休憩スペース「アルディージャおもてなしテラス」でも、余剰食材の収集を実施。昨年よりも活動の場所、協働者ともに拡がりを見せ、来年以降に繋がる取り組みとなった。





## ジェフユナイテッド千葉

### みんなの想いを載せて迎えたホーム開幕戦 1/2

多くの人の思いを寄せることになったスタンド清掃のおかげで、試合も後半に追いつきドローゲーム。コロナ禍の観戦マナー遵守を呼び掛けるために、ファン・サポーターと実施したいと考えていたフクダ電子アリーナのスタンド清掃。明治安田生命千葉南支社君津営業部の方々32人がボランティアでご協力くださり、蘇我スポーツ公園の指定管理者とジェフスタッフと三者共同でホームゲーム開幕戦の前日に実施。サポーターからは、感謝とコロナ禍での観戦マナー遵守の声がたくさん寄せられた。



活動場所 フクダ電子アリーナ



協働者

企業

協働者名

明治安田生命保険相互会社、  
蘇我スポーツ公園指定管理者SSP UNITED



協働者の声

明治安田生命保険相互会社 千葉南支社 君津営業部／緒志 真巳 氏  
(指定管理者SSP UNITED場長)



ジェフサポーターの一員としてコロナ禍でも私達に出来る事を相談させて頂き、座席清掃をする事となりました。約5時間、30人のメンバーでひたすら椅子を拭き、翌日には筋肉痛と戦ったものの、ジェフスタッフの粋な計らいで電光掲示板への「ありがとう」の文字が私達の胸に刻まれ、忘れられない思い出になりました。



活動詳細情報

1

[公式Twitter](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ジェフユナイテッド千葉

## みんなの想いを載せて迎えたホーム開幕戦 2/2

### Story

コロナ感染対策として2020年よりかなり回数とコストをかけており、指定管理者の負荷ともなっていたフクダ電子アリーナのスタンド清掃。一方コロナ禍の観戦マナー遵守の啓発活動をどう行っていくかを考えていた、そんな折に、明治安田生命君津営業部(以下君津営業部)の方々から、「ジェフと一緒に何か地域貢献活動をしたい。」というお話をいただいた。コロナの影響が激しく、街中にて地域活動を一緒にやるということは難しい状況だったので、スタンド清掃を提案したところ、地域のため、ファン・サポーターのため、そしてジェフのためということで、ご快諾いただき、新シーズンが始まる前が



良いということで、開幕戦前日にスタンド清掃を一緒に行った。

当日は32人の君津営業部の方々と指定管理者、ジェフユナイテッドが協働で、スタジアム内の全座席拭きと通路の清掃を実施。座席拭きは単調で、かつかがみながらの作業なので心が折れそうになった方もいらっしゃいましたが、お互い声を掛けながら、約5時間かけて完了。また君津営業部の皆さまにご協力いただいたのでスタンド清掃の費用が削減されたということで、指定管理者からは、お礼として、君津営業部の参加者の皆さまに翌日のジェフ開幕戦のチケットとジェフグッズをプレゼントするという粋な図らないもあった。

しかし君津営業部の方々の活動に一番喜んでくれたのはジェフサポーター。この様子をTwitterにあげたところ、サポーターからは感謝のメッセージが続々。「寒い中、ありがとうございました。」「水が冷たくて大変だったでしょう。」といった感謝の声から、「試合後も綺麗な状態になるよう身の回りをチェックします。」「ゴミを残して帰らないようにします。」



といったマナー遵守の声まで。みんなで作り上げた開幕戦となった。



## 柏レイソル スタジアム見学 1/2

新型コロナウイルスの影響により制限はあったが、少しでも子どもたちに楽しんでもらいたいという思いから普段はなかなか入ることのできないスタジアム内を開放した。柏レイソルを知ってもらい、実際に試合を観に来てもらうために選手が試合で使っているピッチ内で走り回ったりと子どもたちの元気な姿が見受けられた。ピッチ外ではロイヤルルームや選手が実際に使用するロッカールームを案内した。



活動場所 三協フロンテア柏スタジアム



協働者

学校

協働者名

柏市内小学校



協働者の声 柏市内小学校 教員

普段は絶対に入れない場所(ピッチ内やロイヤルルーム等)に入ることができ、子どもたちにとって初めての体験でとても貴重な経験となりました。



活動詳細情報

1

[柏市立酒井根東小学校HP](#)



カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ





柏レイソル

## スタジアム見学 2/2

### Story

2020年より新型コロナウイルスの影響でJリーグの試合が延期になり、ホームタウンの活動も出来なくなっていました。

その中でも可能な限りできることを探し、地域の小学校への食品などを提供したり、少しでも地域との繋がりを大事にしなければいけないと思っていました。また、学校行事などがコロナの影響で中止になることが多く、学校外で学ぶ機会が減っているという情報を知りました。

その中で柏市内の小学校から声をかけてもらい、コロナ禍で対面のイベントが中々難しい状況ではありましたが、今回の活動を実施することができました。



活動としては、普段から選手が使用をしている三協フロンテア柏スタジアムの中を案内をし、実際に選手たちが試合をしているピッチを開放すると子供たちはもちろん、先生方にも喜んでいただきました。その他には、ロッカールームやVIPルームの見学や試合時にファン・サポーターが観戦してる席に案内をし、スタジアム全体や席から見える景色を子供たちに見てもらいました。最後には質問コーナーを設けて、気になったことや大人になったらサッカー選手になってこのスタジアムのピッチに立ちたいなど将来の夢を語ってもらいました。

イベントを通して子どもたちが楽しそうな表情をしていてクラブスタッフも改めてやりがいを感じ、とても充実した日になりました。

年間で10校近くの小学校とイベントの実施を予定をしていましたが、緊急事態宣言やまん延防止による情勢悪化により中止となってしまいました。

今後はコロナの状況にもよりますが、地域住民とのコミュニケーションを増やし、地域の方々に柏レイソルを応援してもらえるようにホームタウン活動を増やしていきたいと思っています。





## FC東京

### 学校教材まで作成！みんなで子どもの心と体づくり 1/2

「地域の中で友達と元気に遊び、スポーツを楽しむ。そんな子ども達の姿を増やしたい!!」そんな想いでこの活動は始まりました。プロコーチたちが重ねてきた専門性・実績、教育委員会との信頼関係をもとに、「動き作り」の内容が詰められ、ドリル教材となり、誰一人取り残さないためにも大切な学校体育の授業で導入され、カテゴリーとなりました。まずはFC東京を株主として支える6行政(府中・三鷹・調布・小平・西東京・小金井)の小学1年生全員に配布されスタート。今後、さらなる拡大を目指します。



#### 活動場所

府中市立若松小学校をはじめとする府中市・三鷹市・調布市・小平市・西東京市・小金井市の各市立小学校ほか



#### 協働者

企業、学校、行政

#### 協働者名

学校法人帝京大学、府中市教育委員会、府中市、調布市、三鷹市、小平市、西東京市、小金井市



#### 協働者の声

府中市教育委員会／進藤 智洋 氏



児童・生徒の体力向上に向けて、FC東京と会話を重ねる中で、子どもたちが運動に親しむための意欲付けや多様な動きの習得などについて共通課題認識を持つことができ、低学年期に焦点を当てた「あかあおドリル」作成にたどり着きました。今後も子どもたちのために、健全育成や教育についての連携を深めていきたいです。



#### 活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [フジテレビTwitter](#)
- 3 [三鷹市HP](#)
- 4 [調布市HP](#)
- 3 [朝日新聞記事](#)



#### カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





FC東京

## 学校教材まで作成！みんなで子どもの心と体づくり 2/2

### Story

2020年、コロナウイルスの影響により、休校や分散登校など、子ども達は活動制限を余儀なくされ、大きなストレスを抱えることになりました。この状況に対して、クラブとして何か出来ることはないか？そんな思いから自宅でも楽しく体を動かすことに挑戦できる動画を製作、クラブや行政のホームページから発信するとともに、小学校にデータを展開、活用してもらいました。その一方で、クラブは設立当初から学校にコーチがお邪魔し、サッカーや体を動かす楽しさを伝える「キャラバン隊」やその方法を考える「教員研修」など様々な普及活動を行ってきました。そうした活動



を続ける中で、幼少期の運動体験格差が、体力低下や運動嫌いの子を生み出す一つの要因になっているのではないかと。それに対して教育委員会と連携して取り組めることはないかという会話を重ねてきました。

そして、学校教科外で子ども達の運動時間を増やすことや、体育が専門でない先生でも体を動かす楽しさをより伝えやすくすることを想定し、学習指導要領の内容に沿った体育授業の副教材を製作、学校で活用してもらう取り組みを行うことにしました。

体育授業や生涯スポーツの知識はあるものの、課題はその製作費用でした。そうしたところ帝京大学さまがこの取り組みの想いに共感、協賛していただき、製作することができました。

制作したドリルは都内小学1年生約10,400人に無償配布し、活用をしてもらっています。またコーチによるドリルを活用した授業や、活用方法を検討する先生との研修を行い、その展開を深めています。現場の先生方からは「子ども達が意欲的に活動に取り組んでいる」や「分かりやすく体育授業の中で活用している」といった声が届いています。



今後、この取り組みを継続し理解者を増やす中で、「体を動かすことが楽しい」と感じる子どもを増やし、生涯を通じてスポーツを楽しむ風景を増やしていきたいと思えます。



東京ヴェルディ

## Green Heart Room 1/2

“センサリールーム”の、その先へ。様々な障がいのある方がご家族でJリーグの試合観戦を楽しめるように、東京ヴェルディは特別支援学校、パートナー企業、スタジアムと協働で、「Green Heart Room」を運用しています。Green Heart Roomでは、センサリールームの主な対象となる自閉症や感覚過敏だけでなく、様々な障がいのある方や、ご家族に障がいがありスタジアム観戦への心理的ハードルが高い方のために、毎回部屋をカスタマイズしています。コンセプトは、自宅のリビングルームにいるようにリラックスしてJリーグを観戦していただくことです。

 **活動場所** 味の素スタジアム

 **協働者**

企業、学校、スタジアム

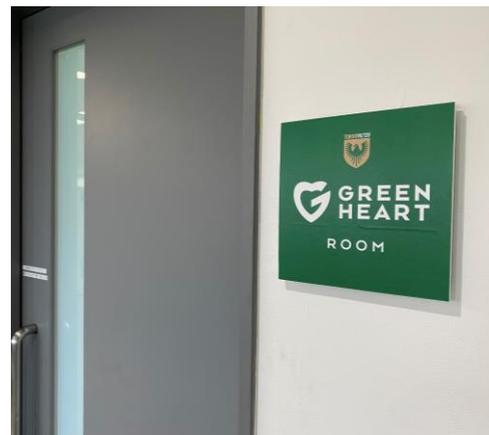
**協働者名**

東京都立多摩桜の丘学園、株式会社エムール、味の素スタジアム

 **協働者の声** 株式会社エムール／代表取締役 高橋 幸司 氏



継続性が大切で、この活動を日本全体に広げていかなければいけません。その際に私たちは活動の知見を独占するのではなく、様々な方に活用してもらえるような仕組みを作らないといけません。今回ははじめての一步だということを忘れずに、当たり前はこの活動を続けていきたいと考えています。  
※初回実施時コメントより抜粋



 **活動詳細情報**

1 [公式サイト①](#)

2 [公式サイト②](#)

 **カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





東京ヴェルディ

## Green Heart Room 2/2

### Story

「ヴェルディさん、センサリールームだと自閉症や感覚過敏だけが対象になってしまうから、どんな障がいのある方でも受け入れる部屋をつくってはど  
うですか？」

東京ヴェルディのGreen Heart Roomは、この言葉から始まりました。

2021年2月、私達は大きな音や照明が苦手な方のためのセンサリールーム導入を考えていました。そこで当事者目線のご意見を聞くため、スポーツ指導で訪問している特別支援学校多摩桜の丘学園にご相談したところ、冒頭の言葉をいただいたのです。

私達は「センサリールーム」という言葉にとらわれ



ていたことに気づきました。すぐに方針を変更して先生方に様々なアドバイスをいただき、クッションやラグにベッド等、必要な備品をリストアップしました。

次にご相談したのは株式会社エムール。寝具・インテリアのメーカーで、長年クラブにご協賛いただいています。私達の想いをお伝えしたところ、二つ返事で全ての備品をご提供くださいました。

多摩桜の丘学園児童・生徒の皆様からご利用希望の方を募集すると、たくさんのお申込みが。2021シーズンは5試合で実施しましたが、各試合ともご利用の方に事前のヒアリングを行い、障がいごとの特性に対応できるように部屋をカスタマイズして当日を迎えました。

味の素スタジアムにもご協力いただきながらお迎えした5家族の皆様には、幸いご満足いただくことができました。試合を観ながらクッションでくつろいだり、部屋で遊んだり。試合の前後には、ヴェルディのコーチがアトラクションやプレゼントを用意して盛り上げます。ご家族で楽しい時間を過ごしていただき、その思い出が東京ヴェルディとつながって



いる。そのことを大変うれしく思います。

私達はスポーツが生み出す身体の健康や心の穏やかさを、Green Heartという言葉で表現しています。その環が広がっていくよう、今後も活動を持続していきます。



## FC町田ゼルビア

### 障がいの有無に関わらず安心して暮らせる街を目指して 1/2

「ゼルビアと一緒に学習がしたい！」行政からの問いに男性は真っ先にこう答えた。男性はJリーグクラブを応援するためスタジアムに足繫く通っていた。だからこそ一緒にという熱い思いがあった。障がい者の方が社会で生活しながら学び続けられる講座を！町田市が『いのちの価値に優劣はない』と考え、共生社会の実現を目指していくために計画された「町田市障がい者プラン21-26」講座の検討過程で、聴覚障がい当事者の「ゼルビアと一緒に学習がしたい！」という答えがFC町田ゼルビアとのコラボをうみだし、試行錯誤の後に10月から3週に渡る講座が行われた。



**活動場所** 町田市生涯学習部生涯学習センター、町田GIONスタジアム



**協働者**

企業、行政、民間団体

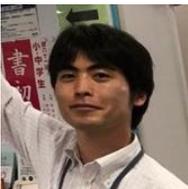
**協働者名**

町田市生涯学習部生涯学習センター、株式会社TERADA、町田市社会福祉協議会、町田市身体障害者福祉協会、町田市聴覚障害者協会



**協働者の声**

町田市生涯学習部生涯学習センター／岩田 武 氏



ゼルビアさんやTERADAさんと講座づくりをしたことで、講座の中にいい意味での驚きを詰め込むことができ、今まで想像したことのないような新鮮な体験が、参加者のやる気向上に繋がりました。単独ではできない素晴らしい講座ができたのは、3者が連携したからこそです。今後も協働して町田を盛り上げていきましょう！



**活動詳細情報**

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)



**カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ**





FC町田ゼルビア

## 障がいの有無に関わらず安心して暮らせる街を目指して 2/2

### Story

町田市内では、障がい者の重度化・高齢化などの問題が深刻化。障がい者数も年平均2.3%増加し、近隣同士の相互扶助などが衰退する中、地域で暮らし続ける関係性が不可欠だ。行政は障がい者の『余暇活動』に着目、社会や健常者との接点として学習講座を開設し、当事者の意見からクラブとの協働が実現した。

3日間を同会場で実施の予定でしたが、より社会生活に近く賑わう場がお互いの理解を深めると考えた際に、株式会社TERADAが活動意義に賛同し、試合会場を活用した講座が実現。懸念点の参加者



も定員を超え、当事者と健常者の参加が決定。

第1回は公民館にて開催。参加者の戸惑いが見られる中、「私は聴覚障がい者だけど手話がわからない」と1つ意見がでると「伝え方に困る」など正直な自分の思いが行き交い、緊張が解け始め、スポーツスタッキングなどの遊びを終えた頃には自然と笑顔が溢れた。

第2回は試合会場で開催。初来場者も多く、人ごみでの行動に緊張感が漂っていた。場内での看板清掃では作業工夫が見られ、場外での自由時間は、疲れた方の横に寄り添い楽しくお話しする姿、注文を手助けする姿など、グループワークで芽生えた絆を見ることができた。

最終回では、大半の方が参加前に講座への不安を抱いていたことがわかった。個々に抱える不安も違う中、全講座を通じて何を感じ・何が変化したのか。意見の多くは『他者との協働体験や学ぶことへの喜び』であった。相手を思いやり『厚かましいくらいに



接点を持ち、知らないことを恥ずかしがらずにトライする』など社会で希薄になっていることを障がいの有無に関わらず講座を通じて感じたことが大きかった。

講座を終え、相互扶助に繋がる変化を垣間見た。参加者同士が連絡先を交換し、外出の約束をされている姿はコミュニティが誕生した瞬間であった。学習講座を今後も協働していくことは暮らしを支え、安心して住み続けることができる町田の実現へと繋がる。



## 川崎フロンターレ 安心してスタジアムへ！「街歩きバリアフリーマップ」 1/2

どなたでも安心してスタジアムにご来場いただけることを目的に、富士通株式会社と共同で、街歩きバリアフリーマップを作成しました。武蔵中原駅、武蔵小杉駅、新丸子駅から等々力陸上競技場への徒歩ルートに対して、バリアフリーの観点(スロープの有無、段差有無、多目的トイレ場所など)から実際に歩き見てマップを作成。また、車いす目線を確認することができる動画も撮影しました。作成したマップはクラブ関連施設、行政施設のみならずバリアフリーを勉強している中原区内の小学4年生全員に配布し、授業等で活用いただきました。

**活動場所** 等々力陸上競技場

**協働者**  
企業、住民、学校

**協働者名**  
富士通株式会社、東洋大学名誉教授(高橋儀平)、川崎市中原区内全小学校、川崎フロンターレサポーター

**協働者の声** 富士通株式会社 企業スポーツ推進室 / マネージャー 田中 雄輝 氏



スクール生(小学生)と一緒に車いすに乗りながらスタジアムまで歩き、障がいのあるサポーターと一緒に、試合も観戦しました。やっと実現できたこの日は、フロンターレが優勝を決める試合となり、スクール生と障がい当事者が1つの空間で喜びを分かち合えるととても貴重な1日となりました。



### 活動詳細情報

- [1 公式サイト①](#)
- [2 公式サイト②](#)
- [3 TBS公式Youtube](#)
- [4 朝日新聞記事](#)
- [5 日経新聞記事](#)

### カテゴリー(SDGs) / 取り組みテーマ





川崎フロンターレ

## 安心してスタジアムへ！「街歩きバリアフリーマップ」 2/2

### Story

障がいの有無関係なく「誰もが」サッカーを「観る」ことが出来る。ダイバーシティにおいて当たり前のことであり、実際に等々力陸上競技場には「車いす席」もあります。ただ、車いす席で来場の方はほぼ車で来場されているのが実態。では、お車をお持ちでなかったら？ 駅から車いすでスタジアムには来場できないのか？ 車いすの方だけでなく、初めてスタジアムに来られる方や道なり不安な方は、その不安を抱いたままスタジアムに来場するのか。その「不安」を「安心」に変えるべく、富士通株式会社さまと議論したのが、ちょうど1年前の2020年冬ごろ。そこから話し合いをしつつ、「バリアフリーマップの



作成」に向けて動き出しました。2021年2月。フロンターレサポーターのみなさんに協力してもらい実際の経路を一緒に歩いて確認。車いすを利用しているかたもご参加くださり、歩道がない場所や狭い道など普段意識しなかった部分に気がつくことができました。2021年4月。この下調べを元に、スクール子どもたちに見て回ってもらおうと思い、「街歩きバリアフリーマップ作成イベント」を企画。しかし感染状況を考慮し中止に。時は過ぎ、2021年11月。緊急事態宣言の解除を待ち、作成したバリアフリーマップの印刷をしました。さらにマップに掲載されている中原区内の全小学校に配布。小学4年生のバリアフリーについて学ぶ子どもたちを対象に、いつも通る道をあらためて観察する機会になればとの思いでした。11月3日(水・祝)の浦和戦の日には実際にマップを見ながらスタジアムへの来場イベントを実施。スクール生を対象に車いすに乗りながら等々力競技場へと向かいました。徒歩ルートは、道幅、段差、勾配、歩車分離などの観点で、より安全な道をひとつひとつ選んでいます。事前に情報を



公開することで、一人でも多くのひとが安心してスタジアムを訪れることができるようになることを願い取り組みました。



## 横浜F・マリノス

### はまっ子交通あんぜん教室～新たなパートナーシップの形～ 1/2

交通事故は、日常で最も身近な社会問題のひとつ。明日あなたが巻き込まれてもおかしくない。交通事故から未来ある小学生を守りたい。そんな想いで横浜市港北区役所、港北警察署、港北交通安全協会そして我々横浜F・マリノスが取り組んでいるのが「はまっ子交通あんぜん教室」だ。この活動に2021年から力強い仲間が関わった。F・マリノスの地域活動への想いに共感し2020年にF・マリノスとオフィシャルパートナー契約を締結したアネスト岩田株式会社だ。地域団体・Jリーグクラブ、地元企業の新しいパートナーシップの形とは。



**活動場所** 港北区市内立小学校 26校



**協働者**

企業、学校、行政

**協働者名**

アネスト岩田株式会社、港北区役所、港北警察署、港北交通安全協会、一般社団法人チアリーダーズ協会 (Tricolore Mermaids)



**協働者の声** アネスト岩田株式会社／和田 真志 氏

横浜F・マリノス様のマスコット『マリノスケ』をキャプテンに一丸となって、未来をになう子供たちを守り、また、成長につながる活動を行っていきたくて考えております。交通安全教室は交通ルールを学ぶ場だけではなく、地域の方々とのふれあいの場として、今後は参加する仲間を増やして活動の輪を広げていきたいです。



**活動詳細情報**

1

[公式Twitter](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





## 横浜F・マリノス

### はまっ子交通あんぜん教室～新たなパートナーシップの形～ 2/2

## Story

交通事故—それは、日常で最も身近な社会問題のひとつ。明日あなたが巻き込まれてもおかしくない。そんな交通事故から未来ある小学生を守りたい。そんな想いで横浜市港北区役所、港北警察署、港北交通安全協会そして我々横浜F・マリノスが取り組んでいるのが「はまっ子交通あんぜん教室」だ。

はまっ子交通あんぜん教室は港北区内全26の小学校を巡回して実施するプログラム。道路の歩き方、自動車の死角・制動距離・内輪差、自転車の乗り方・注意事項等を指導している。長年やってきているこの活動に2021年から力強い仲間が加わった。F・マリノスの地域活動への想いに共感し2020年に



F・マリノスとオフィシャルパートナー契約を締結したアネスト岩田株式会社。港北区に本社を置くアネスト岩田から「よりよい地域創りの為に交通あんぜん教室にぜひ協力をしたい」と申し出を受けてからわずか一か月後、はまっ子交通あんぜん教室の現場にはアネスト岩田の社員の姿があった。本活動は巡回先の学校の保護者の方々20名程にボランティアでお手伝いをいただくのだが、必要な人数が不足することも少なくなかった。そこをアネスト岩田の社員の方々に補ってもらうことになったのだ。さらに、持ち込んでいただいた主力製品;スプレーガンは炎天下の子供たちに涼を届けるミスト発生装置に早変わり。BtoBのアネスト岩田と子供たちに思われぬ接点も。「交通事故から小学生を守りたい」その共通の想いの下に生まれた、地域団体・Jリーグクラブ、そして地元企業の新しいパートナーシップの形ではないだろうか。そして、この活動はもっとパワーアップできるはず。



2021年、神奈川県は交通事故死亡者数が142人、全国ワーストを記録。この状況を打破するためにみんなのチカラでより良い活動へと進化・深化をさせていきたい。書きたいことはまだあるけど字数制限の為にこのへんで！



## 横浜FC

### 横浜市内の中学生向けSNS講習 1/2

現在、スマートフォンを所持している小中学生が増えてきているなかで、89.8%と約9割がSNSを利用しています。

そこで、SNSをきっかけとしたトラブルや問題に遭遇し、ときには犯罪に巻き込まれてしまうこともあります。そこで、横浜FCはそのような課題に対し、株式会社SNSコーチ様とともに課題解決に寄与するためにSNS講習を実施しております。講習の中では、SNSの正しい使い方や、発信する際に気をつけるべきこと、炎上してしまった時の対処方法などの講習を実施しています。



**活動場所** 横浜市立篠原中学校、横浜市立丸山台中学校



**協働者**

企業、学校

**協働者名**

株式会社SNSコーチ、横浜市立篠原中学校、横浜市立丸山台中学校



**協働者の声** 株式会社SNSコーチ／伊藤 拓真 氏



社会問題にもなっている「若年層におけるSNS利用の問題」は認識していましたが、「好きなこと・興味があること」の発信が、より良い未来につながると私たちは信じています。横浜FC様と協働し、SNS発信の危険性だけでなく、自分の未来の可能性が広がることも伝え、「楽しく、健全なSNS発信」を伝えていきます。



**活動詳細情報**

1

[協働社公式note](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





横浜FC

## 横浜市内の中学生向けSNS講習 2/2

### Story

SNSに関する課題が多くなっている現代社会において、多分に漏れず横浜市内の中学校でもSNS上での生徒同士のコミュニケーション不足、誹謗中傷コメントの発見、ゲームアプリへの課金、など「SNS (LINE・Twitter・Instagram等)について生徒たちからの相談件数が増えている」という深刻な問題と危機感を持っている現状であることを受け、インナー向けではあるが日頃からSNS講習を受けている横浜FCが持つナレッジやネットワークを活用し横浜FCオフィシャルパートナーの株式会社SNSコーチ様と連携し、篠原中学校(1年生:134人)丸山台中学校(1年生:185人)を対象にアウター向けの



SNS講習を行いました。1年生の9割以上の生徒がスマートフォンを所持しており、DMで詐欺メッセージを受け取ったことがある生徒もあり危険が隣り合わせにある実例などを挙げて、自身の両親に相談をする、サイバーセキュリティホットラインに連絡するなどの解決策を伝えました。

研修内容の概要としてはSNSを正しく使用する上での、「常に誰かに見られている事を意識すること」「一般的なルールを守ること」「それぞれの立場を意識すること」の3つのマインドセットの説明をし、リアルとネットの違いや不適切な投稿の危険性などのリスクに対する正しい理解とSNSのマナーや正しい使い方を学んで頂きました。

また、講習実施後にアンケートを実施。「SNSの危険性について知ることが出来た」「SNSを上手く活用することで、素晴らしい世界があることも知れた」「危険メールなどは勇気をもって相談する」など、しっかりと当事者意識を持った感想をいただくことができました。今後は、対象者の幅を広げ小学校、高校でもSNSにまつわる課題解決への取り組みや使い方を講習していきたいと思ひます。





Y. S. C. C. 横浜

## 寿町自己啓発プロジェクト 1/2

寿町はかつての高度成長期を陰で支えた日雇い労働者が数多く暮らす地域ですが、その多くが現在では高齢化しています。特に食事を始めとした健康管理がほかの地域と比較にならないほど大きな社会問題となっています。スポーツだけではこの寿町が抱える社会問題は解決できないと考え、各種団体と寿町に特化したプログラム『寿町自己啓発プロジェクト』を立ち上げました。『食事・栄養』『口腔衛生』『健康体操』を実施し、街の特性に起因する社会課題の解決に向け活動しています。



活動場所 横浜市寿町健康福祉交流センター



協働者

企業、NPO、住民

協働者名

株式会社伊藤園、横浜市中区スポーツ協会



協働者の声

株式会社伊藤園／小島 直樹 氏



弊社商品1日分の野菜ドリンクをご提供し地域密着のY.S.C.C.様と栄養講座を開催でき、ありがたく思います。食文化の移り変わりが激しい中、栄養成分の正しい摂取の知識にして頂ければ幸いです。今後も積極的に参加させて頂きたく思います。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)

2

[公式Youtube](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





Y.S.C.C. 横浜

## 寿町自己啓発プロジェクト 2/2

### Story

1986年の創立以後、「地域はファミリー！」のクラブ理念のもと、ホームタウンである横浜市中区を中心に様々な地域貢献活動を行ってきました。ホームタウンである中区には、寿町というかつての高度経済成長を陰で支えた日雇い労働者が数多く暮らす地域があります。その地域も現在は高齢化が進んでいたり、生活保護を受けながら生活をしている方も多く、部屋に引きこもりがちになり健康状態が悪化しているなど社会課題となっています。

Y.S.C.C.の根底にある地域はファミリーを体現する為、各種団体と協力し「Y.S.C.C.元気プロジェクト」を立ち上げ、街の特性に起因する社会課題の

解決に向けて活動しています。

「スポーツの力で全ての人の心と身体を元気に！」「地域を幸せに、世界を平和に！」をテーマに老若男女、年齢や性別を問わずにどなたでも参加できる内容となっています。

横浜市寿町健康福祉交流会とY.S.C.C.と協働してこれまでに「健康体操」「食育・栄養」「睡眠」「体の痛み予防」を専門家の方々にも協力をいただき、生活に役立つさまざまな講座を行ってきました。参加者の中には精神疾患の方や身体の不自由な方もプログラムに参加をしてくれています。これまでの参加者は約700人を超えておりたくさんの方々にプログラムに参加をしていただいております。参加者の皆さんに楽しみながら学んでいただき、心も体も健康になるような取り組みを今後も住民の皆さんの課題に沿って行っていき、一緒になって課題解決に取り組んでいきたいと考えています。

「Y.S.C.C.元気プロジェクト」はすべての人々に元気を与え続けることが目標です。地域の方々と共に課題解決に取り組んでいけるよう、活動を続けていきたいと思ひます。





## 湘南ベルマーレ 湘南オリーブ 1/2

2020年「湘南オリーブ」事業への協力を開始。オリーブの商品PR・販売のみならず、耕作・収穫に参加。売上の30%はスポーツ振興費として湘南ベルマーレガールズチームの活動に役立てる。ユニフォームスポンサー 産業能率大学の学生が地域創生の授業の中で耕作・収穫、商品企画を、現役フリーガー鍛代選手はセカンドキャリアとして自ら不耕作地を取得、実証実験を行うなど 多くの協働者と一体となって不耕作地の活用、スポーツ振興、産業振興に取り組みながら、二宮を中心としたホームタウンの持続可能な名産品の誕生を目指す。



**活動場所** 二宮町、中井町、平塚市、秦野市、伊勢原市の各オリーブ耕作地



**協働者**

企業、行政、商工会

**協働者名**

二宮町、二宮町商工会内湘南オリーブ推進チーム、株式会社ファームビレッジ湘南



**協働者の声** 二宮町商工会／片岡 宇一郎 氏

「湘南オリーブオイル」は、海と山に囲まれた温暖な二宮の立地を活かして栽培されるオリーブを搾油した、搾りたての繊細な「生」のオイル。二宮町商工会が地域ブランドとするべく、湘南ベルマーレ様ほか地域オリーブ関連団体、農場、ホームタウン各行政と協働で活動しており、味の良さが広がった近年、人気を博しています。



**活動詳細情報**

1

[公式サイト](#)



**カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ**





## 湘南ベルマーレ 湘南オリーブ 2/2

### Story

ホームタウン湘南・西湘エリアでは、少子高齢化や産業構造の変化に伴う不耕作地の増加が問題となっています。そうでない耕作地においても豊かな自然故の野生動物による被害に頭を悩まされてきました。

そこで始まったのがオリーブの栽培。この地ならではの風土が栽培に適し、鳥獣被害も少ないオリーブは新たな産業の柱になり得ると、二宮町が普及の後押しをスタートしました。この時クラブもオリーブ栽培の振興を依頼されましたが、クラブは農業法人ではないため、パートナー企業の関連会社である農業適格法人(株)ファームビレッジ湘南がこの動きに



参加。中井町、平塚市、秦野市、伊勢原市でも植樹・栽培やノウハウの共有を行い、収穫量の増えたオリーブは製品化に至りました。

ここに発信力・販路を持つ湘南ベルマーレが加わり、二宮町商工会内湘南オリーブ推進チーム、ファームビレッジ湘南との三者による社会連携活動として取り組みが始まりました。

耕作・収穫にはアカデミーコーチ、フロントスタッフ、NPOスタッフなどが参加。クラブは商品として加工されたオリーブオイルや新漬けオリーブ、全身用保湿ジェル等を仕入れ、ホームゲーム等で販売。売上の30%を湘南ベルマーレガールズチームの活動に役立てます。販売ブースでは選手ら自らも商品のPRや呼び込みを行いました。

「リピーターも現れるほど好評で、収入は大きな助けになります。この事業をきっかけに、他にも地域の特性を活かした同様の取り組みが展開できれば、クラブの新たな収入源としても期待できます。引き続き力を注ぎながら、新たな活動の幅を広げていきたいです。」



そう担当者が手応えを渗ませる通り、ブースでの完売、ふるさと納税の返礼商品への起用、飲食店で提供したいという声かけと、その品質の認知は進んでおり、湘南オリーブは二宮を中心としたホームタウンの名産品としての地位を確立しつつあります。



## SC相模原

### 相模原市小学校体育授業サポート事業 1/2

アカデミーコーチやトップチーム選手が小学校に出向き、体育授業を行います。単発の授業ではなく、一単元を、数日間にわたり受け持ちます。6年間をかけ定期的に授業に出向き、継続的に関わる事で、子ども達の運動能力や意識の変化を継続的に見ていきます。授業時間外にも子ども達はその動きを繰り返せるよう、準備運動には日常の遊びとリンクするような体の動かし方を取り入れる等の工夫をしています。体育指導を専門としていない先生にとっては、体を動かすようにする為の子どもたちへの声掛けや促しの参考にもなっているようです。



**活動場所** 相模原市内小学校



**協働者**

企業、学校、行政、小学校PTA

**協働者名**

相模原市立上溝小学校PTA、富士見小学校PTA、相模台小学校PTA、根小屋小学校PTA、ノジマステラ神奈川相模原(WEリーグ所属)、三菱重工相模原ダイナボアーズ(ジャパンラグビーリーグワン所属)、相模原市教育委員会、相模原市



**協働者の声** 実施小学校PTA/保護者様アンケートより

わかりやすく楽しみながら授業に取り組めたようなので、授業のあった日には楽しそうに内容を話してくれ、今まで学校での出来事を聞くことはあまり無かったので嬉しかった。



**活動詳細情報**

1

[タウンニュース](#)



**カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ**





SC相模原

## 相模原市小学校体育授業サポート事業 2/2

### Story

相模原市は、ラグビー、アメフト、男女サッカー、自転車ロードレースチームの4種5プロスポーツチームがある、全国的に珍しい地域です。一方で、2017年実施の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」で小学生男女の数値が平均と比較し低いという課題もありました。体育授業を通して地域の子どもたちに体を動かす楽しさを知ってもらうよう立ち上がろうと、2018年より2校をトライアル校にしこの事業は始まりました。

体育授業のひと単元を、アカデミーコーチやトップチーム選手が受け持つという点が特徴です。選手が学校に出向き、「夢」をテーマにした授業を



実施していますが、あくまで「特別授業」としての単発的なもの。一方で、この事業は、時間をかけ子どもの運動能力や意識の向上を図っていく為、継続性が必要です。

事業継続させる為には、予算が必要です。学校予算は限られており、PTAだったり、地域の自治会であったり、地域の商店街の方々から資金を募り、継続していく方法を模索しました。スタート校のなかの1校は、初年度からPTAが予算を捻出してくれ実施しています。

当初はSC相模原単独で始まりましたが、ノジマステラ神奈川相模原(WEリーグ)や三菱重工相模原ダイナボアーズ(ジャパンラグビーリーグワン)も加わり実施校は増加しています。

市からの予算もつくようになり、実施校は年々増えています。

SC相模原担当校は、2020年度に7校76クラス1,462名の児童を相手に117コマ授業を行いました。2021年度は、8校で149コマとなる予定です。実績をもとに支援者を募り、規模を拡大していくこと、他のホームタウンチームや近隣大学の運動部等



にも仲間に加わってもらう事で、この事業には考えられる伸びしろが、多々あります。この取り組みはまだ始まったばかりですが、将来的に市内全小学校にホームタウンチームや地域のアスリートや元選手やコーチらが子ども達の体育授業をサポートできる仕組みづくりを目指していきます。



## ヴァンフォーレ甲府 ごちゃまぜサッカー遊び 1/2

「ワンツースパスが出来て嬉しかった」これはある参加者の感想です。1人じゃ出来ないことも仲間がいればできる。今回の活動では、これまで行ってきた活動を協働者と振り返り、課題として挙げた障がいに対する「括り」に対して、「知る」ことから始まるという共通意識のもと、山梨県サッカー協会を中心に様々な方々と協働し、サッカーの特性を活かし、仲間と共にボールを蹴ることで、心を通わせ多種多様な人の考え方や個性を受け入れることの大切さを伝える場として実施しました。



活動場所 JITリサイクルインクスタジアム



協働者

企業、住民、学校、行政、  
山梨県サッカー協会

協働者名

(一社)山梨県サッカー協会、  
山梨ブラインドサッカークラブ、ヴァルカン甲府、  
(公財)山梨県スポーツ協会、(公財)住吉偕成会、  
小澤こころのクリニック、武田食品(株)、塚原眼科医院、  
山梨県



協働者の声 小澤こころのクリニック 作業療法士/柿崎 崇 氏



素晴らしい環境の中、サッカーの競技性のみではない、たくさんの可能性を感じられる活動となりました。今回の活動を通して、他者への優しさ・配慮が生まれた瞬間に立ち会う事が出来ました。普段関わる事のない方々との活動の共有は、参加者の今後の人生を豊かにするものであると感じています。



活動詳細情報

1 [公式サイト](#)

2 [公式Youtube](#)



カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ





ヴァンフォーレ甲府

ごちゃまぜサッカー遊び 2/2

## Story

自他共栄(嘉納治五郎)

スポーツを社会課題解決に活用できる。

そんな思いを持った人の繋がりで、この企画は出来ました。

ブラインドサッカークラブ代表、ソーシャルフットボールクラブスタッフ、精神科スタッフ、支援学校の教員。その対話の中で、出てきたのが「障がい」という言葉があることで「括られる」「ラベリング」されるということ。そして、「日陰を歩く」という意識を持ったご家族がいるという現実。

クラブでは、これまでも「ボールは誰にでも平等に転がる」を合言葉に様々な特徴を持った仲間と一緒に



に活動してきました。一緒にボールを蹴れば蹴るほど感じる「何の違いもない」とこと、「それぞれがそれぞれに違いがある」ということ。

この2つのリアルを結びつけることで、課題を解決出来ると感じました。

キーワードは、「ごちゃまぜ」「知る」

従来の体験イベントのように障がいの種類によって括らず、全ての人を「ごちゃまぜる」ことで、先入観を持たず目の前の人と触れ合う中で、自分が感じたままが「その人」であるということ。

イベント当日、集まったのは支援者を含め6歳から75歳までの154名。

相手のことを知る情報は胸に張った手書きの名前だけ。真っ白な状況で、初めて会った人とボールを蹴り、話し、相手のことを知る。そうすると、自然と仲間が出来る。

イベントが終わり、参加者からは、「ボールを一生懸命に追いかける表情は子ども、病児、親、コーチまで含めて皆同じ」「誰がどんな障がいがあるか分からなかった」「初めて会った人と少し話ただけで



すぐにうちとけられた」というような声が聞かれました。

正直、開始前は「ごちゃまぜ」に怖さも感じていましたが、色々な人がいるのが社会そのものと捉え進みました。その不安とは裏腹に人の「優しさ」が満ち溢れた空間になりました。

これからも、1人でも多く「自分も周りのみんなと一緒に良くなれる」と考える人を増やしていきたいです。



## 松本山雅FC

### スタジアムトイレに生理用品の設置と生理への理解 1/2

子どもたちの生理の貧困・生理に対する知識が浅いという課題があり、REDBOX JAPAN様にご協力いただき、まずは生理についての理解を深めてもらおうと、松本山雅のレディースU-15や地域の女子選手に向けて、フェムケアに関する講習(Feminine(女性の)とケア(Care)をかけあわせた用語)を行いました。性別問わず理解を深めてもらいたいと考え地域の皆様に向けて、オンラインで講習を配信しました。試合の有無に関わらず、スタジアムトイレに生理用品を設置しています。



**活動場所** サンプロアルウィン(スタジアム)



**協働者**

NPO、住民

**協働者名**

REDBOX JAPAN、松本山雅FCレディースU-15選手、TOYBOX(施設管理者)



**協働者の声**

REDBOX JAPAN/木戸 彩 氏



生理用品をスタジアムに設置する取り組みは女性サポーターへの理解から英国のセルティックFCで実施されましたが、日本のサッカー界では松本山雅が初めてです。若い年代の選手たちへ正しい生理の知識を伝えること、クラブが主体となり生理に対してオープンな環境をつくること女性がスポーツの発展につながればと思います。



**活動詳細情報**

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)



**カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ**





## 松本山雅FC

### スタジアムトイレに生理用品の設置と生理への理解 2/2

## Story

「生理の貧困」という言葉を新聞やSNSで目にし、身近に感じていたものの、実際クラブとしてどんなことができるのか模索しているところでありました。そんな中で、クラブのホームタウン活動を通して、REDBOXJAPANの方と出会いました。「REDBOXJAPAN」とは、学校に無料の生理用品を詰めた赤いボックスを提供することで、生理中の若者を支援することを目的としたイギリス発祥のチャリティー団体の日本支部になります。生理に関する様々なお話をお伺いし、生理についての理解が不十分で生理用品を使用しない、また使用した生理用品を水に流してしまい環境問題になっていると



いうことを知り、大変驚きました。REDBOXJAPANと打ち合わせを重ね、松本山雅FCレディースU-15や他のチームの女子選手に向けて、生理に関する基礎知識や体のケア・生理用品の使い方等についてご講演いただきました。また、講演の様子を一般の方向けにオンライン配信しました。講演を聞いた選手たちから「これからもっと自分の体を知り、自分の体を大切にしたいと思う」という感想がありました。講演会の他に、スタジアム内のトイレに生理用品を設置することにも取り組みました。REDBOXJAPANの方と初めてお話した時に「トイレトーパーのように当たり前に生理用品がトイレにある習慣を作り、誰でも自由に使用することができたら」「生理用品の設置を通して女性の活躍を応援したい」という言葉がずっと胸に残り、実施したいと強く思っていました。今回環境整備が実現できて本当によかったです。



また、松本市の教育長を訪ね、この取り組みについてお話すると、とても良い取り組みなので、市内の他の施設でも取り入れていけたらと、うれしいお話をいただきました。シャレンアウォーズをきっかけにこの取り組みが他クラブに、また地域に広がっていくことを願っています。



## AC長野パルセイロ

### 食べて応援！「テイクアウト&マルシェPV」1/2

新型コロナウイルスの影響により経営に打撃を受けている地域のステークホルダーの皆様と連動少しでも課題解決ができないかという思いから、AC長野パルセイロではホームタウンの飲食店・農家を集めたテイクアウト・マルシェイベントを実施。同時にアウェイゲームを長野Uスタジアムで放映しパブリックビューイングを開催した。コロナ禍における販売機会の確保とともに、失われつつあったイベントを開催することにより・スポーツを通じた市民コミュニティの場を創出し地域活性化に繋がった。



活動場所 長野Uスタジアム



協働者

企業、行政、飲食店、農家

協働者名

長野市、長野商工会議所、地元飲食店、地元農家



協働者の声

Blue wing(地元飲食店)／宮川 和巳 氏



コロナ禍で地域が沈んでいる中、食とスポーツを通じ地域活性化していきたいとパルセイロの趣旨に賛同し協力しました。お店としてはお弁当の売上など嬉しい部分だけではなく、地域のシンボルであるパルセイロを通じて大変な時期だからこそ皆が手を取り連携し現状打破に繋げて行くことに意義を感じました。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





## AC長野パルセイロ

### 食べて応援！「テイクアウト&マルシェPV」 2/2

## Story

この企画の背景の一つ目として、ホームゲーム会場での飲食店の出店者が増加傾向である。また二つ目として、AC長野パルセイロが地域の農産物をECサイトを通じて販売(マルシェ)を開始した事が挙げられる。共通した課題として、どちらもコロナ禍により新たな販売機会へのニーズが高かった。クラブとしてはこのような時期だからこそクラブの価値を再認識し、地域と共に協働し困難を乗り越えて行きたいという強い想いがあった。

ホームタウンである長野市(行政)と相談する中で、市としても長野Uスタジアムの利用率を高める為、ホームゲーム以外での活用という課題があり、



お互いの課題を解決する為のイベント企画が立ち上がった。さらに地元商工会議所にも賛同いただき、地域の課題を解決すべく長野市(行政)・商工会議所・クラブの3者が協働することができた。また事業費においてはスポーツクラブによるコロナ緊急支援事業(休眠預金等活用事業 2020年度緊急支援枠)を活用。

イベントは10月24日に【食べて応援！「テイクアウト&マルシェPV in 長野Uスタジアム】として食べて・観て地域を応援するをコンセプトに実施。地元飲食店12店舗のお弁当。また5農家が季節の野菜や果物を持ち寄り販売。人気のお弁当は開始20分で売切れ、パブリックビューイング開始前には全てのお弁当が完売となった。また今イベントの工夫としては単発的ではなく、このイベントをきっかけにお店を知ってもらい、後日実店舗に足をはこんでいただく為、限定のクーポン付きチラシを会場で配布。その後の新規来店に繋がったと飲食店から嬉しい声もあった。



今回クラブとしても初めての試みではあったが、このイベントに対して長野市から好評の評価をもあり、予算組みも検討していただいている。

最後にパルセイロの言葉の意味はポルトガル語でパートナーという意味である。苦しい時こそ手を取り合い、今後も地域のパートナーとして挑戦していきたい。



## アルビレックス新潟

### アルビジョブスク～ユズの恩返し～鎌ヶ谷巧業株式会社編 1/2

プロサッカー選手として活動する中で、アルビレックス新潟がサポーター、ホームタウン、パートナー企業をはじめ、本当に熱心なご支援をいただいております。特にパートナー企業との距離感の近さ、温かさに魅力を感じていた島田選手。「パートナー企業の皆さんのお力になれること、恩返しできることはないか」と考える中で、採用や人材確保に課題を抱えている企業が多いことを知り、新潟の未来を担う子どもたちに、新潟県内の企業について知ってほしいという思いから、職業体験・学習イベントを企画・実施しました。



**活動場所** 鎌ヶ谷巧業株式会社 白根第二工場



**協働者**

企業、プロサッカー選手

**協働者名**

鎌ヶ谷巧業株式会社、島田譲選手



**協働者の声**

鎌ヶ谷巧業株式会社／代表取締役 今井 靖彦 氏



クラブを応援したいという気持ちでサポートを始めたが、今回の機会はまったく想像していなかった。当社は48年前に新潟に来たが、新潟に貢献できている実感がなかった。子どもたちや保護者の方にも企業を知っていただける貴重な機会だった。こういう機会がどんどん増えて、いろんな人たちと出会えることで企業の力になる。



**活動詳細情報**

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [島田選手note](#)
- 3 [公式Youtube①](#)
- 4 [公式Youtube②](#)
- 5 [公式Youtube③](#)
- 6 [公式Youtube④](#)
- 7 [公式Youtube⑤](#)



**カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ**





アルビレックス新潟

アルビジョブスク～ユズの恩返し～鎌ヶ谷巧業株式会社編 2/2

## Story

「子ども向けにパートナー企業の職業体験をやりたい」と島田選手から相談があったのは2021年11月上旬。「継続的に実施したい」「パートナー企業の大切さ・ありがたさを感じているので、一緒に取り組みたい」という強い意思を受け、クラブも協力してチャレンジすることとなりました。

実施先として候補に挙がったのは、過去に選手が訪問し、工場見学をさせていただいたこともあるパートナーの鎌ヶ谷巧業株式会社様[2022シーズンより、オフィシャルクラブパートナー契約締結(増額)]。クラブの営業担当が相談したところ、子ども対象の工場見学をやりたい意向をお持ちで、



快諾をいただきました。島田選手自ら訪問して打合せに参加し、「これまではクラブに全部お願いしていましたが、選手という立場でも何かできないかと考えています。自分があることで、何かプラスになればいいと思っています」と企画に対する自身の熱い想いを直接お伝えしました。

当日は映像や資料を用いた企業紹介や工場見学を通じて、溶接や鉄骨の理解を深めるだけでなく、積雪・降雪に見舞われた駐車場の除雪、会場設営や受付をはじめ、鎌ヶ谷巧業様から多くのご協力をいただきました。

「仕事とキャリアについて考えよう！」と題した講話は、すべて島田選手自身で考案。選手・スタッフ全員で撮影した写真を題材にしたり、子どもたちがイメージしやすい「コッペパン」を題材に用いたりすることで、「世の中にはたくさんの仕事があり、そのすべてが大切な仕事で、仕事同士がつながり、支え合って社会が成り立っている」ことを分かりやすく伝えていました。



「好き、得意、カッコいいを活かせる仕事や会社がたくさんあるはず。ぜひ新潟で探してほしい」とメッセージを送った島田選手。「この素晴らしいイベントが今後も続いていきますよう」と保護者様も喜ばれた企画がどのように育つのか、参加した子どもたちがどんな未来を切り拓くか、楽しみでなりません。



## カタールレ富山

# Be supporters! サポーターになろう! 1/2

「Be supporters!」は、高齢者・認知症の方など普段は周囲に「支えられる人」が「支える人」となるプロジェクト。2020年12月よりカタールレ富山×県内福祉施設×サントリーウエルネスが一体で推進している。コロナ禍であらゆるものが分断される中、誰かを“推す”“応援する”ことで施設にワクワクとトキメキが溢れ、誰も予想しなかった数々の「つながり」と「幸せな物語」が生まれた。2021年はJ2復帰に向け県内一丸での応援機運が高まる中、県内福祉施設に延べ1000人、最高齢98歳のサポーターが新たに誕生！高齢者に起きた変化には医学の専門家も注目している。

**活動場所** 県内高齢者福祉施設

**協働者**  
企業、住民、行政

**協働者名**  
サントリーウエルネス株式会社、富山県内福祉施設、  
とやま未来共創チーム(事務局:富山市未来戦略室)

**Voice** **協働者の声** サントリーウエルネス株式会社/吉村 菜佑子 氏

ひとりでに、ウエルネス。  
Suntory Wellness

サントリーウエルネスはSocial Well-being(社会の幸福度を上げる)活動としてBe supporters!を推進。これまでにはなかった施設・サポーター・地域のつながりが、カタールレ富山を中心に次々と生まれていくのを目の当たりにしてきた。この活動は地域に根付くサッカークラブがあるからこそ。22年はJリーグパートナーとしてさらに広めていきたい。



## 活動詳細情報

- 1 [目指せJ2復帰!「Be supporters!\(ビーサポーターズ\)」大作戦!](#)
- 2 [「Beサポーターズ!を今すぐはじめるためのガイドブック」](#)

## カテゴリー(SDGs)/取り組みテーマ





カターレ富山

Be supporters! サポーターになろう! 2/2

## Story

初めて話を聞いたのは2020年5月。富山県の高齢化率は全国上位でコンセプトに共感したものの非常に難しい領域だと感じた。富山の高齢者と言えば相撲や野球が人気。サッカーの応援なんてしてくれるのだろうか。でも、不安と同時に個人的にはある種の”使命感”も感じて、私は挑戦することを決めた。私には認知症の曾祖母と老老介護で苦労した祖母がいて、曾祖母を敬遠してしまった経験があったのだ。また、コロナ禍で楽しみが減っているであろう高齢者の新しい生きがいになれたらと思った。プロジェクトのスタートは、2施設20人。しかし、目の前には信じられない風景が広がった。普段は



座りっぱなしで机に顔を伏せているという人が手拍子をして応援している。推し選手の応援うちわを作り飛び切りの笑顔で写真に写っている。その方が認知症の状態にあることを私は職員から聞くまでわからなかったくらいだった。さらに「サポーターは負けても選手を支えることだよ」とも利用者が言ったというのだ。

回を重ねると明らかな変化も見えてくる。食事の量が増え、睡眠の質も上がったという。なんと介護度が下がる人まで出てきた。心のトキメキは体にもいい影響を及ぼした。そして高齢者の変化はさらに広がっていく。職員や家族も一緒に楽しみ笑顔が増え、それは他の施設にも広がり最高齢98歳のべ1000人が参加することとなった。

この活動を広めたいという人も増え、老施協の研修会で紹介することにもなる。また地元紙や放送局だけでなく、NHKおはよう日本でも特集が組まれるなど大きな注目を集めていった。

慶応義塾大学医学部の伊藤裕教授は「サポーターになることで新たなつながりができ誰かとつながる幸福感が高齢者を元気にしているのでは」と語る。



施設入居者を対象としたアンケートでは「周りの人も楽しい気持ちでいるか?」の問いに参加者の100%が当てはまると回答。

コロナ禍で「分断」や「孤立」が社会問題になる中「つながり」と「幸せな物語」があふれていた。これは地域に根差すサッカークラブだから実現したことで、そのパワーの大きさに驚くと同時に可能性は無限大だと感じている。今後は行政や研究機関との連携も強化し活動を進化させていく予定だ。



## ツエーゲン金沢

# 視覚障害者のスポーツ観戦を「あたりまえ」に！ 1/2

「移動障害」「情報障害」と呼ばれる視覚障害を対象に、観戦会をはじめとする啓発活動「Future Challenge Project」を10/17甲府戦にて実施。「共に観戦を楽しむことができる環境・雰囲気を作り上げる」ことを目的としたこの事業は、クラブ単独ではなく「視覚障害の方々と共にスポーツ観戦を楽しみたい」という共通の想いのもとに集まった諸団体と一緒に実行委員会を発足して実現した「共創プロジェクト」。今後も継続的に活動を行い、サッカーを通じて、誰もが共に暮らし続けられるまちづくりを目指す。



活動場所 石川県西部緑地公園陸上競技場



### 協働者

企業、NPO、住民、学校、行政

### 協働者名

Future Challenge Project実行委員会(「あうわ」視覚障害者の働くを考える会 / 金沢市市民活動サポートセンター / 公益社団法人金沢青年会議所 / 金沢星稜大学 スポーツ学科地域スポーツマネジメント研究室 / ツエーゲン金沢BFC)、石川県、石川県視覚障害者協会、金沢市、株式会社北國新聞社、株式会社アイ・オー・データ機器、NPO法人アイメイトクラブ石川、金沢工業大学松井くにお研究室、金城大学、北陸放送株式会社



### 協働者の声 「あうわ」視覚障害者の働くを考える会 / 林 由美子 氏



スタジアム観戦したくても難しいと諦める視覚障害者が多い中、今回多くの団体の力が合わさり観戦会を実現できた。また、介添えの学生達と視覚障害者が共に楽しんでいる様子が見られ、視覚障害者と介助者ではなく、人と人との繋がりを結べた点、まさに共生社会実現への第一歩になったことが本事業の特筆すべき点だと思う。



スタジアムへ向かう視覚障害者の方と介添えの学生



来場者に配布した「応援啓発ハリセン」



### 活動詳細情報

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)



### カテゴリ(SDGs) / 取り組みテーマ





ツエーゲン金沢

## 視覚障害者のスポーツ観戦を「あたりまえ」に！ 2/2

### Story

#### 【共創プロジェクト】

当クラブが以前よりブラサカチーム「ツエーゲン金沢BFC」を通じて視覚障害啓発活動に取り組んでいたことから本事業がスタート。「視覚障害の方と共に観戦を楽しみたい」という趣旨に賛同する企業団体と共に実行委員会を発足。観戦を楽しんでもらうこと、また当日の来場者全員に視覚障害のことを理解してもらうことで、石川県を誰もが共に暮らし続けられるまちにすることを目標とした。



視覚障害体験・啓発ブースの様子

#### 【キーワードは「共に楽しむ」】

視覚障害は別名移動障害・情報障害と呼ばれており、目が見えないため外出を控える方が多い。その課題を解決すべく以下3点を工夫。

- ①オンライン音声配信サービス「PlatCast」を活用し、地元TV局アナウンサーによる実況、OB選手による解説を配信。
  - ②地元大学の福祉系学部所属の学生が、視覚障害の方の介添えを担当。駅からバス乗車、観戦、試合後に駅で解散するまで参加者に学生が1名ずつついた。当日は「サポートしてあげる⇔してもらう」という上下関係でなく、「共に観戦を楽しむ」をテーマに参加者と接してもらった。
  - ③音で共に応援を楽しむため、来場者全員に応援ハリセンを配布。視覚障害への理解を深める目的で、裏面には啓発情報を記載。
- 上記の他、視覚障害啓発・体験ブースも出店。



試合中 視覚障害の方と学生で談笑する様子も多々見られた

#### 【視覚障害者の方の想い】

当日は視覚障害者20名が参加。試合後には「介添えの学生とPlatCastがあったから参加しようと思ったし楽しめた」「ハリセンを叩きながら応援が一体感を感じた」といった感想の他、「普段接しない若者と交流できて嬉しかった」とのコメントが多く、観戦を楽しむだけでなく参加された方のコミュニティを広げることができた。本事業は、関わった全員が共に楽しみ、学び、良い変化を得ることができた。来年以降も継続し、サッカーを通じて「共生社会」の実現に寄与していきたい。



## 清水エスパルス

### ホームタウン次世代育成プロジェクト エスプラス 1/2

サッカーのまち静岡ならではの授業で『地域愛』を醸成し、人口減少・若年層の県外流出に解決の糸口を！小さな一歩が地域の大きな未来に！エスパルスでは2011年より静岡市・静岡大学と連携し、ホームタウン次世代育成プロジェクト「エスパルスドリーム教室」を開催し子どもたちの学習への興味や関心を高めてきました。2020年からは地域課題である人口減少に取り組むべく‘エスパルスに様々なものをプラス’し、皆で持続可能な地域を創るという意味を込め授業名を「エスプラス」とし、産学官連携にて新たな授業を展開しています。



#### 活動場所

静岡市内小・中学校15校、富士市内小学校・高等学校3校、富士宮市内小・中学校3校(2021年度) ※2011年～2020年にホームタウン静岡市にて計141校実施、2021年よりファミリータウン2市でも展開



#### 協働者

企業、住民、学校、行政、一般社団法人

#### 協働者名

静岡市、富士市、富士宮市、静岡大学、一般社団法人 プロフェッショナルをすべての学校に、明陽電機株式会社、フジ物産株式会社、東海澱粉株式会社、春日製紙工業株式会社、コアレックス信栄/三栄株式会社、授業実施各校



#### 協働者の声

明陽電機株式会社 管理部／伴野 豪 氏



エスプラスを通じた学校訪問は、BtoB企業である当社にとって小中学生と接する数少ない機会であり、社員が会社紹介と共に社会人としての考えを説明できる大変貴重な経験をさせていただいています。今後もエスプラスの活動によって、地域の子どもたちが地元の産業や企業に興味を抱ききっかけになればうれしいです。



マダロ船のエサ 国内シェア率 日本一！

SDGsへの取り組み

Q1 マダロで食べられる部位はどこでしょう？

A 目玉 B 胃袋 C 尾の身 D タマゴ

この船用の温度センサーは 人間が手作業で作っています！

佐野さんは今の仕事ではこの手カラが 時に大切だと考えています

【管理職：現場で働く人を管理する仕事】

選んで取り組む【主体性】



#### 活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [静岡市HP\(資料\)](#)
- 3 [静岡新聞\(人口減少関連記事\)](#)
- 4 [静岡大学HP](#)
- 5 [協働社HP①](#)
- 6 [協働社HP②](#)
- 7 [協働社HP③](#)
- 8 [協働社HP④](#)



#### カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ



清水エスパルス

## ホームタウン次世代育成プロジェクト エスプラス 2/2

### Story

人口減少は静岡市でも深刻な問題で、2015年に市は人口ビジョンを策定し政策を進めています。特に若年層の県外流出が主因で、県内高校生の約72%が県外大学へ進学、首都圏進学者のUターン率も38%(2019年)と低く県内への就職促進が課題となっています。

前身の「エスパルスドリーム教室」では地域に根付いているサッカーを算数や理科に取り入れ学習への興味や関心の向上を図ってきました。教室を継続して9年、事業としてはホームタウンに浸透しているものもっと地域に寄り添った授業が展開できるのではと可能性を感じ、地元企業にも協力いただ



き「エスプラス」としてクラブが地域教育のコーディネーターを担う新たな授業をスタートし地域愛醸成による人口減少解決に取り組んでいます。

2つの授業テーマ「サッカーやエスパルスを通じた地域(会社・市民)との関わりを考えよう」で誇るべき地元企業の存在を知ることによって郷土愛を育み、「働く大人から社会に出て必要なチカラを学ぼう」で多様化する社会で求められる地域と連携したキャリア教育を提供。企業の社会課題やSDGsへの取り組みも内容に含み、児童生徒とクラブ、社員が対話をしながら授業を進めます。

「直接学校と関わる貴重な機会です。小学生のSDGsへの意識の高さに驚き、また自らの仕事や地域について改めて考えるきっかけとなった」といった企業の声や、「地元の企業のすごさに気づき地元で働きたいと思った」という児童の感想、長年の継続事業を4者連携で拡充した良い例であるといった静岡市の評価より、協働者にとっても実りある活動となっています。



今後は高校大学にも対象を広げICTを活用した遠隔授業等にも取り組み、近年増加傾向にある県内への移住促進にも貢献していきます。エスプラスが地域愛を醸成し、将来地元で働くことを選択する‘きっかけの一つ’になることを願い、これからも協働者と共に地域の未来に向き合います。



## ジュビロ磐田

### 磐田市健幸プロジェクト「ジュビロ飯」 1/2

食とスポーツによる地域の健康向上と経済活性化を図る活動。食においては地元の特産品を使用し、一定の栄養価基準をクリアできたメニューに対し行政が「ジュビロ飯」と認定。和洋中問わず磐田市内飲食店、学校学食に幅広く展開。同時に運動習慣定着のため短時間でできる筋力体操を考案。食×スポーツ＝健康を産学官連携で展開。



**活動場所** 磐田市内飲食店、磐田市内2大学食堂、ヤマハスタジアム、磐田グランドホテル



#### 協働者

企業、住民、学校、行政

#### 協働者名

磐田市、磐田商工会議所、静岡農林環境専門職大学、静岡産業大学



#### 協働者の声

磐田市役所 産業政策課／齋藤 研二 氏

市として産学官連携による事業化は初めての試みであり、市民の健幸生活の向上や地域の経済活性化目的に進めてきました。「ジュビロ磐田」との連携で注目を浴び、事業支援としても明るい話題を提供できた事と、事業のスタートが切れた事を非常に嬉しく思います。コロナ禍において特に飲食業界は苦しい時期が続いている中、試合日にこのジュビロ飯を販売できたことは感謝しかありません。販売をした磐田グランドホテル様からも「当日は完売でたくさんの方に知ってもらえる良い機会となった。第2弾もレシピ開発していきたい！」と感謝の声を頂きました。今後は市内の食環境整備を進めていき、市民の健幸生活の向上だけでなく、地域として幅広く活気づく事業に展開していけるよう引き続きジュビロ磐田との連携強化を期待したいです。



#### 活動詳細情報

1

[朝日新聞記事](#)

2

[磐田市HP](#)



#### カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ジュビロ磐田

## 磐田市健幸プロジェクト「ジュビロ飯」 2/2

### Story

予てより磐田市の課題の一つとして市民の健康増進が挙げられていました。磐田市とクラブは話し合いを重ねながら、大型商業施設などでのPR活動等少しずつ前進をしてまいりましたがインパクトに欠けるところがありました。

令和2年秋に産業振興フェアをきっかけに「健幸プロジェクト」が発足されました。食とスポーツによる市民の健康向上と地域の経済活性化を図る目的として市内の2大学、商工会議所、地域企業の産学官の連携が始まりました。この活動においては市役所内の複数の部署も連携することで行政内の縦だけの動きから横への連動も実現。



検討を重ねた結果プロジェクトの一環として「ジュビロ飯」がスタート。

ジュビロ飯とは地元の食材を使用、定められた栄養バランスに適度な運動(体操)を合わせた楽しみを指します。

このジュビロ飯を市内飲食店で募集を始めました。定めた内容をクリアできれば和洋中どのカテゴリーでもジュビロ飯が磐田市内の飲食店で食べることができるようになります。

ジュビロ飯第1号として認定された磐田グランドホテル様考案の「かつ丼」がヤマハスタジアムで販売され即完売。購入されたサポーターの皆様もその場で簡単な運動をしてくださいました。

すでに市内飲食店数店舗から要望があり、更なる発展を期待しています。

また、今後は市内小学校の給食メニューにもジュビロ飯が展開できるよう進めていきます。





## 藤枝MYFC

### ふじのくにジュニア防災士養成講座 1/2

静岡県では、地域防災の担い手を育てる活動の一環で「ふじのくにジュニア防災士養成講座」を実施。全10回開催し1,211人の中学生へ受講。



#### 活動場所

島田市立六合中学校、島田市立島田第二中学校、島田市立初倉中学校、焼津市立焼津中学校、藤枝市立広幡中学校、島田市立川根中学校、島田市立島田第一中学校、藤枝市立岡部中学校、島田市立金谷中学校



#### 協働者

企業、学校、行政

#### 協働者名

静岡県中部地域局危機管理課、  
中部電力パワーグリッド株式会社



#### 協働者の声

静岡県中部地域局危機管理課／加藤 大介 氏

静岡県では、地域防災の担い手を育てる「ふじのくにジュニア防災士養成講座」を実施しています。講座に藤枝MYFC「蹴っとばし小僧」が参加し盛り上げてくれることで、和やかな雰囲気にもまれ、生徒が防災をより身近なものとしてとらえてくれました。楽しく防災を学ぶ機会として今後も御協力いただければと思っています。



#### 活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



#### カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





藤枝MYFC

ふじのくにジュニア防災士養成講座 2/2

## Story

南海トラフが30年以内に発生する確率が70%～80%あるといわれています。

静岡県は、南海トラフの東海・東南海にあたる場所にあるため直接的な影響を受けやすい県です。静岡県は、2020年度から地域防災の担い手となる「ふじのくにジュニア防災士」の養成講座を県内の全生徒へ実施を決めました。

中学校卒業までに防災に関する知識を全生徒に身に付ける為に、総合的学習の時間を使い防災の基礎知識を学ぶ授業を展開しています。藤枝MYFCは、ホームタウン(藤枝市・焼津市・島田市・

牧之原市・吉田町・川根本町)と静岡県中部地域局危機管理課様・中部電力パワーグリッド株式会社様と連携し2021年から活動をスタートさせてきました。

2021年は計10回開催し、1,211人の中学生に受講を実施しました。

「災害時の場面に直面したら?」や「自分の命・大切な人の命を守るために」等様々なテーマを基にグループで意見交換を行い防災に対する知識を高める活動を実施しました。

非常時には、たくさんの問題に直面します。簡単に答えが出せない場面にも多々直面するでしょう。一つの決断が生死を分かち場面にも直面するでしょう。全てが正しい回答をできる事は難しいですが、講座を通じてたくさんの方の方法をもってもらえたらと思います。

今回の「ふじのくにジュニア防災士」養成講座を通じて、防災に対する意識を高く持ち災害時に生き抜く術や、担い手になれるように今後も引き続き各機関と連携とり、活動を進めて参ります。





## アスルクラロ沼津 CPサッカースクール 1/2

アスルクラロ沼津はスポーツを通じて、子どもたちのチャレンジする心を全力で育てる事を目的とし、2021年1月16日(土)ついにCPサッカースクールを始動しました！脳性まひの障がいを持つ子供たちに向けたサッカースクールは、月に2回開催しております。また、スクール生はサッカーだけでなく、釣り教室、ダンス、スポーツダーツなど様々なことにチャレンジします。



**活動場所** アスルクラロスポーツフィールド第2セレステ



**協働者**

企業、学校、行政

**協働者名**

スルガ銀行株式会社、株式会社ル・グラン、株式会社村上開明堂、有限会社金子電子工業、沼津市



**協働者の声** 静岡県東部特別支援学校／加藤 孝雄 氏

私の学校の児童生徒たちがCPサッカースクールに参加させていただいてます。動きに制限があり、普段なかなか外で活動少ない子たちに、休日に集まって楽しめる場を作っていただいていることが本当にありがたいです。うれしそうに外でたくさん身体を動かしている子たちと一緒に遊んでいるとこちらも元気をもらえます。



**活動詳細情報**

- 1 [活動報告①](#)
- 2 [活動報告②](#)
- 3 [活動報告③](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





アスルクラロ沼津

CPサッカースクール 2/2

## Story

アスルクラロ沼津は脳性まひの子どもたちがサッカーを通して、楽しめる場を提供すべく、2021年よりCPサッカースクールを始動しました！子供たちと相談して決めたスクール名は、アスルクラロパラキッズ略して「アスpara」！スポーツを通じて、子どもたちのチャレンジする心を全力で育てます。練習には、特別支援学校の先生方がボランティアでサポートに来てくれています。障がいを持つ子供たちの指導は初めてのフロントスタッフにとって、知識ある方に手助けしていただけるのは、とても心強いです。



ホームゲームでは、アスparaのスクール生がエスコートキッズを行い、選手と一緒に入場しました。他にも、釣りやスポーツダーツ、ダンスなどサッカー以外のことにもたくさんチャレンジしました。一年間の終わりに子どもたち、保護者の皆さまに来年挑戦してみたいことについてアンケートを取ると、ポッチャやドッジボール、キャンプなどたくさんの意見が出てきました。一年間を通して、子どもたちは何事にも前向きに取り組む姿勢、チャレンジする心が身についてきているように感じます！

アスparaスクールは、シャレンパートナーとして沼津市および多くの地域企業の皆さまにご支援いただいております。日頃より子供たちの笑顔のために、ご協力をいただき本当にありがとうございます。今後も、アスルクラロ沼津は、障がいを持つ子供たちが様々なことにチャレンジできる場を提供し、全力でサポートしていきます！





## 名古屋グランパス

### 食を通じて笑顔つながる・生まれるスマイルBOX事業 1/2

愛知県は全国有数の農業県でありながら、野菜摂取量が全国でも少ないという課題を抱えています。クラブとして課題解決に寄与できるよう、ホームタウングループには管理栄養士が在籍しており、講演会等を中心に継続的に食育の活動に取り組んでいるとともに、新型コロナウイルスの影響が多大に出ているひとり親家庭を対象としたフードドライブの取り組みを今シーズンから始めました。ボランティアや企業と連携し、想いをこめて企画から梱包まで行い、ひとり親家庭に食品やマスク、クラブのグッズを詰め込んだスマイルBOXを配布しました。



**活動場所** 豊田スタジアム、愛知県母子寡婦福祉連合会



**協働者**

企業、NPO、行政、  
グランパスボランティア

**協働者名**

グランパスボランティア、愛知県母子寡婦福祉連合会、  
認定NPO法人セカンドハーベスト、  
株式会社パソナ



**協働者の声** 愛知県母子寡婦福祉連合会／山本 廣枝 氏



子ども達の憧れの名古屋グランパス様のフードドライブ活動と当法人スマイルBOXの食支援の連携は、経済・生活面で辛い思いをしている多くのひとり親家庭に明るい笑顔と元気を届けることが叶いました。このSDGs活動は、「気に掛けてもらえ、辛い生活でも前向きになれた。」「笑顔が溢れた。」等の声に繋がりました。



**活動詳細情報**

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)



**カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ**





## 名古屋グランパス

### 食を通じて笑顔つながる・生まれるスマイルBOX事業 2/2

## Story

コロナ禍が続く2021年も終わりに近づいた頃、多くの方の様々な想いが込められた1つの箱がひとり親家庭に送られました。スマイルBOXと呼ばれるその箱にはクラブやサポーターからの寄附で集まった食品やマスク、クラブのグッズが梱包されており、約300のご家庭に笑顔が届けられました。スマイルBOXの連携はシーズン前にボランティアさんから、フードドライブを行いコロナ禍において日常生活に多大な影響が出ているご家庭に届けたい、とお話をいただきことから始まりました。クラブでは継続して食育に取り組んでおり、また愛知県の家庭での食品ロスは年間約21.5万トンと推計され、



「もったいない」を子ども達の「笑顔」につなげたいと考えました。フードドライブはホームゲーム2試合で行い、1試合は雨の中での実施ではありましたがボランティアの方々がPOPを持ちながら来場者に丁寧に説明してくれたおかげもあり、合わせて150組以上の方から寄附をいただきました。アカデミーの選手からは学校で習ったけど実践するのは初めてということで家族で話し合い協力してくれた選手もあり、クラブの未来を担う選手達にも良い経験となりました。またボランティアの方々とはフードドライブの勉強会を開催し、その主旨や内容を共有した上で当日のブース運営から梱包まで一緒に行いました。梱包は地元企業とも連携し、寄付してくれた方の想いも背負って作業を行い、子ども達が喜んでくれる組み合わせを考えながら詰める等、丁寧な作業を心がけることで、自身の活動がホームタウンの笑顔につながることをより感じることができました。様々な方の協力の下、梱包された品々は各家庭に配布され、「1人じゃないという気持ちになれた」「届いたときの子どもの顔が素敵なものだった」等、暖かいお言葉をいただきました。



今後も、こうした活動を継続して取り組み、食を通してホームタウンに元気と笑顔をお届けできるよう活動していきます。



FC岐阜

## 防災について考えよう 1/2

全国各地で豪雨などによる災害が発生する中、今後の災害に備えるために、防災の重要性が高まっている。令和3年5月、国の避難情報に関する表現が変更となり、これを機に家族などで防災について話し合うきっかけになればと思いから、FC岐阜公式マスコットキャラクターであるギッフィーを用いた子供向けのチラシを作成し、岐阜市内の小学校等に配布し、また、岐阜県の協力により防災出前講座を実施した。



活動場所 長良西小学校



協働者

学校、行政

協働者名

岐阜市立長良西小学校、岐阜県危機管理部防災課



協働者の声

岐阜県危機管理部防災課／伊藤 亮平 氏



災害から命を守るためには、危険なところから逃れること(避難)が必要です。「自らの命は自ら守る」意識のもと、普段から家族でハザードマップを確認し、いつ・どこへ・だれと避難するか決めておきましょう。災害の危険が迫っている時は、気象情報や避難情報等に注意し、災害が起こる前に避難完了をお願いします。



活動詳細情報

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





FC岐阜

## 防災について考えよう 2/2

### Story

近年、出水期において、土砂崩れや河川の氾濫の発生により、全国各地で甚大な被害をもたらす災害が頻発している。

岐阜県では、2018年、2020年の2回にわたる大雨特別警報により甚大な被害が発生しており、また、2021年も、大雨により各地で土砂災害などが発生するなど、予断を許さない状況が続いている。

2021年5月、国の「避難情報に関するガイドライン」が見直され、避難情報にかかる表現が変更となった。この見直しを機に、家族などで防災について話し合うきっかけづくりとなるよう、FC岐阜は防災啓発に関するチラシを作成し、保育園や小学校



などに配布したり、また、岐阜県防災課協力のもと、岐阜市内の小中学校を訪問し、防災出前講座を開催した。

防災というワードは、「ネガティブ」な印象を受けがちだが、FC岐阜のマスコットキャラクターのギッフィーを用いるなど、子ども達に少しでも防災に興味を持ってもらうよう工夫を行った。

県防災課の担当者は、実際にこれまでに起こった災害の写真を見せるなど視覚にうったえながら分かりやすく子ども達に伝え、「危ない場所から逃げるのが大切で、いつ避難したら良いかというのは、難しい言葉を覚えなくても色で覚えて避難をしよう」と呼びかけた。

さらに、「災害が起きてから考えると焦ってしまうので、普段から家族で話し合い、命を守るための行動をとってほしい」と伝えた。

講座を聴いた児童たちは「家が川に近いので、オレンジ色が出たら、近所の人と協力して非難したい」や「ハザードマップを見て避難する場所を決めたい」、「今まで考えたことはなかったけど、家に帰ったらすぐにおうちの人と話し合おうと思う」など、



学んだことをすぐに活かそうとしていた。今後もFC岐阜は、今回のようなチラシの作成や講座の開催だけでなく、防災サッカーの実施などさまざまな取り組みにより、地域の防災活動に取り組んでいきたい。



## 京都サンガF.C.

### ホームタウンデー2021 1/2

新スタジアム移転後の新しい取り組みとして、ホームタウン市町の方々がサンガと一緒にスタジアムを楽しみ、笑顔で生き生きと輝ける機会を創出するため、TEAM京都コンソーシアムと協働で実施しました。従来からのホームタウンデーという名前や地域PR等の取り組みは活かしつつ、ホームタウン市町の方々が試合を観るだけでなくパフォーマーとして参加できるイベントにパワーアップさせ、サンガや新スタジアムとの距離を縮めて、誰もが楽しめるこれからの新しいカタチのイベントとして生まれ変わりました。



**活動場所** サンガスタジアムbyKYOCERA



**協働者**

NPO、住民、学校、行政

**協働者名**

TEAM京都コンソーシアム(ホームタウンを中心とした各行政や団体等が一体となってサンガを応援し、地域コミュニティ活性化等に寄与するため設立された組織)、和知太鼓保存会、NPO法人京都府ダブルダッチ協会、京都府立綾部高校ダンス部、他多数



**協働者の声**

NPO法人京都府ダブルダッチ協会／副理事長 大西 英明 氏



スタジアムのお客様の温かい応援とクラブスタッフの皆様のサポートのおかげで大いな盛り上がりダブルダッチを通じて創出することができました。そして、大きなスタジアムでのステージはプロチームもちろんですが、高校生チームにとって、とても貴重な経験となりました！



**活動詳細情報**

1

[公式サイト](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





京都サンガF.C.

ホームタウンデー2021 2/2

## Story

2020シーズンにホームスタジアムを移転しましたが、移転初年度はコロナ禍の影響により様々な活動が制限され、ホームタウン市町の方々と新スタジアムを繋ぐ取り組みがほとんどできませんでした。そこで新スタジアムと一緒に楽しんでもらうための企画として、従来実施していたホームタウンデーを発展させて、京都サンガF.C.ホームタウンデー2021を考案し、ホームタウン市町の方々にスタジアムでパフォーマンスを実施してもらうことにしました。パフォーマンスについては、ジャンルやプロアマなど一切問わず、各ホームタウン市町の行政の方々と調整しながら、“スタジアムでやってみたい



こと”の希望を聞き、関係各所との協議や調整を重ねて、実現させていきました。

パフォーマンスは子供から大人まで幅広い年代の方々が参加し、京丹波町の伝統芸能である和知太鼓をはじめ、ダンス、ダブルダッチ、バトントワリングなどを実施していきました。また入場者数に上限が設けられた際は、ピッチではなくスタンドの一部を活用し、吹奏楽パフォーマンスを行うこともありました。

一つのパフォーマンスが終わる度に、もっと工夫できると感じるものがたくさんあったため、少しでも次に活かせるように試行錯誤を繰り返し行い、パフォーマーの方々とホームタウン市町の行政の方々と一緒に新しいホームタウンデーを作り上げていくことができました。参加していただいたパフォーマーの方々は、普段見ることのない大きなステージに大興奮し、パフォーマンスをできたことをとても喜んでおられました。スタジアムやサンガを身近に感じてもらえるいいきっかけになりました。



今後もホームタウン市町の方々が生き生きと輝ける場を提供していけるようにホームタウンデーをはじめとしたホームタウン活動に取り組み、地域に寄り添えるクラブであり続けたいと思います。



## ガンバ大阪

### 「ガンバ大阪スカンビオカップ」3年ぶりに開催！ 1/2

ガンバ大阪では2008年からJリーグの協力を得て、精神障がい者スポーツ「Gスカンビオ」(フットサル)に取り組んでいます。「スカンビオ」とは「交流」を意味するイタリア語です。ガンバ大阪では精神障がい者がスポーツを通じて、少しでも社会復帰を後押しできる場をつくり、その一助になればという想いでこちらの大会を実施してきました。今年は全国各地から8チーム、約100名が集い笑顔に包まれるフットサル大会が実施できました。



**活動場所** 大阪大学吹田キャンパスグラウンド「すいらん」



**協働者**

NPO、住民、学校、病院

**協働者名**

公益社団法人日本プロサッカーリーグ、  
NPO法人日本ソーシャルフットボール協会、  
特定医療法人 大阪精神医学研究所 新阿武山病院、  
履正社医療スポーツ専門学校



**協働者の声**

特定医療法人 大阪精神医学研究所 新阿武山病院／院長 岡村 武彦 氏



ガンバ大阪スカンビオカップは、2008年に本邦初の精神障がい者フットサル全国大会として始まりました。2021年はコロナ禍による困難な状況での3年ぶりの開催でしたが、多くの笑顔が戻りました。ボールが人と人をつなげ、人の心を豊かに強くしていくまさにSDGsの取り組みの一つとして今後も期待しています。



**活動詳細情報**

1

[公式サイト](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





ガンバ大阪

## 「ガンバ大阪スカンビオカップ」3年ぶりに開催！ 2/2

### Story

Gスカンビオは、2008年からスタートし主に関西交流大会または全国大会まで幅広く実施してきました。

ホームタウンにある、医療機関の院長先生によって、「スカンビオ=交流」(イタリア語)と名付けられました。

ここ2年間は、天候状況やコロナの影響もあり、活動ができない時期が続きましたが、久しぶりの開催ができたことを嬉しく思っています。

久しぶりにピッチで集い、交流できたことで、参加された方々の「笑顔」が本当に素敵だなと改めて感じることができました。



10年以上取り組んできたこの活動ですが、スカンビオカップをスタートした頃に、当時参加されていた方の中で、時間の経過とともに、しっかりと社会復帰をされた方がいるとお聞きしました。

このお話を聞いた時に、我々の活動の目的でもある、「社会復帰の一助となる」ということが、少しは役立てたのではないかと、そしてもちろん、その方による、日々の努力が一番だと思いますが、我々のこういったサッカー交流のきっかけも、社会に貢献できているのではないかと考えています。

我々ガンバ大阪では、まだまだ、コロナが落ち着かない状況が続く中で、社会状況に不安を抱える方々も多くいらっしゃると思います。そのような状況の中で、我々としても、このGスカンビオのような取り組みを一つでも多く取り組み、地域の方々に対して、「ガンバ大阪がこの地域にあって良かったな」と思ってもらえるようなクラブになっていきたいと思っています。今回、約3年ぶりに開催できましたが、2022年も実施できればと思います。

今後のガンバ大阪の取り組みにも、ぜひご注目頂けたらと思っています。





## セレッソ大阪 大阪市×セレッソ大阪×明治安田生命 「みんなでわくわくウォーキング100kmチャレンジ」大阪周遊 バーチャルウォーキングマップ 1/2

コロナ禍において、老若男女を問わず運動不足が問題となる中、セレッソ大阪として何ができるのかを大阪市健康局と話し合うところから本企画はスタートした。どの世代の人も気軽に始められ、それぞれの体力や体調に合わせて続けることができるウォーキングを推奨しようということはすぐに決まったが、一人でも多くの方に習慣化してもらえらるようなアイデアが必要だった。また、感染対策として「3密」を避けることが求められる中で、参加者を1カ所に集めるような大規模なイベント開催に代わる新たな取り組み方を模索した。

**活動場所** 大阪市ほか

**協働者**

企業、行政

**協働者名**

大阪市健康局、明治安田生命保険相互会社大阪本部(協賛)積水ハウス株式会社(絹谷幸二 天空美術館)積水ハウス梅田オペレーション株式会社(梅田スカイビル 空中庭園展望台)、通天閣観光株式会社

**協働者の声** 明治安田生命保険相互会社大阪本部

コロナ禍で運動不足が懸念される中、楽しく自分のペースでウォーキングできる本チャレンジは、多くの市民にとって運動習慣を身につけるきっかけになったのではないかと思います。参加された方には、今後もウォーキングを続け、健康の維持・増進に努めていきたいです。



**活動詳細情報**

1 [公式サイト](#)

**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





セレッソ大阪 大阪市×セレッソ大阪×明治安田生命

「みんなでわくわくウォーキング100kmチャレンジ」大阪周遊 バーチャルウォーキングマップ 2/2

## Story

外出自粛や在宅勤務、学校の休校・在宅授業などの影響で、子どもから高齢者まで幅広い世代での運動不足が問題視されるようになった。

そこで、大阪市健康局と協議し、ホームスタジアムを起点としたウォーキングイベントの企画をスタート。ウォーキング大会の実施などに豊富な経験を持つ明治安田生命保険相互会社大阪本部へお声がけしたところ、協力について快諾をいただき、3者での企画が進んだ。

しかし、コロナの感染状況は一向に収束を見ず、開催時期の検討を続けたものの断念。とはいえ、社会課題をそのままにしておくわけにはいかず、個人

それぞれの運動を促進する方法はないかと模索を続けた。その中で出たのが、バーチャルでのウォーキングイベント実施というアイデアだった。

大阪市内の観光スポットを掲載したウォーキングマップを作り、歩いた距離によってマスを塗りつぶすようにすれば、家の近所でありながら大阪一周を楽しんでいるような気持ちで歩いていただけるのではないかと考えた。大阪を代表する観光スポットのいくつかに声がけしたところ、快い掲載の了承ばかりか、招待券などのプレゼント提供のご提案までいただいた。

幅広い世代の、多くの方に参加していただくため、手軽に配布・携帯できるA4サイズのマップを作成。大阪市内の各施設のほか、明治安田生命の大阪府内の各事業所でも配布した。100km達成した方にはプレゼントを用意し、WEBよりご応募いただくかたちとした。短い準備期間だったが、最終的な参加者数は48,500人にも及び、多くの方に楽しみながら運動していただけたのではないかと考えている。大阪市健康局からも「コロナ禍で運動不足が懸念される中、楽しく自分のペースでウォーキング

できる本チャレンジは、多くの市民にとって運動習慣を身につけるきっかけになったのではないかと。参加された方には、今後もウォーキングを続け、健康の維持・増進に努めていただきたい」と喜んでいただいた。





## ヴィッセル神戸

### 神戸市新型コロナワクチン接種会場の運営協力活動 1/2

昨年5月、神戸市に対して一刻も早く市民がワクチン接種を行えるよう、ノエビアスタジアム神戸をワクチン接種会場として提供することを打診。ここから楽天グループ、医療機関や大学など“産学官”計19者連携にも及ぶ国内最大規模のワクチン接種が始まりました。試合運営で培ってきたノウハウを接種会場に落とし込み、スムーズで安全・安心な会場運営を約7ヶ月間行い、累計367,135回、約18万人の市民がノエスタに来場。コロナという有事にスタジアムを最大限活用したことは、国内外から注目される結果となりました。



#### 活動場所

会場：ノエビアスタジアム神戸  
 広報・啓発：神戸市内各公共施設およびオンライン



#### 協働者

企業、住民、学校、行政

#### 協働者名

神戸市、兵庫県、楽天メディカルジャパン(株)、SBCメディカルグループ・I&H(株)、(公)兵庫県看護協会、(独)国立病院機構神戸医療センター、(医)神甲会限病院、英ウィメンズクリニック、ドクターズ(株)、神戸大学、東京慈恵会医科大学外科学講座、神戸大学医学部附属病院、神戸女子大学、大手前大学、京都橘大学、神戸常盤大学、神戸市民間病院協会神戸看護専門学校（順不同）



#### 協働者の声

神戸市／市長 久元 喜造 氏



5/8に三木谷会長から打診を受けたのを今でも忘れません。そこから急ピッチで準備をいただき、5/31に接種が開始。最終的に市全体の1回目16%、2回目15%、1日最大6,800人に接種。これだけの規模でありながらスムーズな接種が行われました。実際に接種を受けられた多くの市民からも賞賛をいただきました。



#### 活動詳細情報

1

[協働社公式HP](#)

2

[スタジアム公式HP](#)



#### カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ

3

すべての人に健康と福祉を



11

住み続けられるまちづくりを



17

パートナーシップで目標を達成しよう



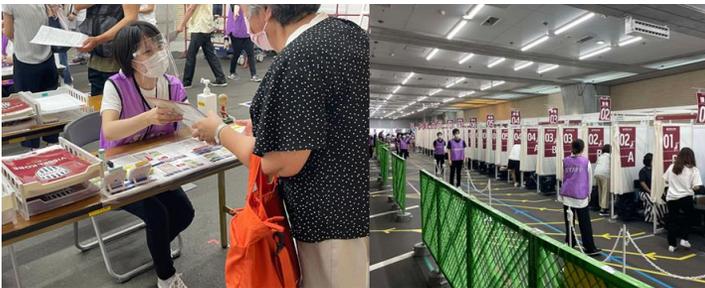


ヴィッセル神戸

## 神戸市新型コロナワクチン接種会場の運営協力活動 2/2

### Story

ヴィッセル神戸では、5/31から12/15までの間、国内初の産学官連携(神戸市、楽天(株)、大学、医療機関など最大19者)で、1日最大7,000回以上の新型コロナワクチン接種が可能なノエビアスタジアム神戸(ノエスタ)での大規模接種オペレーションを実施してきました。一刻も早く市民への接種が求められる中、ノエスタでの大規模なワクチン接種会場を約2週間という短期間で作り上げなければなりませんでした。そこで楽天グループをはじめ、全国の医療機関、大学などと連携し、5/31に日本最大規模のワクチン接種オペレーションがスタート。一つのクラブが持つスタジアムで、産学官が垣根を超え大規模なワクチン接種を行う初めての連携活動となりました。



接種が始まり、スタジアムへ来られた方が快適に接種を受けていただくように数々の対策を考えました。受付から接種、経過観察、万が一体調不良が発生した場合の緊急対応など一連の流れをスムーズに行うオペレーションを完璧に作り上げる。スタジアムまでのアクセスも老若男女関係なく快適に会場まで来ていただき、歩行が辛い方には、用意した車椅子に乗っていただき、看護師が誘導するノエスタ独自の方法を行ったり、医師不足を解決するためにオンライン予診を活用し、遠方にある医師が予診を行えるようにするなど、効率の良いオペレーションを取り入れました。安全面を確認しながら1日1,000人規模の受け入れから開始し、段階的に人数を増やしていき、最終的には最大6,800人を受け入れました。

途中ファイザーからモデルナへの切り替えや、ワクチンの安定供給が困難になったり、台風の直撃などいろいろな事態が発生しましたが、その都度対応し、問題を乗り越えてきました。ある意味、毎日が試合日のような感じでした。今回のオペレーションで最終的に約36万接種、約18万人の方がノエスタに来場されました。恐らくほとんどの方がノエスタに来るのが初めてで、「Jリーグ」や「ヴィッセル神戸」を知る良いきっかけになったのではないかと思います。そして多くの市民からお言葉をいただきましたが、「ありがとうね!」という言葉が大変多く頂きました。



Jリーグクラブとして、これまで当然ながらホームタウン活動を行ってきましたが、地域に深く根ざす活動とは何か?と今まで幾度となく考えてきました。

市民がJクラブをより身近に感じていただくことはいろいろな方法であると思いますが、クラブのリソースやノウハウを最大限活用し、ホームタウンである神戸市民の安全・安心をスタジアムを通じて貢献できたことは本当に良かったと思います。

まだまだコロナウイルスとの戦いは終わっていません。引き続き、行政機関と連携し、クラブとしてホームタウンである神戸のために出来ることを考えています。

※2022年1月末から神戸市新型コロナワクチン3回目の大規模接種会場としての要請があり、再び市民の方々にノエスタでワクチンの接種を行うことになりました。



## ガイナーレ鳥取

### サッカーだけじゃない、地域で共創する夜のスタジアム 1/2

「サッカーの試合があるからスタジアムに行く」それだけではもったいない。試合がない日でも地域の方々に使っていただけるスタジアムがあってもいい。そんな思いからスタジアムの新たな活用方法を考えました。ぼんやりと夕日を眺めていると夜の帷が下り、星々が輝きはじめ、ほのか灯が浮かび上がってくる。ただただゆっくりとした時間の流れとゆったりとした空間を過ごせる場所。Jリーグ公式戦の熱狂とは対照的な夜のスタジアム。それが「夜宴スタジアム」です。行政と地域の元気な企業との共創による新たなスタジアムの使い方です。



活動場所 チュウブYAJINスタジアム



協働者

企業、行政

協働者名

米子市、光電気LEDシステム株式会社、  
中海放送テレビ株式会社、ローカルエナジー株式会社、  
デジタルハリウッド、各店舗



協働者の声 光電気LEDシステム株式会社／代表取締役 松本 俊次 氏



夜間は眠っているスタジアムをどのように活用するのか、様々なアイデアとともに色々な思いを形にする話にトキメキを感じ、一緒にお手伝いできることに喜びを感じました。人が癒され、幸せを感じ、夢を語り、絆を感じられるスタジアム。地元の方だけにとどまらず、全国の方達に楽しんでいただける場所になれると思います。



活動詳細情報

- 1 [夜宴スタジアム公式HP](#)
- 2 [公式サイト①](#)
- 3 [公式サイト②](#)
- 4 [公式Twitter](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ガイナーレ鳥取

## サッカーだけじゃない、地域で共創する夜のスタジアム 2/2

### Story

#### 1 きっかけは日本初！の市民協賛金を財源にした自前のスタジアム

クラウドファンディングが広まるよりも昔ちょうど10年前、クラブ保有のスタジアムを作りたいと3億円を目標に地域の皆様から寄付金を集めることからスタートし、2012年12月、チュウブYAJINスタジアムが完成しました。



#### 2 2021年5月に「夜宴スタジアム」がスタート！

コロナ禍で以前のように人が集まって楽しむことが困難になりましたが、スタジアムという広大な芝生広場と豊富な地下水、スタジアムから望む絶景の大山、島根半島に沈む美しい夕日、そしてきれいな星空。これらをうまく活用すれば密を避けた地域のみなさんに使っていただける空間ができると考えました。また、本プロジェクトは米子市の「新規ビジネスモデル創造支援事業」に採択され、地域の企業の方々と共創することも目的にしており、一緒に計画を進めていきました。

はじめてみると、こんな光景が広がっていました。「お弁当を買ってきて食事を外で楽しむ家族。コトに寝そべり星空を見上げる人。夫婦・恋人とまったり時間を過ごす人たち。テントの下でオンライン会議やサッカー観戦を楽しむ方。焚き火を囲んでのんびらん。カメラを構え映えスポットを探して行ったり来たりする人たち。出店している地域の飲食店のフードやスイーツで楽しむ人。



#### 3 スタジアムの地域価値をアップデートしていく。

「そこにある自然、ゆったりとした時間・空間、人々のつながり」が、スタジアムや地域が持っている本質的な価値であり豊かさであることに「夜宴スタジアム」を通して改めて気づくことができました。クラブの大目標は「スポーツを通じたひとづくり、まちづくり」。地域の方々と共創し、ビジネス生み出し、楽しんでもらえる地域のハブとして、これからも唯一無二のスタジアムとして進化してけたらと考えています。



## ファジアーノ岡山

### ホームゲームでの新型コロナワクチン接種会場設置 1/2

当初、全国的にも高かった県の接種率だが、夏頃にワクチンの供給が一時減少した影響でペースダウン。特に若年層の割合が低いことからスタジアム観戦来場者に向けて接種促進連携事業として接種会場設置依頼があった。ホームゲーム会場に接種会場を設置することで、未接種者の接種促進と県内の感染拡大防止につなげることを目的に協働した。事前予約定員120名に達し、当日会場で接種が実施された。

**活動場所** シティライトスタジアム

**協働者** 行政、公益財団法人  
**協働者名** 岡山県、公益財団法人岡山県健康づくり財団

**協働者の声** 岡山県保健福祉部保健福祉課ワクチン対策室/室長 塩飽 成史 氏

若い世代で打てていない方々にいかに(ワクチンを)打ってもらえるかこういうイベントにあわせてやってみたらというのがきっかけ。岡山県はイベントとあわせて接種会場を設けることで、若い世代へのワクチン接種の周知を図っていきたい。



#### 活動詳細情報

- 1 [岡山県公式HP](#)
- 2 [岡山県公式Twitter](#)
- 3 [公式サイト](#)
- 4 [公式Twitter](#)

#### SDGs / カテゴリー(SDGs) / 取り組みテーマ





ファジアーノ岡山

## ホームゲームでの新型コロナワクチン接種会場設置 2/2

### Story

岡山県が若年層の新型コロナウイルスワクチンの接種に力を入れている中、接種率を上げる施策を様々考えられていた。施策の一案としてスポーツ観戦来場者への周知を検討され、日頃より様々な取組連携をしている弊社クラブへ依頼があった。当初、全国的にも高かった県の接種率だが、夏頃にワクチンの供給が一時減少した影響でペースダウン。特に若年層の割合が低いことが課題であることもうかがった。喫緊の社会課題解決に向け、少しでも地域への恩返しになればという思いで協力をさせていただいた。岡山県としては、多くの方にワクチン接種ができることを周知することと、若者の接種促進

につなげることが目的でもあったため、ホームゲーム会場にてワクチン接種会場の調整を行うことにした。相談時にはすでに既存のイベント調整が済んでいる状況であったため、設置場所の調整から社内でおこなった。来場者の動線から離れていたりアクセスの悪い場所ではせっかくの取組を上手くPRできないため、多くの来場者が通る正面玄関前付近の設置を検討した。しかし十分な広さを確保できない場所であったため、弊社運営担当者に相談し、ワクチン接種に必要なスペースと現地のスペースを測定し、岡山県と岡山県健康づくり財団の3者でレイアウトを作り上げた。多くの来場者の目に触れる場所にワクチン接種会場を設置することに成功。ワクチン接種は事前申込制としたが、接種しない来場者へも視覚的にPRすることで社会課題解決に取り組んでいることをPRすることができた。また事前申込では短期間にも関わらず定員に達し、114名(予約は120%)の方が接種された。実際に接種された方は、接種する機会がなかったなどの理由だった。スタジアム観戦と合わせ、ワクチン接種可能という企画はとても相性がよく、反響もあったと実感した。



地域の課題をクラブがハブになって解決できる存在であり続けたいと改めて感じた取組となった。今後も何か困ったらファジアーノ岡山に相談してみようと思ってもらえるよう、地域の皆さんと一緒に様々なことに取り組んでいきたい。





## サンフレッチェ広島

### 街ごみから宇宙まで∞サンフレッチェ広島SDGs宣言 1/2

2021年、サンフレッチェ広島はSDGs宣言を行った。これまでの社会貢献活動などをSDGsの視点から整理しなおした。これまで展開してきた「街ごみ清掃活動」などを継続して実施していくほか、新たな協働関係として行政との連携協定を基にした「地域貢献活動」や夢・チャレンジ大使による宇宙に広がる夢を子どもたちに伝えていく「出前講座」などに取り組むこととなった。2022年、クラブ創設30周年を迎え、広島県内30の市区町との連携を一層深めるとともに、地域の産学官金すべての人々と連携・協働・協創していきます。



**活動場所** 広島市中区基町界限、広島修道学園、エディオンスタジアム、東広島市、安芸高田市愛郷小学校



#### 協働者

企業、NPO、住民、学校、行政

#### 協働者名

株式会社G-place、  
特定非営利活動法人グリーンバード、  
安芸高田市立愛郷小学校、広島県、広島県東広島市



#### 協働者の声 広島県東広島市／市長 高垣 広徳 氏



東広島市は、スポーツを通じた取組によりSDGsを推進することを目的に、包括連携協定を締結しました。女性活躍推進、教育、平和・スポーツ振興などの各分野において、サンフレッチェ広島と手を携え、「SDGs未来都市」の実現に向け取り組みを加速させ「誰ひとり取り残さない、やさしい未来都市」づくりを目指します。



#### 活動詳細情報

- [1 公式サイト①](#)
- [2 公式サイト②](#)
- [3 公式サイト③](#)
- [4 公式サイト④](#)
- [5 公式サイト⑤](#)
- [6 公式サイト⑥](#)



#### カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





## サンフレッチェ広島

### 街ごみから宇宙まで∞サンフレッチェ広島SDGs宣言 2/2

## Story

これからは「SDGs」の時代です。シャレン！キャンパスや各種講演会、経済紙でもSDGsを話題としている。そこで、社長の音頭のもと社内理解のため、叡啓大学の安井学部長に登壇いただき研修会の実施。結果、これまでの地域貢献活動を総括する形で、県立広島大学、叡啓大学、広島経済大学の諸先生方のプロボノによる検討と監修のもとサンフレッチェ広島は、10月25日SDGs宣言を行った。SDGsの視点でのまとめは端緒についたばかりであるが、街ごみから宇宙までの諸活動のあれこれを以下に述べる。



- ①街ごみ 環境保全活動を行っておられるグリーンバードさんとのコラボによる清掃活動は、4年になる。
- ②動く紙芝居 主人公である下村少年の母校である広島修道学園の協力のもと、在校生によるアフレコなどにより完成。アニメを背景に、ピアノなどの楽器の生演奏を交え、舞台での上演などに繋がっている。
- ③ピースマッチ 4年目となるヴィッセル神戸のインiesta選手の宣誓はスペイン語による発信となり、世界へ向けての力強いメッセージとなった。
- ④SDGs連携 SDGs宣言は、東広島市とのSDGsの推進に関する包括連携協定に結び付き、市とは各分野での取り組みを加速させることとなった。
- ⑤女性活躍 サンフレッチェ広島レジーナは、広島県と女性活躍に関する協定を締結し、女性活躍のためのサポートを行っている。



- ⑥宇宙 JAXAはやぶさ2プロジェクトのチームリーダーとしてご活躍の津田さんに夢・チャレンジ大使に就任頂き、湯崎広島県知事と弊社仙田社長との鼎談の中、県下8小中学校で津田大使による出前授業が実現した。  
※SDGsの視点を持つことにより、取り組みの深化につながる意欲的なご意見をいただくとともに、それぞれが派生的な活動につなげる展開も見受けられるようになった。



## レノファ山口FC

### エコな応援グッズ「竹クラーベ」による、地域課題解決 1/2

全国4位の竹林面積を誇る山口県。竹は放置すると、雑木林を侵食し、土砂崩れなど災害を引き起こす可能性もあります。レノファ山口は梶トクヤマ、周南市、サポーターをはじめ地域の皆様と共に、竹の有効活用によるエコな応援具「竹クラーベ」を制作し、地域課題の解決を図りながら、新たな応援スタイルの創出を目指します。



**活動場所** 周南市金剛山公園、徳山商工高等学校、維新みらいふスタジアム、株式会社トクヤマ



**協働者**

企業、住民、学校、行政、サポーター

**協働者名**

株式会社トクヤマ、周南市、徳山商工高等学校、サポーター



**協働者の声** 株式会社トクヤマ／友村 浩二郎 氏



放置竹林を「竹クラーベ」という応援楽器へと新しい価値に生まれ変える取り組みをレノファ山口が持つ地域と繋ぐ力・発信力等を使う事で地域に大きく上げる事が出来ました。今後は、使用済み竹クラーベをバイオマス発電の燃料とする等、地域循環共生圏へ発展させ、プロスポーツの新たな価値を見出す活動にしたいと思います。



**活動詳細情報**

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





## レノファ山口FC

### エコな応援グッズ「竹クラベ」による、地域課題解決 2/2

## Story

#### (活動の背景)

レノファ山口は、公民連携による地域課題の解決にチャレンジしています。

その中で、竹に注目した新たな取り組みを開始しました。

全国でも4位の竹林面積を誇る山口県。

竹は放置すると、土砂崩れなどの災害を引き起こす可能性があります。一方で、近年叫ばれるカーボンニュートラルの実現に向け、石炭に代わる新たなバイオマス燃料としての活用が期待されています。

(周南市・(株)トクヤマとの連携)

(株)トクヤマは、カーボンニュートラルに向けたアク



シヨンプランとして、県内の竹害問題に着目した、竹資源の発電燃料に活用する実証実験にも取り組んでおり、地域資源でもある竹を持続的に活用できる道を探っていました。また、社内制度で、通常業務とは別に、自分のやりたいテーマを基に部門の垣根を越えて集まったメンバーと共に新しい価値創造にチャレンジする「とくちゃれ」という制度があり、2021年にレノファ山口を応援すると共に、レノファの持つ力を活用して地域課題解決に取り組むPJチームが発足しました。このPJチームに、レノファ山口、周南市の職員が加わり、竹害問題への取り組みPR、環境問題に対する行動変容を地域に即すためのシンボルグッズとして、竹の打楽器「竹クラベ」が発案されました。

#### (竹クラベの製作)

竹クラベの製作は、放置竹林の伐採をレノファ社員、トクヤマ社員、周南市職員、サポーターで行い、伐採した竹の加工作業を地元の徳山商工高等学校の生徒とレノファ山口の選手にて協働で実施しました。



#### (スタジアムでの活用)

こうして製作した竹クラベは、コロナ禍で声の出せない応援が続く中で、竹を叩いて応援する新たなエコな応援スタイルとして、来場者への配布を行いました。

#### (今後の展開)

山口県全域に取り組みを拡げていくと共に、レノファ山口の新たな応援スタイルとして、「竹クラベ」をJリーグ全体に認知していただけるよう、取り組んでいきたいと思ひます。



## カマタマーレ讃岐

### 医療従事者の方への感謝プロジェクト 1/2

リモートマッチで開幕した2020シーズンから約1年、有観客で試合を開催出来ているのは、感染症と最前線で闘う医療従事者の方々のおかげです。コロナ禍で開幕した試合から約1年という節目の試合の6月26日のロアッソ熊本戦をスタートに医療従事者の方々へ感謝を伝える活動を行いました。



**活動場所** Pikaraスタジアム、香川県医師会、香川県看護協会



**協働者**

企業、NPO、住民、学校、行政

**協働者名**

一般社団法人香川県医師会、  
公益社団法人香川県看護協会



**協働者の声**

一般社団法人香川県医師会／常任理事 廣瀬 友彦 氏

昨年7月、貴社より医療従事者へ向けて、選手やサポーターの皆さまから応援メッセージが書かれたフラッグを賜りました。新型コロナウイルス感染症への対応が長期化する中、医療従事者は医療の最前線で、日々感染のリスクが伴う中で来る日も来る日も患者さんの治療や看護等に献身的に携わっており、常にこの緊張感が途切れない状況下で次第に疲労が高まっています。その中で、「ありがとう」、「がんばれ!」といった医療従事者を想う温かいメッセージは大変励みになります。現在、感染力の高いオミクロン株の出現、年末年始に人の動きが増えたことにより、香川県でも感染者が急増しています。今後も地域の流行状況を見ながら臨機応変に対応し、地域社会の発展のため、尽力してまいります。選手の皆さまにおかれましては、これからも活気あるプレーで県民に元気を与えて続けてください。今後のご活躍をお祈り申し上げます。



**活動詳細情報**

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)

3

[公式サイト③](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





## カマタマーレ讃岐

### 医療従事者の方への感謝プロジェクト 2/2

## Story

カマタマーレ讃岐ではコロナ禍で開幕した試合から約1年という節目の試合である6月26日のロアッソ熊本戦をスタートに医療従事者の方々へ感謝を伝える活動に取り組んで参りました。今、私たちが有観客で試合を開催できているのは医療従事者の方々のおかげです。何か恩返しできる事はないかとクラブで考えた結果、感謝の気持ちを形にして直接伝えることが必要ではないかと考え実行に至りました。

ロアッソ熊本戦ではスタジアムのテーマを「医療従事者の方々へ感謝」と掲げ試合会場では様々な取り組みを行いました。その一つとして医療従事者の

方とご家族の方をご招待した結果76名の方にご来場いただき試合観戦を楽しんでいただきました。そしてイベント広場では「医療従事者へ感謝を届けよう!寄せ書きブース」を設置しサポーターの方々にもメッセージをもらい、選手、スタッフだけではなくクラブに関わる人々全員で取り組みました。キックオフ前には開場全員で拍手を行い、医療従事者の方々への感謝と敬意を表しました。この試合を通して改めて有観客で試合開催できている事のありがたさと医療従事者の方々への感謝の思いを強く抱きました。

後日、試合会場で寄せ書きをしたフラッグに選手もメッセージを書き、香川県医師会と香川県看護協会の皆様のもとへ選手がお届けし直接感謝の思いを伝えました。

この活動を通じて、試合を開催できる喜びを再認識するとともに医療従事者の方々への感謝と敬意をクラブに関わる人全員で表現することができました。今後も感謝の思いを持ち感染症対策を徹底し試合を開催していきます。





## 徳島ヴォルティス

### 青春の溜まり場をめざして～VCCの活動～ 1/2

2019年7月より取り組んでいる美馬市版SIBヴォルティスコンディショニングプログラム(VCPG)。今回はその卒業生を対象にOBOG会、ヴォルティスコンディショニングクラブ(VCC)を立ち上げた。その取り組みも市民の皆さんとの取り組み。スポーツを通じて市を笑顔で元気なまちにするため、単発の企画で終わるのではなく、様々な人と様々な形で繋がり、その場所が年代性別に関係なく、あらゆる人々の【青春の溜まり場】であり続けていくことをめざして活動している。まさに継続は力なり、継続こそ力なりを頭に叩き込んで実践中。



**活動場所** ポカリスエットスタジアム、美馬市郡里小学校グラウンド(廃校)、美馬市市民サービスセンター



#### 協働者

企業、住民、学校、行政

#### 協働者名

美馬市保険健康課、大塚製薬株式会社、郡里地域まちづくり協議会、美馬市住民



#### 協働者の声 美馬市保険健康課／花岡 正昭 氏



ヴォルティスコンディショニングプログラム(VCPG)をきっかけに、徳島ヴォルティス、美馬市民が繋がり、ヴォルティスコンディショニングクラブ(VCC)が出来上がった。行政としては、側面からのサポート役を担っている。この活動で、参加者の笑顔しか見ていない。この笑顔、更には笑い声をもっと増やしていきたい。



#### 活動詳細情報

1

[公式ブログ](#)



#### カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





徳島ヴォルティス

青春の溜まり場をめざして～VCCの活動～ 2/2

## Story

「一週間のご無沙汰です！」

この挨拶を言い続けて早2年半。美馬市版SIBヴォルティスコンディショニングプログラム(VCPG)も2020年のアウォーズでパブリック賞を頂き、順調に継続中。

さて次なる一手は？と考えた時、このVCPGの卒業生も600名を超え卒業生との繋がりを続けていくためにも定期的な集まりが必要と考え、OBOG会ヴォルティスコンディショニングクラブ(VCC)を発足。今年の子な活動の中で特に、1.トップチームのホームゲーム前座でのプログラム実施。2.(競争が無い)ゆる～い大運動会の実施を紹介。



1.7月11日清水戦が美馬市民デー。活動を報告するには絶好のチャンス！しかし、大きな問題がある。それは美馬市からスタジアムの鳴門市までは高速を使っても車で約1時間半。高齢の方は行きづらい。困った。すると市からバスを出してもらえることに決定。当日は自家用車も含め111人が集合しプログラムを実施。やはり普段からのお付き合いがとても大切です。参加者から「選手と同じ芝生で体操ができて感激」「初めてピッチに立った、選手になった気分」「親と一緒に来られて嬉しい」等の感想。やって良かった。

2.は以前から温めていた運動会の実施。場所は廃校の小学校のグラウンド、人は地元協議会の協力、モノは他の小学校から借りてくる。実施理由は、①屋外で運動する機会が少ない。②コミュニケーションの場がない。③参加者のみなさんが主役となっておもいきり楽しんでもらいたい。実施後、みなさんから「自分が主役となる運動会は何十年ぶりだろう」「また来年もやってね！」等、嬉しい感想を頂く。



この場所(VCC)が年代性別に関係なく、あらゆる人々の【青春の溜まり場】としてあり続けていくことをめざして活動している。まさに継続は力なり、継続こそ力なりを頭に叩き込んで実践し続けていく。



## 愛媛FC

### プロスポーツ×松山青年会議所スクールキャラバン 1/2

愛媛県松山市内のプロスポーツチーム3チーム(愛媛FC、愛媛マンダリンパイレーツ、愛媛オレンジバイキングス)と公益社団法人松山青年会議所にて、3/7(日)「地域活性化に関する連携協定」の締結を行いました。締結以降、松山市内の小学校を中心に訪問をし、スポーツの魅力をもっと多くの子供達に知ってもらおうと実施したものです。



#### 活動場所

- ①さくら児童クラブ ②松山市立東雲小学校 ③松山市立雄郡小学校
- ④松山市立生石小学校 ⑤松山市立和氣小学校
- ⑥松山市立久米小学校 ⑦松山市立日浦小学校



#### 協働者

企業、学校、  
プロスポーツクラブ

#### 協働者名

公益社団法人松山青年会議所、  
愛媛マンダリンパイレーツ、愛媛オレンジバイキングス



#### 協働者の声

公益社団法人松山青年会議所／第69代理事長 石原 将樹 氏



スポーツは子どもたちに多くの力を与えることができます。しかし、コロナ禍において子どもたちのスポーツ体験の機会も減少し、成長の機会が失われています。今回の取り組みにより、コロナ禍でも、多くの子供達にスポーツの力を体感してもらい、様々なものを吸収し、将来に役立てて欲しいと考えています。最後になりますが、愛媛FCの皆さまのおかげをもちまして今回の取り組みを貫徹できましたこと、心から感謝申し上げます。



#### 活動詳細情報

- 1 [公式Facebook](#)
- 2 [松山青年会議所公式Facebook](#)
- 3 [愛媛CATV公式Youtube](#)



#### カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





愛媛FC

## プロスポーツ×松山青年会議所スクールキャラバン 2/2

### Story

2021年3月7日(日)に、「地域活性化に関する連携協定」を公益社団法人松山青年会議所と、愛媛県松山市を拠点とするプロスポーツ3チーム(愛媛FC、愛媛マンダリンパイレーツ、愛媛オレンジバイキングス)が締結をいたしました。

この協定をもとに、松山市の将来を担う子ども達にプロスポーツチームとの交流の機会を設け、スポーツに対する関心や愛着を高めてもらうべく今回の「スクールキャラバン」を松山青年会議所に企画していただいたものとなります。



今回の企画は、プロスポーツチーム3チームが松山市内の小学校を合同で訪問することで、訪問した学校の子どもたちに多様なスポーツ体験の機会を与え、多くの子供たちにスポーツの楽しさを知ってもらおうというものになります。各訪問校で、サッカー・野球・バスケットボールをそれぞれ体験でき、またプロスポーツチーム選手からレクチャーをされ交流することで、プロスポーツチームを身近に感じてもらった活動となりました。スクールキャラバン実施後は参加した児童たちにオリジナルの「プロスポーツ選手カード」をプレゼントしカードを試合会場に持参することで、プロスポーツの試合を無料で観戦が出来るような機会も設けて頂きました。

コロナ禍の中で、愛媛FCとしても思うような活動が出来ていない中で、今回の活動が出来たことは新たなファンづくりのために大変重要な機会でした。





## FC今治

### 無人島ゴミ拾いプロジェクト 1/2

JT SDGs貢献プロジェクトの助成を受けて中学生以上を対象に、1泊2日で今治市の無人島・平市島に行き、ごみを拾い、集めたごみを資源としてコースターやリフトレイに作り変えるというプロジェクトを実施。「ごみ」として捉えると捨てられてしまうものも、「資源」として捉えると、それは新たなモノを作り出す材料となるといった視点を糸口に企画した。ホーム試合会場にて参加者より報告会を行い、試合終了後には共感いただいたサポーターの皆さんと一緒にスタジアム周辺のゴミ拾い活動を実施して海ごみ問題を一緒に考えた。



**活動場所** ありがとうサービス、夢スタジアム®、しまなみアースランド、平市島(今治市)



#### 協働者

企業、住民、行政

#### 協働者名

株式会社テクノラボ、日本たばこ産業株式会社、今治市教育委員会、愛媛県教育委員会、愛媛県漁業協同組合桜井支所、今治市桜井財産区



#### 協働者の声 株式会社テクノラボ／林 光邦 氏、小槻 あずさ 氏



海で拾ったごみを、ごみそのものの色や模様を活かした美しいプロダクトに変身させ、ごみ問題を考えるきっかけを作るお手伝いをさせていただきました。夏は暑く冬は寒い地域で日々ごみ問題に取り組む姿勢と、サポーターの方々や地域の皆さまと地域を良くしていこうという熱意に心より尊敬の念を送ります。



#### 活動詳細情報

- 1 [公式note](#)
- 2 [特設note\(しまなみ野外学校\)](#)



#### カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





FC今治

## 無人島ゴミ拾いプロジェクト 2/2

### Story

#### 想い

世界で年間800万トン以上のプラスチックごみが海に流れ、海洋汚染や生態系に影響を与えています。ビーチクリーンだけではなく、日々取り組んでいかないと、海洋ごみは減りません。しかし、「ごみ」を「資源」として捉えると、それは新たなモノを作り出す材料となります。そんな視点を糸口に、無人島という自然に囲まれた舞台で海洋プラスチックごみ問題を考えるきっかけをつくりたいと企画したものです。



#### きっかけ

テクノラボさんの海洋プラスチックごみをアップサイクルした工芸品「buøy(ブイ)」との出会いが、きっかけでした。

もうひとつのきっかけは、ホーム戦のスタグルです。屋台の食器は、食べてすぐごみになってしまいます。全体を見るとそのごみの量は膨大になります。

このふたつがきっかけとなり、「ごみから食器が作れるのでは？」と考えました。ゆくゆくは、里山スタジアムの食器をすべてごみ資源から作りたい。しかもリユース食器として何度も使えるようにしたい、という目標の第一歩としたのが、このプロジェクトでした。

#### グッズ販売経緯

サポーターさんにも一緒に海ごみ問題を考えるきっかけとして試合終了後にゴミ拾い活動も合わせて実施しました。100人以上のサポーターが集まってくれて、もしかしたら、こちらが思う以上に反響があるのかもしれないと考えました。



「商品売る」というよりも「ストーリーを伝える」という意味で今回のトレイやコースターを販売すれば、想いがもっと伝わるかもしれないと社内で話になり、そこから今回のグッズ販売が実現しました。

#### 展望

参加者自身、グッズを手にとってくれたファンの方々が、なんだか楽しいな、ステキだなと感じてもらいたい。そして、興味をもってもらいたい。それが、海ごみの問題、環境問題への取り組みを広げていく第一歩だと感じています。今後もたくさんの人と、心で繋がっていきたくらいです。



## アビスパ福岡

### アビスパ福岡選手会 smileプロジェクト 1/2

アビスパ福岡選手会は、2017年に発生した「九州北部豪雨」をきっかけに被災地との交流を開始し、その後「アビスパ福岡選手会smileプロジェクト」として様々な活動を続けています。「はかた伝統工芸館」とコラボすることで福岡・博多の伝統工芸との相互応援企画として選手30名が絵付けしたオリジナルのアビスパ福だるま！（博多人形だるま）をチャリティー販売しました。販売の収益にて、無事にサッカーを行えることに感謝して、最前線で闘い続けてくれている医療従事者とご家族の皆様を試合に招待しました。



**活動場所** 雁の巣レクリエーションセンター、ベスト電器スタジアム、はかた伝統工芸館



**協働者**

企業、行政、博多人形師

**協働者名**

はかた伝統工芸館、株式会社エコア



**協働者の声** はかた伝統工芸館／八田 美穂子 氏

今回の「アビスパ福岡選手会 smileプロジェクト」の活動は、福岡・博多の伝統工芸(文化)の振興とスポーツ文化の振興を目的に相互で活動することで、これまでにない幅広い層の方々へ情報発信、PR、社会貢献活動に繋がったと思います。この活動は引き続き継続していきたいと思っています。



**活動詳細情報**

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [公式サイト④](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





アビスパ福岡

## アビスパ福岡選手会 smileプロジェクト 2/2

### Story

アビスパ福岡選手会及びアビスパ福岡は、2017年に発生した「九州北部豪雨」をきっかけに被災地との交流を開始し、2018年からは、「アビスパ福岡選手会smileプロジェクト」として企業や地域の皆さまからのご協力をいただき、被災地との交流を継続しています。

また、2019年度からは難病と闘う子どもたちへの訪問活動を開始し、子どもたちが「笑顔」になれる活動を実施してきました。

今回は、「はかた伝統工芸館」とコラボし福岡・博多の伝統工芸との相互応援企画として選手30名が

絵付けしたオリジナルのアビスパ福だるま！（博多人形だるま）をチャリティー販売しました。その販売の収益と株式会社エコアを代表する企業からのご支援もいただき、我々が無事にサッカーを行えることに感謝して、最前線で闘い続けてくれている医療従事者とそのご家族の皆様を試合に招待しました。「Thank you for to all frontline workers プロジェクト！」をスローガンに選手全員の感謝メッセージ放映([公式Youtube](#))、横断幕を持って場内一周を行い来場者と感謝の気持ちをお届けしました。

今回関わっていただいた博多人形師の田中勇氣さんのコメントを紹介します。「勝負の世界で活躍するサッカー選手とのコラボはとても刺激的で、博多人形の新しい一面を自分自身でも垣間見ることができました。個性的なダルマ達をスタジアム及びはかた伝統工芸館にて展示、博多人形への興味を多くの皆様にもっていただけて嬉しいです。」

今後も地域の皆さまや子どもたちが、笑顔になれるようにSmileプロジェクト活動を続けたいと思います。





## ギラヴァンツ北九州

### SDGsプロジェクト第3弾「ギラファーム」 1/2

株式会社ナフコ×浅野社会復帰センター×ギラヴァンツ北九州の協働プロジェクト。ナフコ小倉南店のスタッフに野菜の育成ノウハウを教えてもらいながら、ファームでの畑の育成から、さつまいも・落花生、ハーブの苗植え収穫までを実施。苗植えはギラヴァンツ北九州サッカースクールの生徒に、秋の収穫からホームゲームでの販売はトップチームの選手と浅野社会復帰センターご利用の皆様にお手伝いいただきました。ホームゲーム等で販売した売上は浅野社会復帰センターにご活用いただきました。



**活動場所** 足立農園、ミクニワールドスタジアム北九州



**協働者**

企業、住民、  
行政(指定管理者)

**協働者名**

株式会社ナフコ、  
北九州市立浅野社会復帰センター  
(指定管理者:社会福祉法人北九州精神保健福祉事業協会)



**協働者の声** 北九州市立浅野社会復帰センター／武谷 祐子 氏



ギラファームで地元企業の方や選手の皆様と一緒に活動でき、大変貴重な体験をすることができました。障がいのある方が農作業や販売など、経験したことのない仕事に取り組めたことで、自分達も地域の一員として貢献できると自信ができました。また、参加者の意欲が非常に高く、地域と連携した活動の必要性を実感しました。



**活動詳細情報**

1

[公式サイト](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





ギラヴァンツ北九州

## SDGsプロジェクト第3弾「ギラファーム」 2/2

### Story

ギラヴァンツ北九州では昨年「With KITAKYUSHU SDGプロジェクト」を始動しました。

第3弾として、「株式会社ナフコ」×「北九州市立浅野社会復帰センター」×「ギラヴァンツ北九州」の3者による「ギラファームプロジェクト」を実施し、ファームの育成からサツマイモ・落花生・ハーブの苗植え、収穫、販売までを約半年かけて行いました。

トップパートナーであるナフコ様と地域貢献活動を一緒にできないかという想いから始まったこのプロジェクト。



今回、ナフコ様には農作物を作る技術指導、日常のお手入れなどのご協力をいただきました。その中で、苗植えはギラヴァンツ北九州のスクール生に、収穫と販売はトップチームの選手と一緒に浅野社会復帰センターの皆様それぞれご協力いただきました。

サツマイモ・落花生共にホームゲームでの販売を予定していましたが、落花生のみ収穫が間に合わず、ミクニワールドスタジアムで実施したアウェイゲームのパブリックビューイングイベントにて追加販売をしました。販売については、SNSでの事前告知により、開場直後から多くの購入者が並び、販売開始後30分ほどで完売しました。浅野社会復帰センターの方々が販売に必要なポップやブースレイアウトなどを工夫し売り場を装飾いただいた事、Jリーグ新人研修の一環で対象選手3人と浅野社会復帰センターの方々が一緒になって収穫できた事も大きかったのではないかと思います。

今回、浅野社会復帰センターの皆様には外部の企業、サポーターとの関りを通じて社会とのつながりを実感していただくことができました。



その中でも参加者の方に「自分達も地域の一員として貢献できると自信がついた」との声をいただき、今回の様な地域貢献活動を今後も継続的に行っていきたいと思います。

今後は新たな農作物の育成に取り掛かると共に、新たな協働団体を増やしながら、地域社会とのかかわりを深めていきたいと思います。



## サガン鳥栖

### 鳥栖北地区新花いっぱい運動 1/2

サガン鳥栖が長年、交通安全のためにランドセルカバーを佐賀県内の小学1年生に配布しており、今回は鳥栖北小学校の1年生とその保護者の方と一緒に「子ども見守り隊」のさんに感謝の気持ちを伝えるために、お花を植えました。



活動場所 鳥栖北小学校



協働者

住民、学校、行政

協働者名

鳥栖北小学校PTA、鳥栖市役所、  
鳥栖北地区まちづくり推進協議会、  
グリーンファーム山浦



協働者の声

鳥栖市 スポーツ振興課／桑山 貴大 氏



小学1年生とその保護者とともに、クラブ、地区のまちづくり推進協議会委員の皆さんで花の寄せ植え作業を行いました。あいにくの天気でしたが、会場は活気にあふれており、クラブが地域にもたらす影響の大きさを改めて実感する機会となりました。



活動詳細情報

1 -



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





サガン鳥栖

## 鳥栖北地区新花いっぱい運動 2/2

### Story

サガン鳥栖は2016年より、佐賀県内の全小学1年生に交通安全対策の一環としてランドセルカバーの配布を行い、地域の交通安全に携わってきました。でもランドセルカバーの始まりは2013年鳥栖・三養基地区の子どもたちからでした。地域の子どもたちが安心して笑顔でいられる、そんな地域でありたい、との願いからスタートしまして10年。佐賀県内に広がった地域の皆さんによる子どもたちの安全見守り活動としてのランドセルカバー配布。それが今度はホームタウン鳥栖市にある鳥栖北小学校の1年生から、毎朝見守ってくださる地域の方々への感謝を込めて花植えをランドセルカバーのデザインに

なっているサガン鳥栖オフィシャルマスコット「ウィントス」と一緒にプレゼントしました。地域の安全を見守る活動が広がり、その優しいまなざしは、子どもたちの優しさにつながり、きれいな花でつながる形となって、子どもたちが楽しく笑顔で過ごせる「まちづくり」が広がってきました。





## V・ファーレン長崎

### 雲仙普賢岳災害から30年をきっかけに防災について考える 1/2

雲仙普賢岳の噴火災害から30年という節目の年を迎え、V・ファーレン長崎のファン・サポーターはもとより、全国の多くの方の防災意識の向上を目指し様々な活動を展開した。新人研修の一環として鎌先祐弥選手が防災担当として被災地の今を学び、発信する役割を担った。また日本赤十字社の協力のもと、親子で学ぶ防災×サッカー教室を実施した。また、9月1日の防災の日に合わせて、日本赤十字社を講師に招き社内研修を実施し、その後開催された「ソナエルJapan杯」にクラブを挙げて取り組み、優勝することができた。



#### 活動場所

島原市／南島原市(被災地域)、雲仙岳災害記念館(がまだすドーム)、南島原市立大野木場小学校、トランスコスモススタジアム長崎、長崎市総合運動公園



#### 協働者

企業、住民、学校、行政、ファン・サポーター

#### 協働者名

島原市・南島原市、公益財団法人雲仙岳災害記念財団、日本赤十字社長崎県支部、株式会社山善、V・ファーレン長崎ファン・サポーター



#### 協働者の声

雲仙岳災害記念館(がまだすドーム)／北島 寛之 氏



雲仙普賢岳噴火災害から30年を迎えた2021年、私達はV・ファーレン長崎の皆様と共に災害を風化させない取り組みにチャレンジしました。新人選手の研修をはじめ、大野木場小学校への訪問活動、「いのりの灯」での連携した活動などを通じて、多くの方々に普賢岳噴火災害の教訓と防災の重要性を伝えることができました。



#### 活動詳細情報

- 1 [公式Youtube①](#)
- 2 [公式Youtube②](#)
- 3 [Jリーグ公式Youtube](#)
- 4 [Sportsnavi記事](#)



#### カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





## V・ファーレン長崎

### 雲仙普賢岳災害から30年をきっかけに防災について考える 2/2

## Story

雲仙普賢岳噴火大災害から30年を迎え、その記憶を語り継ぎながら、近年更に高まる災害危機についての意識を高めようと、防災教育に取り組んだ。Jリーグ新人研修の一環として鎌先祐弥選手が、一連の活動に臨んだ。

まず、島原市／南島原市のご協力のもと噴火災害について、がまだすドームの展示室やフィールドワークを通じて学び、その思いを当時火砕流によって全焼した南島原市立大野木場小学校の児童達に発表した。また、被災日である6月3日に「がまだすドーム」で開催される慰霊祭“いのりの灯”で展示されるキャンドルを児童達と共に作成した。



キャンドルには、所属全選手の慰霊メッセージを書き込み、慰霊祭後はホームゲームでもブースに設置。そこでは火砕流によって溶けた木やガラスなども展示し、来場者に改めて防災意識の向上を訴えかけた。これら一連の流れを「V・シャレン！」と銘打ち、クラブ公式YouTubeにて配信した。共に学んだ児童はホームゲームにも招待し、交流を深めることもできた。

7月には日本赤十字社長崎県支部との協働により、「防災×親子サッカーイベント」を実施した。災害時の避難について親子で学びを深め、終了後は親子でサッカーを楽しんだ。そこではスポンサーである「株式会社山善」の防災リュックを紹介。日頃の備えについての意識を高めた。

9月1日の防災の日に合わせ、日本赤十字社長崎支部から講師を招いて社内研修を実施し、災害時の応急処置や避難場所での過ごし方について学んだ。その様子は公式YouTubeの「潜入ヴィヴィくん」にて紹介。この後「ヤフー防災模試ソナエルJapan杯」にファン・サポーターと共に取り組み優勝することができた。副賞である電子ホイッスルは、長崎県



サッカー協会や自治体、長崎県障害者スポーツ協会等に配付し、防災意識向上につなげてもらっている。

雲仙普賢岳噴火大災害30年をきっかけでもあったが、これからも活動を継続し、防災意識の維持に貢献していきたい。



## ロアッソ熊本

### ロアッソ熊本 産学連携プロジェクト2021 1/2

ロアッソ熊本では、クラブ理念にも掲げている「熊本に活力を生むためにはどうすればいいのか?」という地域課題と向き合っていく中で、「熊本の未来を担う若い人達が生き生きと働ける地域を創っていくこと」がその課題解決手段の一つと考えました。その取り組みの一環として、パートナー企業の(株)マイナビと協働し、コロナ禍でも、県内の魅力あふれる企業の皆様と連携しながら、インターンシップを通じて学生のキャリアづくりをサポートしていく「ロアッソ熊本 産学連携プロジェクト2021」をスタートさせました。



**活動場所** えがお健康スタジアム、SAKURA MACHI Kumamoto、JA菊池 西宮農センター、JA菊池管内農地、オンライン上



#### 協働者

企業、農業団体、学生

#### 協働者名

株式会社マイナビ、九州産交ランドマーク株式会社、株式会社ジェイコム九州 熊本局、菊池地域農業協同組合(JA菊池)



#### 協働者の声 九州産交ランドマーク株式会社／本田 萌華 氏



今回初めての試みで当初は不安がありましたが、積極的に行動する学生が多く、みんなで一つの物を作り上げ、実際にお客様と触れ合い、楽しみながら活動する姿が見られ、私達も刺激を受けました。参加した学生からは、次回も参加したい、この経験を就活に活かしていく等の声があり、本企画が地域活性の一助となれば幸いです。



#### 活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [熊本学園大学HP](#)
- 5 [JA菊池HP](#)



#### カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ロアッソ熊本

## ロアッソ熊本 産学連携プロジェクト2021 2/2

### Story

6-7月に実施したプロジェクト第1弾は、県内有数の商業施設であるSAKURA MACHI Kumamotoの運営会社九州産交ランドマーク(株)と連携し、「SAKURA MACHI Kumamoto 実践！プロモーション活動5Daysインターンシップ」を実施しました。募集要項は(株)マイナビのネットワークを活用し、県内大学へ展開。クラブオウンドメディアと併せて参加学生を募りました。学生には、PR広告を企画・デザインしてもらい、その広告入れた1000枚のうちわを、クラブのイベントにてファン・サポーターの皆さんへ配布しました。また、配布したうちわの裏面を使用し、ファン・サポーターが



自由に選手の背番号や名前をデコレーションできるワークショップも同日開催。実際に自分達が試行錯誤しながら作った広告入りのうちわで、お客さんが喜んだり、楽しんだりする姿を直に感じることができて、学生達も本当に感激していました。8-10月に実施した第2弾の(株)ジェイコム九州熊本局との連携では、「J:COM 実践！番組制作体験4Daysインターンシップ」と題し、ロアッソ応援番組の企画・取材までを学生が体験。コロナ禍のため、オンラインでの企画会議となりましたが、そういった状況下でも、学生の皆さんによる様々なアイデアのおかげで、新しい切り口での番組コーナーが完成しました。イメージだけとは違って、実際に体験することでその仕事の大変さやチームで一つのものを創ることの楽しさを感じてくれたようです。そして、10月に実施した最終第3弾では、JA菊池と連携し、「秋すいかの収穫・選果・販売の仕事全て体験！JA菊池2Daysインターンシップ」を実施しました。コロナ禍で農業に関わる仕事を志す学生の実践機会が減る中、直接農家さんやJA職員、消費者の皆さんと触れ合えるとても貴重な体験となったようです。



今後とも、ロアッソ熊本では、県内企業の魅力を発信し、若い人達が生き生きと働くことができる地域づくりに積極的に取り組んでいきます。



## 大分トリニータ

# コーヒー豆の販売で障がいの有る方の就労支援 1/2

障がいの有る方の就労を支援されている合同会社スペシャルサポート様、福祉事業所様と一緒に、障がいの有る方の就労支援を目的としたコーヒー豆の販売を行いました。取り組みを行う事で、どちらかが一方的に支援を受けるのではなく、互いに支え合う仕組みを構築しました。



**活動場所** 昭和電工ドーム大分、大分県内



**協働者**

企業、NPO

**協働者名**

合同会社SPECIAL SUPPORT、福祉事業所



**協働者の声**

合同会社SPECIAL SUPPORT／代表取締役 藤井 契 氏



支援を一方通行で終わらせないシステムの構築を目指しました。クラブ、福祉事業所、弊社の3つの組織で支えあい障がいのある方たちの生活の質の向上に寄与しています。これまで支援を受けることが多かった障がいのある方たちが、地域のプロチームを支えるという新たな取り組みが広がるよう、私たちはチャレンジを応援します！



**活動詳細情報**

1

[公式サイト](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





大分トリニータ

## コーヒー豆の販売で障がいの有る方の就労支援 2/2

### Story

合同会社スペシャルサポート様と福祉事業所様との協同で、障がい者の就労支援を目的としてコーヒー豆の販売を行いました。

2者は以前より障がい者の就労支援を行っており、今回大分トリニータと一緒に就労支援として何か出来ないかとの相談を受けました。

現在の課題として挙げたのが「障がい者の出来る仕事が少ない」「賃金が低い」などでした。様々な協議をした結果、大分トリニータのロゴが入ったパッケージに入れたコーヒー豆を販売する事で、障がいの有る方の支援に繋がる事が分かりました。



具体的な支援の内容としては、コーヒー豆の焙煎・袋詰・発送などの作業を福祉事業所で行うことで、障がい者の方が出来る仕事が増えるという事。販路が増える事で、売上が増え結果的に労働者の賃金を支える事が出来るという事でした。

チームとしては、従来のインターネット販売だけでなく、ホームゲーム時の試合会場での先着1,000名様への試供品の提供の実施や試合会場での販売、SNSでの継続的な告知や第2弾としてコーヒーキャニスターの販売を行う事で、多くの方に今回の取組や、障がい者の労働環境の現状について知って頂けるように勤めました。

売上金については、障がい者の方の賃金と、一部を大分トリニータの強化費とさせていただきます。結果的に多くの方に今回の活動を知っていただき、またコーヒー豆もサポーターの方に好評で継続して購入して頂けるようになりました。

単純な就労支援やチームへのスポンサー度だけでなく、互いが支え合うシステムが出来上がり、今後も継続して活動が出来る内容となりました。





## テゲバジャーロ宮崎

### 愛あるごはんを届けよう！プロジェクト 1/2

地域の交流の場であり、また子どもの貧困対策という役割がある、子ども食堂に対して公式戦で勝利した場合、協賛企業から集めた食材や備品をお届けする活動です。2021年は、宮崎市26カ所・新富町1カ所の子ども食堂に9回届けることができました。

「クラブは試合に勝利し、届けよう」、「協賛企業の皆様と一緒に届けよう」、「サポーターの皆様を後押しに勝利し、届けよう」という想いを込めて選手、協賛企業、サポーターの皆様と一緒に愛あるごはんを、もっと多くの子ども達に届けられるよう、この活動を大きくして参ります。



**活動場所** 支え合いの地域づくりネットワーク団体、宮崎市内の子ども食堂、新富町内の子ども食堂



#### 協働者

企業、NPO、行政

#### 協働者名

支え合いの地域づくりネットワーク団体、  
江夏商事ホールディングス株式会社、  
ひいらぎホールディングス株式会社、  
宮崎県農協果汁株式会社、児湯養鶏農業協同組合、  
宮崎市役所 子ども未来部 子育て支援課



#### 協働者の声

支え合いの地域づくりネットワーク／こども食堂コーディネーター 黒木 淳子 氏



「サッカー選手初めて見たよ！！」「何を食べたらそんなに大きくなれるの？」初めて会うプロの選手に、子どもたちは興味津々。「先週、テゲバ勝ったね」と嬉しそうに話をする子どももいました。様々なご支援や選手とのふれあいを通じて、地元にはサッカーチームがある事を知り、スポーツを身近な物に感じられたと思います。



#### 活動詳細情報

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)



#### カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





テゲバジャーロ宮崎

愛あるごはんを届けよう！プロジェクト 2/2

## Story

地域の交流の場であり、さらには子どもの貧困対策という大きな役割ももつ子ども食堂は、全国に増えつつあります。しかし、子ども食堂の運営には人、場所、食材の確保等、課題も多くあります。そのような現状を知ったテゲバジャーロ宮崎は、クラブとして力になれることとして全ての公式戦(ホーム・アウェイ、天皇杯等)で勝利した場合、子ども食堂に食材や備品を寄付させていただき「愛あるごはんを届けよう！プロジェクト」を始めました。



勝利した翌水曜日に、子ども食堂を支援している支え合いの地域づくりネットワーク団体様に協賛企業様よりご提供いただいた食材、備品をお届けします。協賛企業様は、この取り組みについてご相談すると快くこの活動に賛同して下さり、勝利のたびに食材や備品を提供していただきました。

選手やスタッフが食材や備品を届け、時には子ども食堂へ伺い、お届けした食材を使用したごはんと一緒に食べることもあります。実際に子ども食堂へ訪問することで、子ども達や地域の様子を近くで感じることができ、選手も次の試合に向けてモチベーションを上げることができました。

提供して下さった食材や備品は、2021年は、宮崎市と新富町の子ども食堂にお届けさせていただきました。

プロジェクトが始まってから私たちは、「クラブは試合に勝利し、届けよう」、「協賛企業の皆様と一緒に届けよう」、「サポーターの皆様の応援を後押しに勝利し、届けよう」と、皆様と一緒に愛あるごはんを



届けよう！という想いを込め活動をしてきました。クラブだけで活動をするのではなく、協賛企業、サポーターの皆様と共に思いを1つにして活動をし、食材、備品を提供しています。

今後も、選手、協賛企業、サポーターの皆様と一緒に戦い、この活動を継続的かつ拡大していけるよう励んで参ります。



## 鹿児島ユナイテッドFC

### 田上裕 応援リーダー～未来の天下の大將軍～ 1/2

2019年末の現役引退後「応援リーダー」に就任した田上裕。「鹿児島でがんばる老若男女の挑戦を応援したい」と講演、お祭り、YouTubeと走り続けています。その情熱が多く期待を集め、活用されています。例えば「鹿児島応援！ユナイテッド飯」。コロナ禍で苦しむ飲食店を応援するために、各店のテイクアウトを紹介する番組のレポーターです。それ以外にも「人権啓発に田上」「鹿児島の名産品発掘に田上」と様々な人と人が連携する場で顔を務めています。元Jリーガー田上裕は、その肩書にとどまらない存在感を発揮しています。



#### 活動場所

鹿児島市をはじめ離島を含めた鹿児島県全域、  
クラブ公式YouTubeチャンネル



#### 協働者

企業

#### 協働者名

株式会社シイツウ、KTS鹿児島テレビ、  
鹿児島地方法務局、鹿児島県人権同和对策課



#### 協働者の声

株式会社シイツウ／深尾 礼武 氏



「鹿児島を応援する」番組企画を考える時に、「応援リーダー」が浮かびました。田上君は昔からよく知っていましたが、元気があって、みんなに対する感謝があって、飲食店を相手にした番組にハマるだろうと期待がありました。食レポとか初めてでも、元気でなんとかなるだろうと(笑)。これからの活躍にも期待しています。



#### 活動詳細情報

1

[公式サイト](#)

2

[協働社HP](#)



#### カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





鹿児島ユナイテッドFC

田上裕 応援リーダー～未来の天下の大將軍～ 2/2

## Story

Jリーグ通算43試合出場、得点0。田上裕に目立った実績はありませんが、前向きに元気にチームを牽引し、とことんファンを大切にしている人間性があり、引退後の応援リーダー（アンバサダー）就任は、誰もが納得しました。

とはいえクラブにノウハウの蓄積は乏しく、しかもコロナ禍のご時世。

そんな中でも田上は「今の自分にできること」を全力でやり続けています。

公式YouTube番組をみずから企画し、毎週20時間以上かけて動画を編集し、クラブと周辺のことを発信する。年30回もの講演では「ひとつでも子供



たちの心に残るように」とエリートとは無縁な自身の体験を語り、サッカー教室では「チームとしてお互いを大切にする」との精神をも伝える。周囲がその仕事ぶりに満足しても、本人は「もっとうまくできる」と改善を怠らない。

実際にひとつひとつの現場で結果を出し続けることで、「鹿児島で何かをする時に、プラス田上裕」と考える人たちが増えてきました。

KTS鹿児島テレビで毎週火曜日に放送される「鹿児島応援！ユナイテッド飯」はその好例です。コロナ禍で苦しい飲食店を応援するために、「鹿児島飲食応援サポーター」として飲食店を巡ってテイクアウトをご紹介します。全力かつ丁寧なレポートで、鹿児島の食と、皆さんの想いを発信しています。さらに同番組は、鹿児島を代表する観光スポットでテイクアウトを楽しむという新展開を魅せています。

人権啓発においては、街頭運動や小学校での教室やCMに起用されて「共生社会のイメージリーダー」にもなりつつあります。



鹿児島の「元気」の象徴になりつつある田上裕ですが、彼が目指すのはもっと多くの人に知ってもらい、頼りにされて、その期待に応えられる人間＝「天下の大將軍」になること。

さらに大きな存在となり、人の想いと想いがつながる、その場の顔・核としての役割を果たせられるように、日々感謝の気持ちを忘れずサッカー選手だった頃と変わらぬ情熱で走っています。



## FC琉球

# FC琉球 県産品&子ども応援プロジェクト 1/2

FC琉球、イオン琉球、沖縄県の協働で、コロナ禍で影響を受けている県産品を活用した「琉球応援弁当」や「アスリートレシピ」を企画開発し、FC琉球とイオンのコンテンツやメディアを活用したプロモーション及びイオン店舗での「琉球応援弁当」の販売により、県産品の流通を促進した。また、「琉球応援弁当」の県内子供食堂への寄付(計5000食)を通じた選手と子供達との交流により、コロナ禍の影響を特に受ける困窮家庭の子供達への食糧支援と合わせ地元プロサッカー選手との交流を通し夢や目標を持つことでの自立支援も目指した。



### 活動場所

沖縄県内各所(本島・宮古島・石垣島)の子供食堂及びイオン店舗、タピック県総ひやごんスタジアムなど



### 協働者

企業、NPO、行政

### 協働者名

イオン琉球株式会社、沖縄県商工労働部、おきなわこども未来ランチサポート(沖縄県委託事業)、東京バス株式会社



### 協働者の声

イオン琉球株式会社 / 島袋 理奈 氏



この取組みを通し地域の農家の方々や多くの子供達からたくさんの「ありがとう」の声を頂きました。また「地域にはまだまだ素晴らしい素材がたくさんある」ということにも気づかされました。これをきっかけに地域の産品を掘り起こし、県内外にその魅力を広げていく活動が一層加速し、社の大きな方針の一つになりました。



地元で(もずくを)食べてもらうパーセンテージを

### 県産品活用、子ども支援

FC琉球とイオン 弁当販売、配布も

#### FC琉球県産品応援プロジェクト

OKINAWA

FC琉球県産品応援プロジェクトを発表する小川淳史社長(右から2人目)ら関係者=5日(提供)

通促進と、  
場にいる子  
・自立支援  
プロジェクト  
産品応援フ  
開始を発表  
両社が県  
らそれぞれ  
ワークを活  
水産物を使  
弁当(税  
を販売する  
と向けレシ  
ど幅広くア  
展開する。  
プロジェクト  
等活用公募  
る。期間は  
弁当はおき  
ランチサポ  
月約700



### 活動詳細情報

- 1 [プロジェクト特設WEBサイト](#)
- 2 [クラブ公式リリース](#)
- 3 [タウン情報メディア記事](#)



### カテゴリー(SDGs) / 取り組みテーマ





FC琉球

## FC琉球 県産品&子ども応援プロジェクト 2/2

### Story

沖縄県はコロナ感染状況が全国でも突出しており、主要産業の観光業への打撃は当然のこと、観光立県として多くの産業が観光と結び付いているため特に農水産業への支援も必要であった。また、非正規雇用率及び子供貧困率が全国ワーストの沖縄県において特にコロナ禍が困窮家庭の子供達に追い打ちをかける状況であり、子供支援も急務であった。地元小売大手イオン琉球と連携し、沖縄県等から紹介を受けたコロナ禍の影響が大きい農水産品を使った琉球応援弁当を開発し、選手が農家や漁師を訪問し弁当を開発する過程やアスリートや子供の発育への県産品の有効性や活用レシピを地上波TV



番組やWEBで紹介することなどで県産品がコロナ禍による影響を受けている実情や県産品の魅力の発信、新たな需要掘り起こしを実現した。合わせてイオン店舗やスタジアムイベントで琉球応援弁当や紹介した県産品を販売することで直接的な流通促進にも寄与することができた。

また、困窮家庭の子供への支援として琉球応援弁当5000食を県内の子供食堂に寄付した。子供食堂との交流を通じコロナ禍により学校行事が無くなる中で特に困窮家庭の子供には食糧以外に社会的・文化的経験も不足している現状に気付き、本PJではバス会社の協力も得て215名の子供達をホームゲームに招待しJリーグ観戦しながら琉球応援弁当を食べる企画や選手と子供の県産品食育教室も実施し、地元プロサッカー選手との交流を通じ夢や目標を持つことでの自立支援も目指した。

なお、本PJは休眠預金等活用公募事業に採択され、弁当寄付費用等を拡充できた。

これらの一連の活動はクラブの発信力も活かし県内のTVニュース(3社)や新聞(4社)、WEBメディア等を通して広く周知された。



本PJに参加した企業、団体、自治体からは活動の継続を望まれており、農水生産者と子供達を繋ぎ同時に支援するシャレンプラットフォームとして定着させていきたい。